

Striker II
Formula

ASUS[®]

Motherboard

J3611

初版

2008年 5月

Copyright © 2008 ASUSTeK COMPUTER INC. All Rights Reserved.

バックアップの目的で利用する場合を除き、本書に記載されているハードウェア・ソフトウェアを含む、全ての内容は、ASUSTeK Computer Inc. (ASUS)の文書による許可なく、編集、転載、引用、放送、複写、検索システムへの登録、他言語への翻訳などを行うことはできません。

以下の場合には、保証やサービスを受けることができません。

- (1) ASUSが明記した方法以外で、修理、改造、交換した場合。
- (2) 製品のシリアル番号が読むことができない状態である場合。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理店は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害(利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む)に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

ASUSは、本マニュアルについて、明示の有無にかかわらず、いかなる保証もいたしません。ASUSの責任者、従業員、代理店は、本書の記述や本製品に起因するいかなる損害(利益の損失、ビジネスチャンスの遺失、データの損失、業務の中断などを含む)に対して、その可能性を事前に指摘したかどうかに関りなく、責任を負いません。

本マニュアルに記載の製品名及び企業名は、登録商標や著作物として登録されている場合がありますが、本書では、識別、説明、及びユーザーの便宜を図るために使用しており、これらの権利を侵害する意図はありません。

もくじ

もくじ	iii
ご注意	viii
安全上のご注意	ix
このマニュアルについて.....	x
Striker II Formula 仕様一覧.....	xii

Chapter 1: 製品の概要

1.1 ようこそ	1-1
1.2 パッケージの内容.....	1-1
1.3 独自機能	1-2
1.3.3 製品の特長	1-2
1.3.2 ROGのインテリジェントパフォーマンス & オーバークロック機能	1-5
1.3.3 ROGの独自機能.....	1-7

Chapter 2: ハードウェア

2.1 始める前に.....	2-1
2.2 マザーボードの概要.....	2-4
2.2.1 設置方向.....	2-4
2.2.2 ネジ穴.....	2-4
2.2.3 マザーボードのレイアウト.....	2-5
2.2.4 オーディオカードのレイアウト	2-5
2.2.5 レイアウトの内容.....	2-6
2.3 CPU.....	2-8
2.3.1 CPUを取り付ける.....	2-9
2.3.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける	2-11
2.3.3 CPUからヒートシンクとファンを取り外す	2-13
2.3.4 オプションファンを取り付ける.....	2-15
2.4 システムメモリ.....	2-17
2.4.1 概要	2-17
2.4.2 メモリ構成.....	2-18
2.4.3 メモリを取り付ける.....	2-22
2.4.4 メモリを取り外す	2-22
2.5 拡張スロット.....	2-23
2.5.1 拡張カードを取り付ける.....	2-23
2.5.2 拡張カードを設定する	2-23

もくじ

2.5.3	割り込み割り当て	2-24
2.5.4	PCI スロット	2-25
2.5.5	PCI Express x1 スロット	2-25
2.5.6	PCI Express x16 スロット	2-25
2.6	スライドスイッチ	2-27
2.7	オーディオカード、I/O シールド、LCD Poster を取り付ける	2-28
2.7.1	オーディオカードを取り付ける	2-28
2.7.2	I/O シールドと LCD Poster を取り付ける	2-29
2.8	コネクタ	2-30
2.8.1	リアパネルコネクタ	2-30
2.8.2	内部コネクタ	2-32
2.8.3	オンボードスイッチ	2-42

Chapter 3: 電源をオンにする

3.1	初めて起動する	3-1
3.2	コンピュータの電源をオフにする	3-2
3.2.1	OS シャットダウン機能を使用する	3-2
3.2.2	電源スイッチのデュアル機能を使用する	3-2

Chapter 4: BIOS セットアップ

4.1	BIOS 管理更新	4-1
4.1.1	ASUS Update	4-1
4.1.2	ASUS EZ Flash 2	4-4
4.1.3	BIOS を更新する	4-5
4.1.4	オリジナルの BIOS ファイルを保存する	4-7
4.1.5	ASUS CrashFree BIOS 2	4-8
4.2	BIOS 設定プログラム	4-9
4.2.1	BIOS メニュー画面	4-10
4.2.2	メニューバー	4-10
4.2.3	ナビゲーションキー	4-11
4.2.4	メニュー	4-11
4.2.5	サブメニュー	4-11
4.2.6	構成フィールド	4-11
4.2.7	ポップアップウィンドウ	4-12
4.2.8	ヘルプ	4-12

もくじ

4.3	メインメニュー	4-13
4.3.1	System Time [xx:xx:xx].....	4-13
4.3.2	System Date [Day xx/xx/xxxx]	4-13
4.3.3	Language [English]	4-13
4.3.4	Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]	4-13
4.3.5	Primary, IDE Master/Slave.....	4-14
4.3.6	SATA 1-6.....	4-16
4.3.7	HDD SMART Monitoring [Disabled]	4-17
4.3.8	Installed Memory [xxx MB]	4-17
4.3.9	Usable Memory [XXX MB].....	4-17
4.3.10	システム情報	4-17
4.4	Extreme Tweaker メニュー	4-18
4.4.1	AI Overclock Tuner [Auto].....	4-18
4.4.2	Overclocking	4-22
4.4.3	Over Voltage	4-25
4.4.4	Loadline Calibration [Disabled]	4-27
4.4.5	NVIDIA GPU Ex [Disabled]	4-27
4.4.6	SLI-Ready Memory [Disabled]	4-27
4.4.7	Voltiminder LED [ON].....	4-28
4.4.8	CPU LED Selection [CPU Volt].....	4-28
4.4.9	NB LED Selection [NB Volt]	4-28
4.4.10	SB LED Selection [SB Volt].....	4-28
4.4.11	ROG Logo [Enabled]	4-28
4.4.12	ES Selection [Disabled].....	4-28
4.5	拡張メニュー	4-29
4.5.1	AI NET2.....	4-29
4.5.2	PCIe PnP.....	4-30
4.5.3	オンボードデバイス設定構成.....	4-30
4.6	電源メニュー	4-34
4.6.1	ACPI Suspend Type [S1&S3].....	4-34
4.6.2	ACPI APIC Support [Enabled].....	4-34
4.6.3	APM の設定	4-35
4.6.4	ハードウェアモニタ	4-36
4.7	ブートメニュー	4-40

もくじ

4.7.1	ブートデバイスの優先順位	4-40
4.7.2	Removable Drives.....	4-41
4.7.3	Hard Disk Drives.....	4-41
4.7.4	CDROM Drives	4-41
4.7.5	ブート設定.....	4-42
4.7.6	セキュリティ	4-43
4.8	ツールメニュー	4-45
4.8.1	ASUS O.C. Profile.....	4-45
4.8.2	ASUS EZ Flash 2.....	4-47
4.9	終了メニュー	4-48
Chapter 5: ソフトウェア		
5.1	OSをインストールする.....	5-1
5.2	サポートDVD情報.....	5-1
5.2.1	サポートDVDを実行する.....	5-1
5.2.2	ドライバメニュー	5-2
5.2.3	ユーティリティメニュー	5-3
5.2.4	Make disk menu.....	5-5
5.2.5	マニュアルメニュー	5-6
5.2.6	ビデオメニュー	5-6
5.2.7	コンタクトインフォメーション	5-7
5.2.8	その他の情報.....	5-7
5.3	ソフトウェア情報	5-9
5.3.1	ASUS MyLogo3™	5-9
5.3.2	AI NET2.....	5-11
5.3.3	AI Audio 2 (SoundMAX® High Definition Audio ユーティリティ).....	5-12
5.3.4	ASUS PC Probe II	5-21
5.3.5	ASUS AI Suite.....	5-27
5.3.6	ASUS EPU ユーティリティ—AI Gear 3	5-29
5.3.7	ASUS AI Nap.....	5-30
5.3.8	ASUS Q-Fan 2	5-31
5.3.9	ASUS AI Booster	5-32
5.3.10	CPU Level Up.....	5-33
5.4	RAID	5-34

もくじ

5.4.1	RAID の定義.....	5-34
5.4.2	NVIDIA® RAID	5-35
5.5	RAIDドライバディスクを作成する.....	5-42
5.5.1	OS に入らずに RAID ドライバディスクを作成する.....	5-42
5.5.2	RAID ドライバディスクを Windows®環境で作成する	5-42

Chapter 6: NVIDIA® SLI™ テクノロジサポート

6.1	概要	6-1
6.2	デュアルビデオカード設定	6-2
6.2.1	SLI 対応ビデオカードを取り付ける	6-2
6.2.2	SLI-Ready ビデオカード 2 枚を取り付ける	6-5
6.2.2	デバイスドライバをインストールする	6-6
6.2.4	Windows® 環境で NVIDIA® SLI™ テクノロジを有効にする..	6-6

参考: CPU の機能

A.1	Intel® EM64T.....	A-1
A.2	EIST (拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジ)	A-1
A.2.1	システム条件	A-1
A.2.2	EIST を使う	A-2
A.3	Intel® Hyper-Threading テクノロジ	A-3
A.4	デバッグコード表	A-4

ご注意

Federal Communications Commission Statement (原文)

This device complies with Part 15 of the FCC Rules. Operation is subject to the following two conditions:

- This device may not cause harmful interference, and
- This device must accept any interference received including interference that may cause undesired operation.

This equipment has been tested and found to comply with the limits for a Class B digital device, pursuant to Part 15 of the FCC Rules. These limits are designed to provide reasonable protection against harmful interference in a residential installation. This equipment generates, uses and can radiate radio frequency energy and, if not installed and used in accordance with manufacturer's instructions, may cause harmful interference to radio communications. However, there is no guarantee that interference will not occur in a particular installation. If this equipment does cause harmful interference to radio or television reception, which can be determined by turning the equipment off and on, the user is encouraged to try to correct the interference by one or more of the following measures:

- Reorient or relocate the receiving antenna.
- Increase the separation between the equipment and receiver.
- Connect the equipment to an outlet on a circuit different from that to which the receiver is connected.
- Consult the dealer or an experienced radio/TV technician for help.



The use of shielded cables for connection of the monitor to the graphics card is required to assure compliance with FCC regulations. Changes or modifications to this unit not expressly approved by the party responsible for compliance could void the user's authority to operate this equipment.

Canadian Department of Communications Statement (原文)

This digital apparatus does not exceed the Class B limits for radio noise emissions from digital apparatus set out in the Radio Interference Regulations of the Canadian Department of Communications.

This class B digital apparatus complies with Canadian ICES-003.

安全上のご注意

電気の取り扱い

- ・ 作業を行う場合は、感電防止のため、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品に周辺機器を接続する場合は、本製品および周辺機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。可能ならば、関係するすべての機器の電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 本製品にケーブルを接続する場合は、電源コードをコンセントから抜いてから行ってください。
- ・ 電源延長コードや特殊なアダプタを用いる場合は専門家に相談してください。これらは、回路のショート等の原因になる場合があります。
- ・ 正しい電圧でご使用ください。ご使用になる地域の出力電力がわからない場合は、お近くの電力会社にお尋ねください。
- ・ 電源装置の修理は販売代理店などに依頼してください。

操作上の注意

- ・ 作業を行う前に、本製品に付属のマニュアルを全て熟読してください。
- ・ 電源を入れる前に、ケーブルが正しく接続されていることを確認してください。また電源コードに損傷がないことを確認してください。
- ・ マザーボード上にクリップやネジなどの金属を落とさないようにしてください。回路のショート等の原因になります。
- ・ 埃・湿気・高温・低温を避けてください。湿気のある場所で本製品を使用しないでください。
- ・ 本製品は安定した場所に設置してください。
- ・ 本製品を修理する場合は、販売代理店などに依頼してください。



左のマークは、本製品が電気製品または電子装置であり、地域のゴミと一緒に捨てられないことを示すマークです。廃棄の際は、地方自治体の廃棄処理に関する条例または規則等に従ってください。

このマニュアルについて

このマニュアルには、マザーボードの取り付けや構築の際に必要な情報が記してあります。

マニュアルの概要

本章は以下の章から構成されています。

- **Chapter 1: 製品の概要**
マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明。
- **Chapter 2: ハードウェア**
コンポーネントの取り付けに必要なハードウェアのセットアップ手順及びスイッチ、ジャンパとコネクタの説明。
- **Chapter 3: 電源をオンにする**
電源をオンにする手順と電源をオフにする手順について。
- **Chapter 4: BIOSのセットアップ**
セットアップメニューでのシステム設定の変更方法とBIOSパラメータの詳細。
- **Chapter 5: ソフトウェア**
マザーボードパッケージに付属のサポートDVD の内容。
- **Chapter 6: NVIDIA SLI™ テクノロジサポート**
SLI-Ready 対応 PCI Express ビデオカードを取り付手順について。
- **参考: CPU の機能**
このマザーボードでサポートするCPU の各機能と技術について。

詳細情報

本書に記載できなかった最新の情報は以下で入手することができます。また、BIOSや添付ソフトウェアの最新版があります。必要に応じてご利用ください。

1. **ASUS Webサイト** (<http://www.asus.co.jp/>)
各国や地域に対応したサイトを設け、ASUSのハードウェア・ソフトウェア製品に関する最新情報が満載です。
2. **追加ドキュメント**
パッケージ内容によっては、追加のドキュメントが同梱されている場合があります。注意事項や購入店・販売店などが追加した最新情報などです。これらは、本書がサポートする範囲には含まれていません。

このマニュアルの表記について

本製品を正しくお取り扱い頂くために以下の表記を参考にしてください。



危険/警告:本製品を取扱う上で、人体への危険を避けるための情報です。



注意:本製品を取扱う上で、コンポーネントへの損害を避けるための情報です。



重要:本製品を取扱う上で、必要な指示です。



注記:本製品を取扱う上でのヒントと追加情報です。

表記

<Key>

<> で囲った文字は、キーボードのキーです。

例: <Enter>→Enter もしくは リターンキーを押してください。

<Key1+Key2+Key3>

一度に2つ以上のキーを押す必要がある場合は(+)を使って示しています。

例: <Ctrl+Alt+D>

Command

表記されている通りのコマンドを入力してください。
続けて[]で指示している文字列または値を入力してください。

例: DOS プロンプトで、コマンドラインを入力

format A: /S

Striker II Formula 仕様一覧

対応CPU	LGA775 ソケット: Intel® Core™2 Quad / Core™2 Extreme / Core™2 Duo / Pentium® Extreme / Pentium® D / Pentium® 4 の各プロセッサに対応 Intel® 次世代 45nm Multi-core CPU に対応 Intel® 06/05B/05A プロセッサに対応 * 詳細は www.asus.co.jp で Intel® CPU サポートリストをご参照ください。
チップセット	NVIDIA® nForce® 780i SLI™
システムバス周波数	1333/1066/800 MHz
対応メモリ	デュアルチャンネル メモリアーキテクチャ: - 240 ピンメモリスロット× 4 : unbuffered non-ECC DDR2 1066/800/667/533MHz メモリをサポート - 最大 8 GB のシステムメモリをサポート * 詳細は ASUS Web サイトの最新の推奨ベンダーリスト (QVL) をご参照ください。 (www.asus.co.jp)
拡張スロット	PCIe 2.0 x16 スロット× 2 : NVIDIA® SLI™ テクノロジをサポート (ブルー: 転送速度 @ x16, x16) PCIe x16 スロット× 1 : (ホワイト: 転送速度 @ x16) PCIe x1 スロット× 2 : PCI Express 1_1 (ブラック) はオーディオスロットとしても機能 PCI 2.2 スロット× 2
SLI™	NVIDIA® 3ウェイ SLI ビデオカードをサポート (各 x16 モード動作)
記憶装置	サウスブリッジのサポート内容: - Ultra DMA 133/100/66/33× 1 - Serial ATA 3 Gb/s× 6 - NVIDIA® MediaShield™ RAID: RAID 0、1、0+1、5、JBOD を構築可能 (Serial ATA ドライブ使用)
LAN	Dual Gigabit LAN コントローラ: AI NET2 機能搭載 チーミングテクノロジサポート
HDオーディオ	SupremeFX II Audio Card - ADI 1988B 8 チャンネル HD オーディオコーデック - Noise Filter コアキシャル / 光デジタル S/PDIF 出力ポート (バックパネル I/O)
IEEE 1394	IEEE 1394a ポート 2 基サポート (ボード上とバックパネルに 1 基ずつ)
USB	USB 2.0 ポート× 10 (ボード上に 4 基、バックパネルに 6 基)

(次項へ)

Striker II Formula 仕様一覧

<p>ROG だけの オーバークロック機能</p>	<p>Extreme Tweaker 2-Phase DDR2 ROG BIOS Wallpaper Loadline Calibration インテリジェントオーバークロックツール: <ul style="list-style-type: none"> - CPU level up - ASUS EPU (Energy Processing Unit) - AI Gear 3 - AI Overclocking (インテリジェントCPU周波数チューナー) - AI Booster ユーティリティ - O.C. Profile Overclocking Protection: <ul style="list-style-type: none"> - COP EX (Component Overheat Protection -EX) - Voltiminder LED - ASUS C.P.R. (CPU Parameter Recall) </p>
<p>ROG の独自機能</p>	<p>LCD Poster オンボードスイッチ:電源/リセット/Clr CMOS (バックパネルに搭載) ASUS Q-Connector ASUS Q-Fan 2 ASUS EZ Flash 2 ASUS CrashFree BIOS 2 ASUS MyLogo 3™</p>
<p>バックパネル I/O ポート</p>	<p>PS/2 キーボード (パープル) × 1 S/PDIF 出力 (コアキシャル + 光デジタル) × 1 IEEE1394a × 1 LAN (RJ45) × 2 USB 2.0/1.1 × 6 Clr CMOS スイッチ × 1</p>
<p>内部 I/O コネクタ</p>	<p>USB 2.0 コネクタ × 2 : 追加 USB 2.0 ポート 4 基に対応 フロッピーディスクドライブコネクタ × 1 IDE コネクタ × 1 : (デバイス 2 台対応) SATA コネクタ × 6 ファンコネクタ × 8 : (CPU × 1 / 電源 × 1 / ケース × 3 / オプション × 3) サーマルセンサーコネクタ × 3 IEEE1394a コネクタ × 1 S/PDIF 出力コネクタ × 1 ケース開閉検出コネクタ × 1 24ピン ATX 電源コネクタ × 1 8ピン ATX 12V 電源コネクタ × 1 Enable/Disable Clr CMOS スライドスイッチ × 1 LCD Poster コネクタ × 1 システムパネル (Q-コネクタ) × 1 パワーオンスイッチ × 1 リセットスイッチ × 1</p>

(次項へ)

Striker II Formula 仕様一覧

BIOS	8 Mb Flash ROM, AWARD BIOS, PnP, DMI2.0, WfM2.0, SM BIOS 2.4, ACPI 2.0a Multi-Language BIOS
マネージメント機能	WOL by PME, WOR by PME, Chassis Intrusion, PXE
アクセサリ	LCD Poster ASUS オプションファン SupremeFX II Audio Card 3 in 1 ASUS Q-Connector Kit UltraDMA 133/100/66 ケーブル フロッピーディスクドライブケーブル Serial ATA ケーブル Serial ATA 電源ケーブル 2 ポート USB2.0 モジュール+IEEE1394a モジュール I/O シールド ケーブルタイ 3 ウェイ SLI ブリッジ ASUS SLI ブリッジ ユーザーマニュアル(本書)
ソフトウェア	The hottest DX10 game: Company of Heroes—Opposing Fronts サポートDVD: ドライバ ASUS PC Probe II ASUS Update ASUS AI Suite Futuremark® 3DMark® 06 Advanced Edition Kaspersky Anti-Virus ソフトウェア
フォームファクタ	ATX フォームファクタ: 30.5 cm×24.4 cm (12 in×9.6 in)

*製品改善のため、仕様は予告なく変更することがあります。

マザーボードの機能とサポートする新機能についての説明

製品の概要

Chapter

1

1.1	ようこそ	1-1
1.2	パッケージの内容.....	1-1
1.3	独自機能.....	1-2

1.1 ようこそ

ASUS® Striker II Formula マザーボードをお買い上げいただき、ありがとうございます。

このマザーボードは多くの新機能と最新のテクノロジーを提供する ASUS の高品質マザーボードです。

マザーボードとハードウェアデバイスの取り付けを始める前に、パッケージの中にリストに掲載されている部品が揃っていることを確認してください。

1.2 パッケージの内容

マザーボードパッケージに以下のものが揃っていることを確認してください。

マザーボード	ROG Striker II Formula
I/O モジュール	USB 2.0 モジュール+IEEE 1394a モジュール
ケーブル	Ultra DMA 133/100/66 ケーブル フロッピーディスクドライブケーブル Serial ATA ケーブル Serial ATA 電源ケーブル
アクセサリ	I/O シールド 3-Way SLI bridge ASUS SLI bridge ASUS オプションファン LCD Poster SupremeFX II Audio Card 3-in-1 ASUS Q-Connector Kit ケーブルタイ
DVD/CD	ROG マザーボードサポート DVD The hottest game: Company of Heroes—Opposing Fronts
ドキュメント	ユーザーマニュアル(本書)



付属品が足りないときや破損しているときは、販売店にご連絡ください。

1.3 独自機能

1.3.3 製品の特長

Republic of Gamers



「Republic of Gamers」への利用資格は一流のゲーマーであること。ASUSは最高のハードウェアエンジニアリングとパフォーマンス、最新のアイデアを提供する。そちらが出すのは確かなゲームのテクニック。前衛が君だ、後衛は任せろ。「Republic of Gamers」は無制限 1 本勝負、メンバーのコメントだけが勝負の判定基準。我こそはと思うゲーマーは名乗りを上げろ!

Intel® Core™2 Quad / Core™2 Duo / Core™2 Extreme



CPU サポート

本マザーボードは最新の Intel® Quad-core/Core™2 プロセッサ LGA775 パッケージと Intelの次世代 45nm Multi-Core プロセッサをサポートしています。新型 Intel® Core™マイクロアーキテクチャ技術と 1333/1066/800 MHz FSB 周波数の採用で、Intel® Core™2 プロセッサは Intel® Quad-core プロセッサとともに、今最もパワフルでエネルギー効率の高い CPUと言えます。(詳細: ページ 2-8 参照)

NVIDIA® nForce® 780i SLI チップセット



NVIDIA® nForce 780i SLI チップセットは NVIDIA® SLI™ テクノロジーをサポートしており、1 つのシステムで 3 つの GPU に対応することができます。この SLI サポートにより、究極のオーバークロック性能及び完全なるゲームパフォーマンスを実現できるわけで、世界で最速のプラットフォームと言っても過言ではありません。また、NVIDIA® nForce 780i SLI チップセットは、Serial ATA 3 Gb/s デバイス 6 台に対応可能です。加えて、3 つの PCI Express™ x16 スロットは NVIDIA® SLI™ をサポートしており、動作速度はいずれも x16 モードを実現しました。USB 2.0 ポートも 10 基までサポート可能で、その拡張性がより充実しました。

NVIDIA® Scalable Link Interface (SLI™)



NVIDIA SLI™ (Scalable Link Interface) は PCI Express バスアーキテクチャで増幅したバンド幅を効果的に利用。ハード/ソフトウェアで 2 つの GPU を効果的に動作させ、拡張性の高いパフォーマンスを実現。

NVIDIA® 3 ウェイ SLI™ (Scalable Link Interface)



NVIDIA 3 ウェイ SLI™ は、PCI Express 2.0 バスアーキテクチャの帯域増加と、各ハードウェア/ソフトウェアを活用することで、ビデオカード 3 枚を同時に動作させることに成功しました。これにより、画期的なパフォーマンスを実現します。アプリケーションによってはパフォーマンスが 3 倍になります! (詳細: Chapter 6 参照)

PCIe 2.0

本マザーボードは最新の PCIe 2.0 デバイスを、従来の倍の速度と帯域でサポートし、大幅なパフォーマンスの向上に成功しました。また、PCIe 1.0 デバイスにも下位互換性があるので安心です。(詳細: ページ 2-25 参照)

ネイティブ DDR2 1066 メモリサポート

最高のパフォーマンスを実現すべく、ASUSのエンジニアはDDR2 メモリの真の潜在力を引き出すことに成功しました。DDR2 1066 モード使用時にASUS独自の技術を使用することでFSB 1333を利用することができるため、3D グラフィックスやメモリの能力が要求されるアプリケーションに優れたパフォーマンスを実現します。(詳細: ページ 2-17 参照)

デュアルチャンネル DDR2 800 メモリサポート

本マザーボードは、800/667 MHz のデータ転送率の DDR2 メモリに対応。最新 3D グラフィックス、マルチメディア、インターネットアプリケーションに対応できるより高速な帯域要求を充たします。デュアルチャンネル DDR2 アーキテクチャでシステムメモリの帯域は倍になり、システムのパフォーマンスを増強し、最高帯域 12.8 GB/s で混雑時のボトルネックを解消します。本マザーボードでは、2つのチャンネル間のメモリサイズに制限がないため、異なるサイズのメモリを取り付けることができ、デュアルチャンネルとシングルチャンネルを同時に動作させることが可能です。この新機能の搭載により、メモリサイズをより有効に利用することができます。(詳細: 2-17 参照)

ASUS Super Memspeed テクノロジ (Super MST)

ASUSはSuper Memspeed テクノロジによって、FSBクロックとメモリクロックの比率の限界を突破することに成功しました。さらに、DDR 2 メモリに対する詳細なオーバークロック機能を搭載し、最高のメモリパフォーマンスを提供します。Super MSTは、CPU とメモリのオーバークロック時のボトルネックを解消することで、システムパフォーマンスを最大限に活用し、3D グラフィックスやメモリの能力を必要とするアプリケーションに特に優れた効果を発揮します。(詳細 2-17 参照)

Serial ATA 3 Gb/s 技術

Serial ATA (SATA) 3Gb/s ストレージ規格をベースとする次世代ハードドライブをサポートしていますので、安定性が向上し、バスの帯域が倍増したことで高速データ転送を実現。(詳細: 2-33 参照)

デュアル Gigabit LAN



統合型 デュアル Gigabit LAN は、PCをネットワークゲートウェイとして動作させて、2つの異なるネットワーク間のトラフィックをコントロールすることができます。このソリューションにより、アービトレーションやレイテンシを増やすことなく、WAN から LAN への高速データ転送が可能になります。(詳細: 2-30 参照)

IEEE 1394a サポート



IEEE 1394a インターフェースを搭載することで、IEEE 1394a 規格と互換性のある周辺機器 (ビデオカメラ、VCR、プリンタ、TV、デジタルカメラ等)との接続が柔軟かつ高速になりました。(詳細: 2-31、2-35 参照)

HD オーディオ



クリアな音質をお楽しみください! オンボード 8 チャンネルHDオーディオ (High Definition Audio、コードネーム Azalia) CODEC は、ハイクオリティの 192KHz/24bit オーディオ出力、Jack-Sensing 機能、リタスキング機能、マルチストリーミング技術に対応。同時に複数のオーディオストリームを異なる方向に送信します。この技術により、マルチチャンネルのネットワークゲーム中にヘッドフォンで会話が楽しめます。(詳細: 2-31 参照)

Green ASUS



このマザーボードとパッケージは、欧州連合(EU)のRoHS指令 (電気電子機器の特定有害物質使用規制)の基準を充たしています。これは環境に優しくリサイクル可能な製品/パッケージを提供するASUSの企業理念と合致するものです。

1.3.2 ROGのインテリジェントパフォーマンス & オーバークロック機能

Pin-Fin Thermal Module (ピンフィン型サーマルモジュール)



従来の積層フィンとヒートパイプによる設計に比べ、新世代ピン-フィンサーマルデザインは放熱効果を向上させています。放熱面積を増やし、境界層を取り除くことで、より効率的なエアフローを実現しています。ピンフィンサーマルモジュールはかつてない効率的放熱設計です。

CPU Level Up



もっと高価、高性能なCPUが欲しいと思ったことはありませんか。R.O.Gの CPU Level UpでコストをかけずにCPUをアップグレードしましょう。お望みのCPUを選ぶだけで、あとはマザーボードが自動的にオーバークロックしてくれます。新たなCPUの速度と性能を体感してください。類を見ないほど簡単なオーバークロックソリューションです。(詳細: ページ 4-19、5-33 参照)

ASUS EPU



ASUS EPUは革新的テクノロジーを活用し、改良されたVRレスポンスで負荷の大きさにかわらず、デジタル処理によりCPU電源を監視・調整します。より高いパフォーマンスが必要なときは電源を自動的に供給し、また、比較的負荷のかからないアプリケーションの使用中は、電源効率を7%向上させます。AI Gear 3と併用することで電源効率と節電効果が最大20%向上し、環境に優しいソリューションとなっています。(詳細: ページ 5-29 参照)

2-Phase DDR2



2フェーズの電源供給回路を搭載し、安定したノイズの少ない電力をメモリに供給します。各フェーズにかかる負荷は、1フェーズの電源モジュールのみの場合の半分になります。

Extreme Tweaker



Extreme Tweakerは周波数の調節、オーバervoltage用オプション、メモリアイミング等を微調整し、システムを最高の状態に設定します。(詳細: ページ 4-18 参照)

Voltiminder LED



最高のパフォーマンスを追求する中で、過電圧は重大かつリスクの伴う問題です。本マザーボードの電圧警告LEDは、CPU、NB、SB、メモリの電圧状態をグリーン、イエロー、レッドのランプで表示します。オーバークロック時に、素早く電圧をモニターすることができます。(詳細: ページ 2-1~2-3 参照)

Component Overheat Protection -EX (COP EX)

COPEXにより、オーバーヒートの心配をせず、チップセットの電圧を上げることができます。また、オーバーヒートしている GPU をモニターすることも可能です。COP EXにより、より自由に、制限なく最高のパフォーマンスを追求することができます。

AI Booster

ASUS AI Booster は CPU スピードを Windows 環境でオーバークロックする機能です。BIOSを開く必要はありません。(詳細: ページ 5-32 参照)

ASUS O.C. Profile

本マザーボードには、ASUS O.C. Profile 機能が搭載されており、複数の BIOS 設定を保存・ロードすることができます。各 BIOS 設定は CMOS または ファイル に保存することができ、BIOS 設定の利用と共有が簡単に行えます。(詳細: 4-45 参照)

C.P.R. (CPU Parameter Recall)

オーバークロック時にシステムがハングした場合、BIOS を初期設定値に自動再設定します。オーバークロック設定が原因でシステムがハングした場合でも、システムケースを開けて CMOS データをクリアする必要はありません。



チップセットの制限のため、C.P.R. 機能を利用する際は AC 電源がオフである必要があります。

1.3.3 ROGの独自機能

Supreme FX II 機能



Supreme FX II は、ROG シリーズご使用のゲーマー向けに優れた HD オーディオパフォーマンスをご提供します。SupremeFX II は、ゲーマーのニーズに応えるべく独自のオーディオを開発しました。これにより、ゲームプレイ中の 3D 環境で敵をいち早く見つけることができます。また、ゲームプレイ中の人間の声を強調する機能も搭載しているため、会話がより聞き取りやすくなります。

Noise Filter



コンピュータのファンやエアコン等の個々の定常ノイズ (肉声ではない信号) を検出し、録音中はそれらの音をカットします。

外部 LCD Poster



新型 LCD Poster は、POST で表示される重要な情報を外部ディスプレイで表示します。システムに問題が発生すると、LCD Poster は自動的にデバイスのエラーを検出し、POST 時にエラー内容を液晶に表示します。内容は従来のようなエラー番号ではなく、文字列として具体的に表示されますので、問題の内容を短時間で知ることができます。(詳細: ページ 2-29 参照)

オンボードスイッチ



オーバークロック時に押すだけで、簡単にパフォーマンスの微調整できます。ピンをシヨートする、ジャンパの位置を切り替えるといった作業はもう不要です。(詳細: ページ 2-42 参照)

ASUS 静音サーマルソリューション

ASUS 静音サーマルソリューションはシステムをより安定させ、オーバークロック能力を向上させます。

ファンレス設計-ヒートパイプ



ASUS ファンレス設計は、マザーボード内の主な熱源からの熱を多方向に逃がすことで、システム全体の温度を効果的に下げます。その結果、動作音は小さくなりシステムの寿命が延びます。ASUSはこの分野で独自の研究を重ね、ヒートパイプ、ヒートシンク、ボードのレイアウトを改良することで優れた散熱効果を実現。特に、CPUや電源、VGA、ノースブリッジ、サウスブリッジの熱をより効果的に下げます。

ファンレス設計: - Stack Cool 2

ファンレスでゼロノイズの冷却機能です。コンポーネントから出る熱を大幅に下げます。本製品ではPCB (printed circuit board) 上で熱を拡散するために特殊な設計を採用しています。

1.3.4 ASUSの特殊機能

AI Gear 3

AI Gear 3 は、「Auto Mode」と、「Turbo Mode」、「High Performance Mode」、「Medium Power Saving Mode」、「Max Power Saving Mode」の4つの手動モードにより、CPU 周波数と vCore 電圧を自動調節することができます。AI Gear 3 はデジタル管理ですので、正確に CPU の負荷を検出しリアルタイムで CPU スピードをオーバークロックします。また、負荷が低いときには電圧を下げて消費電力を抑えます。モードの変更は OS 環境で即座で反映され、低負荷時には CPU の電力消費を最大 62% 抑えることができます。

AI Nap

コンピュータを使用していない時、システムを最も低い電圧とノイズで動作させることができます。システムをウェークし OS 環境に戻すには、マウスをクリックするか、キーを押すだけです。

ASUS Q-Fan 2

ASUS Q-Fan 2 テクノロジは、効果的に CPU ファンとケースファンのスピードをシステムの負荷に応じてコントロールし、静音低温環境を実現します。
(詳細: 4-39 参照)

オプションファン

水冷クーラーまたはパッシブクーラーを利用している場合、オプションファンを追加することができます。CPU 電源モジュールやチップセット上にエアフローを作り、システム全体の熱を効果的に逃がすことができます。
(詳細: 2-15、2-16 参照)

ASUS MyLogo 3

この機能を使用すると、自分で選んだブートロゴを表示することができます。
(詳細: 4-43 参照)

ASUS Multi-language BIOS

オプションから言語選択が可能です。特定の BIOS メニューでは、より簡単な設定が可能になります。(詳細: 4-13 参照)

ASUS EZ DIY

ASUS EZ DIY 機能は、コンピュータのコンポーネントの取り付けや、BIOS 更新、設定データのバックアップに便利な機能が満載です。

ASUS Q-Connector

ASUS Q-Connector を使用すれば、ケースフロントパネルケーブルの取り付け/取り外しが簡単にできます。(詳細: 2-41 参照)

ASUS EZ Flash 2

OSをロードする前でも、予め設定したホットキーを押すだけでBIOSの更新が簡単に行えます。更新の際は USB フラッシュメモリを使用します。簡単は操作で、OSを起動する必要がなく、フロッピーディスクや OS ベースのフラッシュユーティリティも不要です。(詳細: 4-4、4-47 参照)

ASUS CrashFree BIOS 2

破損したBIOS データを BIOSファイルを含むマザーボードサポート DVD から復旧することができます。(詳細: 4-8 参照)

システムの組み立てにおけるハードウェア
のセットアップ手順と、マザーボードのジャ
ンパやコネクタに関する説明

ハードウェア **2**

2.1	始める前に	2-1
2.2	マザーボードの概要	2-4
2.3	CPU	2-8
2.4	システムメモリ	2-17
2.5	拡張スロット	2-23
2.6	ジャンパ	2-27
2.7	オーディオカード、I/Oシールド、LCD Poster を取り付ける	2-28
2.8	コネクタ	2-30

2.1 始める前に

マザーボードのパーツの取り付けや設定変更の前は、次の事項に注意してください。



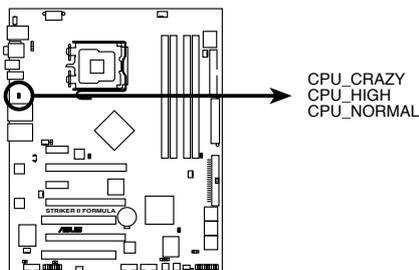
- 各パーツを取り扱う前に、コンセントから電源プラグを抜いてください。
- 静電気による損傷を防ぐために、各パーツを取り扱う前に、静電気除去装置に触れるなど、静電気対策をしてください。
- ICに触れないように、各パーツは両手で端を持つようにしてください。
- 各パーツを取り外すときは、必ず静電気防止パッドの上に置るか、コンポーネントに付属する袋に入れてください。
- パーツの取り付け、取り外しを行う前に、ATX電源ユニットのスイッチがOFFの位置にあるか、電源コードが電源から抜かれていることを確認してください。電力が供給された状態での作業は、感電、故障の原因となります。

オンボード LED

本マザーボードにはLEDが搭載されており、CPU、メモリ、ノースブリッジ、サウスブリッジの電圧の状態を表示します。BIOSでこれらの電圧を調節することができます。また、ハードディスクドライブLEDと電源状態を表示するオンボードスイッチが搭載されています。電圧調節に関する詳細は、セクション 4.4 「Extreme Tweaker menu」をご参照ください。

1. CPU LED

CPU LED は CPU 電圧と CPU PLL 電圧の、2種類の電圧を表示します。表示する電圧は BIOS で選択できます。CPU LED の位置と LED の定義については以下をご参照ください。

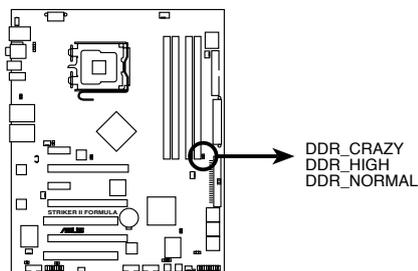


STRIKER II FORMULA CPU LED

	Normal (グリーン)	High (イエロー)	Crazy (レッド)
CPU 電圧	1.10000~1.50000	1.50625~1.69375	1.70000~
CPU PLL 電圧	1.50000~1.60000	1.62000~1.80000	1.82000~

2. メモリ LED

メモリ LED の位置とLEDの定義については以下をご参照ください。

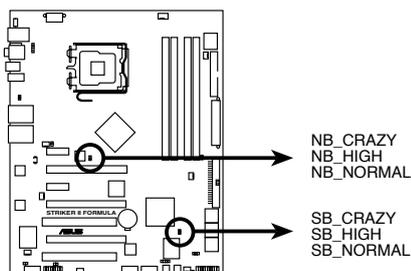


STRIKER II FORMULA DDR LED

	Normal (グリーン)	High (イエロー)	Crazy (レッド)
DRAM 電圧	1.80~2.20	2.22~2.60	2.62~

3. ノースブリッジ/サウスブリッジ LED

ノースブリッジ/サウスブリッジ LEDには2つの異なる電圧表示があります。ノースブリッジLEDは、NBコア電圧、またはCPU VTT 電圧のいずれかを表示します。サウスブリッジLEDは、SBコア電圧、または1.2V HT 電圧のいずれかを表示します。表示する電圧はBIOSで選択できます。ノースブリッジ/サウスブリッジ LED の位置とLEDの定義については以下をご参照ください。

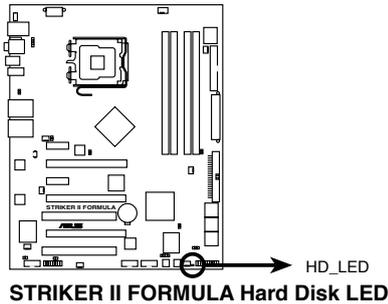


STRIKER II FORMULA North/South Bridge LED

	Normal (グリーン)	High (イエロー)	Crazy (レッド)
NB コア電圧	1.20~1.59	1.61~1.83	1.85~
CPU VTT電圧	1.20~1.40	1.42~1.60	1.62~
SB コア電圧	1.50~1.60	1.65~1.75	1.80~
1.2V HT 電圧	1.20~1.45	1.50~1.70	1.75~

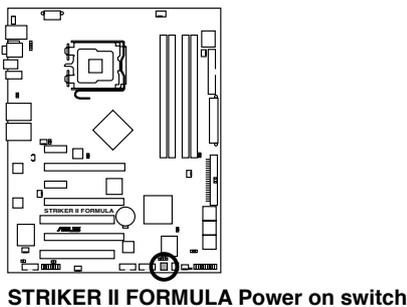
4. ハードディスク LED

ハードディスクの状態を表示します。ハードディスクドライブでデータの書き込み/読み出しが行われている場合に点滅します。マザーボードにハードディスクドライブが接続されていない場合、またはハードディスクドライブが機能していない場合、LEDは点灯しません。



5. 電源 LED

本マザーボードには電源 LEDとしてパワーオンスイッチが搭載されており、電力が供給されている間は点灯します。マザーボードに各パーツを取り付け・取り外しを行う際は、システムをOFFにし、電源ケーブルを抜いてください。下のイラストは、オンボードパワーオンスイッチの場所を示しています。



2.2 マザーボードの概要

マザーボードを取り付ける前に、ケースの構成を調べて、マザーボードがケースにフィットすることを確認してください。



マザーボードの取り付け、取り外しを行う前に、必ず電源コードを抜いてください。感電、故障の原因となります。

2.2.1 設置方向

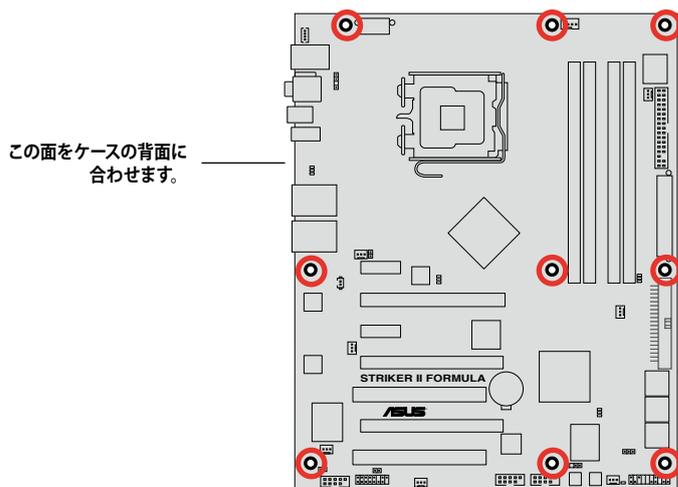
マザーボードが正しい向きでケースに取り付けられているかを確認してください。下の図のように外部ポートをケースの背面部分に合わせます。

2.2.2 ネジ穴

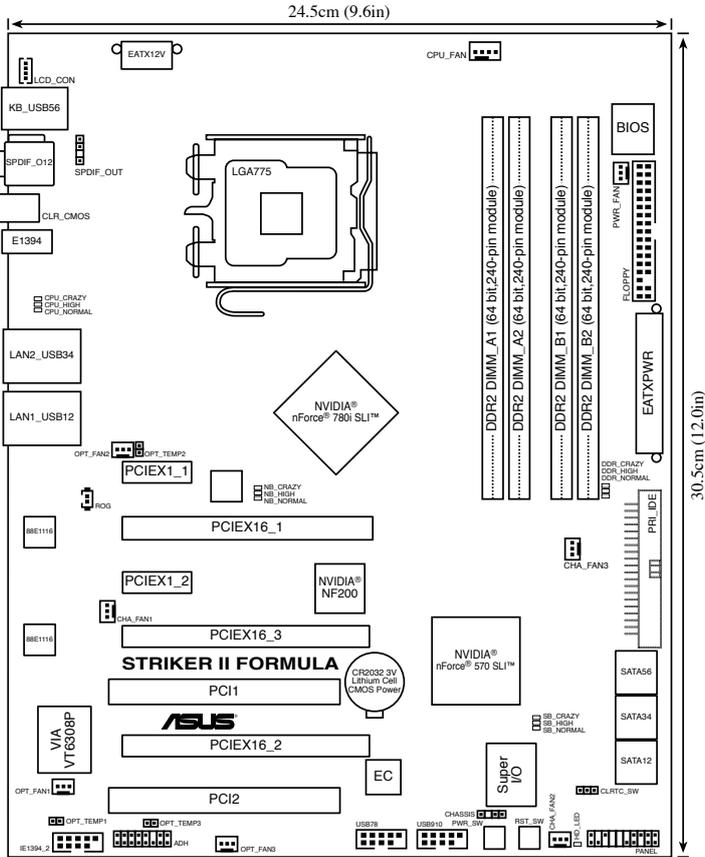
ネジ穴は9カ所あります。ネジ穴の位置を追わせてマザーボードをケースに固定します。



ネジをきつく締めすぎないでください。マザーボードの破損の原因となります。



2.2.3 マザーボードのレイアウト



リアパネルコネクタと内部コネクタの詳細については、ページ2-30「2.8 コネクタ」をご参照ください。

2.2.4 オーディオカードのレイアウト



2.2.5 レイアウトの内容

スロット	ページ
1. DDR2 メモリスロット	2-17
2. PCI スロット	2-25
3. PCI Express x1 スロット	2-25
4. PCI Express x16 スロット	2-25

ジャンパ	ページ
1. RTC RAM のクリア (CLRTC_SW)	2-27

リアパネルコネクタ	ページ
1. PS/2 キーボードポート (パープル)	2-30
2. コアキシャル S/PDIF 出力ポート	2-30
3. LAN 2 (RJ-45) ポート	2-30
4. LAN 1 (RJ-45) ポート	2-30
5. ライン入力ポート (ライトブルー)	2-31
6. ライン出力ポート (ライム)	2-31
7. マイクポート (ピンク)	2-31
8. センター/サブウーファ ポート (オレンジ)	2-31
9. リアスピーカー出力ポート (ブラック)	2-31
10. サイドスピーカー出力ポート (グレー)	2-31
11. USB 2.0 ポート 1、2、3、4	2-31
12. IEEE 1394a ポート	2-31
13. Clear CMOS スイッチ	2-31
14. 光デジタル S/PDIF 出力ポート	2-31
15. USB 2.0 ポート 5 と 6	2-31



*これらのオーディオポートは、Supreme FX II オーディオカードに搭載されています。

内部コネクタ		ページ
1.	フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1 ピン FLOPPY)	2-32
2.	IDE コネクタ (40-1 ピン PRI_IDE)	2-32
3.	Serial ATA コネクタ (7ピン SATA1-6)	2-33
4.	USB コネクタ (10-1 ピン USB78、USB910)	2-34
5.	IEEE 1394a ポートコネクタ (10-1 ピン IE1394_2)	2-35
6.	サーマルセンサーケーブルコネクタ (2ピン OPT_TEMP1/2/3)	2-35
7.	CPU、ケース、電源、オプションファンコネクタ (4ピン CPU_FAN、3ピン CHA_FAN1-3、3ピン PWR_FAN、 3ピン OPT_FAN1-3)	2-36
8.	ケース開閉検出コネクタ (4-1 ピン CHASSIS)	2-37
9.	デジタルオーディオコネクタ (4-1 ピン SPDIF_OUT、ASUS HDMI ビデオカード用)	2-37
10.	ATX コネクタ (24ピン EATXPWR、8 ピン EATX12V)	2-38
11.	ROG コネクタ (2ピン ROG)	2-39
12.	システムパネルコネクタ (20-8 ピン PANEL)	2-40

オンボードスイッチ		ページ
1.	パワーオンスイッチ	2-42
2.	リセットスイッチ	2-42

2.3 CPU

本マザーボードには Intel® Core™2 Quad / Core™2 Extreme / Core™2 Duo / Pentium® D / Pentium® 4 / Pentium® Extreme 対応のLGA775 ソケットが搭載されています。



-
- CPUを取り付ける際は、全ての電源ケーブルをコンセントから抜いてください。
 - デュアルコアCPUを取り付ける場合は、システム安定のためケースファンケーブルを CHA_FAN1 コネクタに接続してください。
-

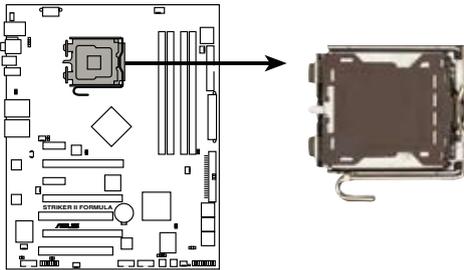


- マザーボードのご購入後すぐにソケットキャップがソケットに装着されていることと、ソケットの接触部分が曲がっていないかを確認してください。ソケットキャップが装着されていない場合や、ソケットキャップ/ソケット接触部/マザーボードのコンポーネントに不足やダメージが見つかった場合は、すぐに販売店までご連絡ください。不足やダメージが出荷及び運送が原因の場合に限り、ASUSは修理費を負担いたします。
 - マザーボードを取り付けた後も、ソケットキャップを保存してください。ASUSは、このソケットキャップが装着されている場合にのみ、RMA (保証サービス) を受け付けます。
 - 製品保証は、CPUやソケットキャップの間違った取り付け・取り外しや、ソケットキャップの紛失に起因する故障及び不具合には適用されません。
-

2.3.1 CPUを取り付ける

手順

1. マザーボードのCPUソケットの位置を確認します。

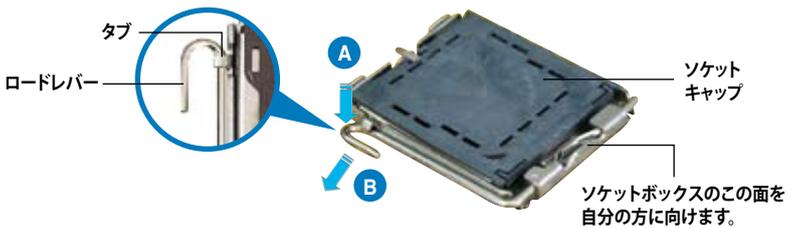


STRIKER II FORMULA CPU Socket 775



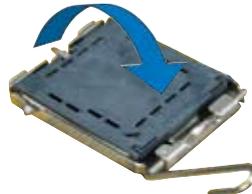
CPUを取り付ける前にCPUソケットを手前に向け、ロードレバーが向かって左側にあることを確認してください。

2. 親指でロードレバーを押し(A)、タブから外れるまで左に動かします(B)。

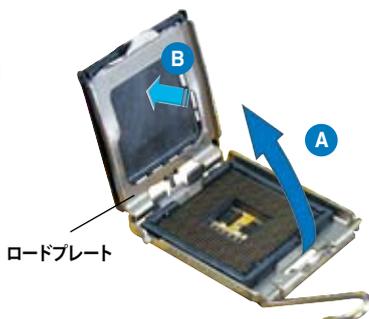


ソケットピンの損傷防止のため、ソケットキャップはCPUを取り付けるまで外さないでください。

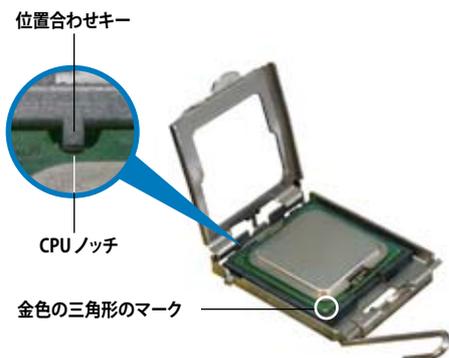
3. 矢印の方向に135°ほどロードレバーを持ち上げます。



4. ロードプレートを親指と人差し指で100°ほど持ち上げ(A)、ロードプレートウィンドウからソケットキャップを押し取り外します(B)。



5. CPUに書かれている金色の三角形がソケットの左下隅になるようにCPUをソケットの上に載せます。このとき、ソケットの位置合わせキーは、CPUの溝にぴったり合わせる必要があります。



CPUは一方方向のみぴたり合うようになっています。CPUをソケットに無理に押し込まないでください。ソケットのコネクタが曲がる、あるいはCPUが破損する等の原因となります。

6. ロードプレートを閉じ(A)、ロードレバー(B)がタブに収まるまで押します。
7. デュアルコア CPUを取り付ける場合は、システムの安定性を図るためケースファンケーブルをCHA_FAN1 コネクタに接続してください。



本製品は Intel® Extended Memory 64 Technology (EM64T)、Enhanced Intel SpeedStep® Technology (EIST)、Hyper-Threading Technology を搭載した Intel® LGA775 プロセッサをサポートしています。詳細は巻末の「参考」をご参照ください。

2.3.2 CPUにヒートシンクとファンを取り付ける

Intel® LGA775 プロセッサ用に、特別に設計されたヒートシンクとファンを組み合わせて、効率的な冷却を行いCPU パフォーマンスを引き出します。



- 箱入りの Intel® プロセッサを購入した場合、パッケージにはヒートシンクとファンが入っています。CPU のみをお求めになった場合、Intel® が認定したマルチディレクションヒートシンクとファンを必ずご使用ください。
- Intel® LGA775 用のヒートシンクとファンにはプッシュピンデザインが採用されており、取り付けの際に特別な工具は必要ありません。
- CPU ヒートシンクとファンを別々にお買い求めになった場合は、ヒートシンクとファンを取り付ける前に、サーマルグリースをヒートシンクまたはCPU に塗布してください。



CPUファンとヒートシンクを取り付ける前に、ケースにマザーボードを取り付けてください。

ヒートシンクとファンの取り付け手順

1. 4つのファスナーがマザーボードの穴の位置と合っていることを確認しながら、ヒートシンクをCPUの上に置きます。



CPUファンケーブルとCPUファンコネクタをできるだけ近づけて、ヒートシンクとファンを配置してください。



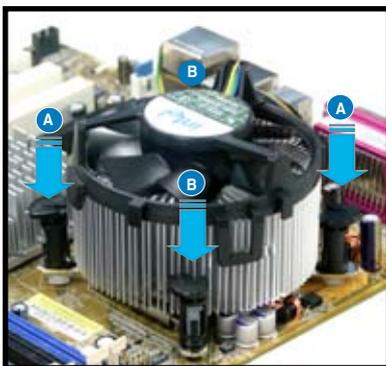
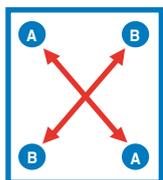
マザーボードの穴
ファスナー

溝の細い方

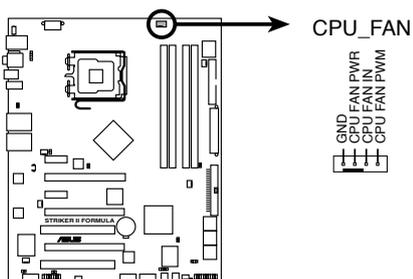


それぞれの留め具の溝の細い方が外側に向いていることを確認してください。(写真は、溝に陰影を付けて強調しています)

2. 対角線上にある2つのファスナーを同時に押し下げ、ヒートシンクとファンを正しい場所に固定します。



3. CPUファンのケーブルをCPU_FANと表示されたマザーボード上のコネクタに接続します。



STRIKER II FORMULA CPU fan connector



CPUファンのケーブルを必ず接続してください。ハードウェアのモニタリングエラーが発生することがあります。

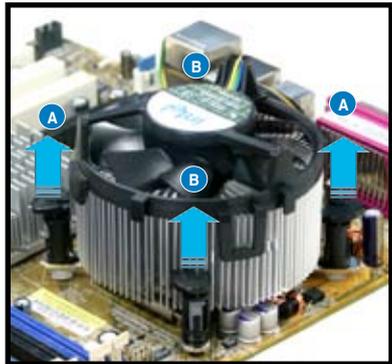
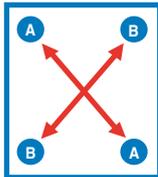
2.3.3 CPUからヒートシンクとファンを取り外す

手順

1. マザーボードのコネクタからCPUファンのケーブルを抜きます。
2. 各ファスナーを左へ回します。



3. 対角線上の2つのファスナーを同時に引き抜いて、マザーボードからヒートシンクとファンを外します。



4. マザーボードからヒートシンクとファンを慎重に取り外します。



5. 再び取り付ける際には、ファスナーを右方向に回し、ファスナーの方向が正しいことを確認します。



再び取り付けた後は、溝の細い方が外側を向いている必要があります。(写真は、溝に陰影を付けて強調しています)

溝の細い方



ファンの取り付けに際しては、CPUファンに付属の説明書などをお読みください。

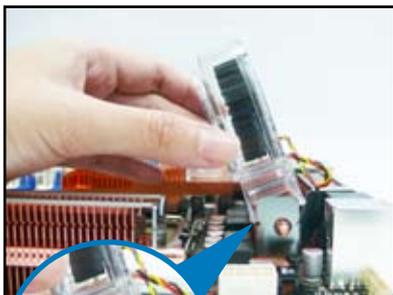
2.3.4 オプションファンを取り付ける



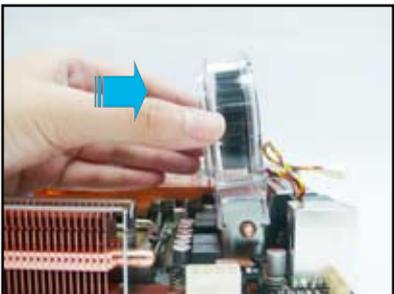
水冷クーラーを使用している場合は、オプションファンを2台取り付けてください。アクティブクーラーに加えてオプションファンを取り付けると、エアフローが乱れ、逆効果となります。

オプションファン（正面）

1. パイプとヒートシンクの位置を確認します。
2. 溝のある方をヒートシンクに合わせます。

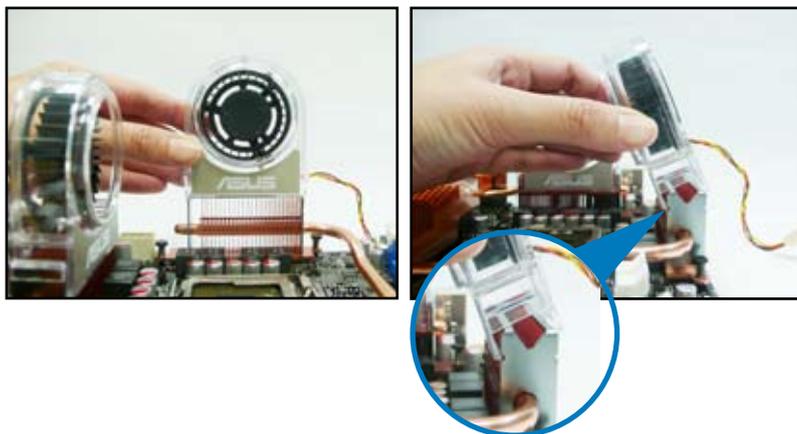


3. シンクにしっかり固定されるまでファンをゆっくり押し下げ、ファンケーブルを接続します。
4. 下はマザーボードにファンを取り付けた写真です。

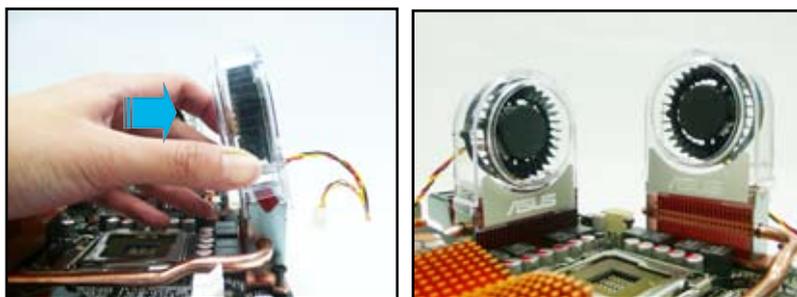


- オプションのファンケーブルは OPT_FAN2 コネクタに接続します。
- オプションファンを取り付ける際は正しく取り付けてください。誤った取り付けは故障の原因となります。

5. もう1台のオプションファンを取り付ける手順は、手順1～4に準じます。



6. 下の写真はオプションファンを2台取り付けたものです。



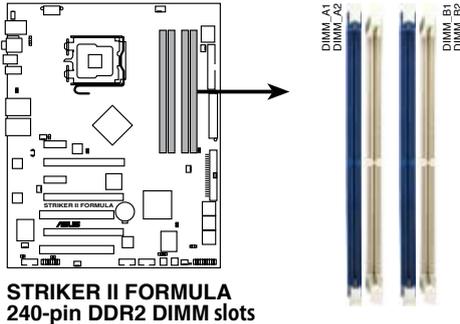
オプションのファンケーブルは PWR_FAN コネクタに接続します。

2.4 システムメモリ

2.4.1 概要

本製品には、DDR 2 SDRAM に対応したメモリスロットが4つ搭載されています。

次の図は、スロットの場所を示しています。



チャンネル	スロット
Channel A	DIMM_A1 と DIMM_A2
Channel B	DIMM_B1 と DIMM_B2

- このチップセットはメモリ周波数 DDR2 800MHz までを公式サポートしています。またASUS Super Memspeed Technology の搭載により、DDR2 1066MHz をネイティブサポート。サポートしているパターンは次の表をご参照ください。

FSB	DDR2
1333	1066*
1333	800
1333	667
1066	1066*
1066	800
1066	667

- *DDR2-1066 メモリを取り付ける場合は、BIOS で「MEM(DDR), MHz」の項目を [1066] に設定してください。詳細はセクション「4.4. Extreme Tweaker メニュー」をご参照ください。

2.4.2 メモリ構成

512 MB、1 GB、2 GB unbuffered non-ECC DDR2 メモリをメモリスロットに取り付けることができます。

推奨メモリ構成

モード	スロット			
	DIMM_A1	DIMM_A2	DIMM_B1	DIMM_B2
シングルチャンネル	使用	-	-	-
	-	-	使用	-
デュアルチャンネル(1)	使用	-	使用	-
デュアルチャンネル(2)	使用	使用	使用	使用



- サイズの異なるメモリを Channel A と Channel B に取り付けることができます。異なる容量のメモリをデュアルチャンネル構成で取り付けた場合、デュアルチャンネルアクセス領域はメモリ容量の合計値が小さい方のチャンネルに合わせて割り当てられ、サイズの大きなメモリの超過分に関してはシングルチャンネル用に割り当てられます。
- 同じ CAS レイテンシを持つメモリを取り付けてください。またメモリは同じベンダーからお求めになることをお勧めします。
- 1 GB メモリを 4 枚取り付けた場合、アドレススペースが他の重要な機能に割り当てられるため、システムが検出するシステムメモリは 3GB 以下になります。Windows® XP/Vista 32-bit OS では Physical Address Extension (PAE) をサポートしません。
- Windows® XP/Vista 32bit OS 環境では、システムメモリが 3GB 以下になるようにメモリ構成することをお勧めします。
- 本マザーボードは 128 Mbit のメモリチップを搭載したメモリモジュールは動作保証致しかねます。



メモリの制限についての注記

- チップセットの制限により、下のOSでは8 GBまでのサポートとなります。各スロットに取り付け可能なメモリは最大 2 GB です。

64-bit

Windows® XP Professional x64 Edition

Windows® Vista x64 Edition

- 旧バージョンの DDR2-800 メモリには、Intel®のOn-Die-Termination (ODT) 要求に適合しないものがあり、これらのメモリが取り付けられた場合、システムはメモリの設定を自動的にダウングレードし、メモリをDDR2-667で動作させます。この問題が生じた場合、メモリベンダーにODTの値をご確認ください。
- チップセットの制限により、CL=4のDDR2-800メモリが取り付けられた場合、システムはメモリの設定をダウングレードし、メモリを初期設定のDDR2-667で動作させます。メモリをより低いレイテンシで動作させる場合は、メモリタイミングを手動で調節してください。

メモリのQVL (推奨ベンダーリスト) DDR2-1066MHz

サイズ	ベンダー	チップ No.	SS/ DS	パーツ No	メモリサポート		
					A*	B*	C*
512MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	SS	KHX8500D2/512	.	.	.
1024MB	MICRON	Z9JKJ	SS	MT8HTF12864AY-1GAEZES	.	.	.
2048MB	MICRON	Z9JKJ	DS	MT16HTF25664AY-1GAEZES	.	.	.
1024MB	CORSAIR	Heat-Sink Package	DS	CM2X1024-8500C5	.	.	.



サイド: SS - シングルサイド DS - ダブルサイド メモリサポート:

- **A*:** シングルチャンネルメモリ構成として、メモリ 1 枚をいずれかのスロットに取り付けることが可能。
- **B*:** 1 組のデュアルチャンネルメモリ構成として、2 枚 1 組のメモリをブルーまたは白のいずれかのスロットに取り付けることが可能。
- **C*:** 2 組のデュアルチャンネルメモリ構成として、4 枚のメモリをブルーのスロットと白のスロット両方に取り付けることが可能。



最新の DDR2-1066/800/667MHz QVLは、ASUSのWebサイト (<http://www.asus.co.jp/>)をご参照ください。

メモリのQVL (推奨ベンダーリスト) DDR2-800MHz

サイズ	ベンダー	チップ No.	SS/ DS	パーツ No	メモリサポート		
					A*	B*	C*
512MB	KINGSTON	K4T51083QC	SS	KVR800D2N5/512	.	.	.
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	DS	KHX6400D2LL/1G	.	.	.
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	SS	KHX6400D2LLK2/1GN	.	.	.
1024MB	KINGSTON	V59C1512804QB25	DS	KVR800D2N5/1G	.	.	.
1024MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	SS	KHX6400D2ULK2/1G	.	.	.
2048MB	KINGSTON	Heat-Sink Package	DS	KHX6400D2ULK2/2G	.	.	.
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF25F	DS	HYS64T128020HU-25F-B	.	.	.
1024MB	Hynix	HY5PS12821CFP-S5	DS	HYMP512U64CP8-S5	.	.	.
512MB	MICRON	D9GKX	SS	MT8HTF6464AY-80ED4	.	.	.
1024MB	MICRON	D9GKX	DS	MT16HTF12864AY-80ED4	.	.	.
1024MB	CORSAIR	Heat-Sink Package	DS	CM2X1024-6400C4	.	.	.
512MB	Crucial	Heat-Sink Package	SS	BL6464AA804.8FD	.	.	.
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AA804.16FD	.	.	.
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AL804.16FD3	.	.	.
1024MB	Crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AA804.16FD3	.	.	.
1024MB	Apacer	Heat-Sink Package	DS	AHU01GE800C5K1C	.	.	.
512MB	A-DATA	AD29608A8A-25EG	SS	M20AD6G3H3160G1E53	.	.	.
1024MB	A-DATA	AD26908A8A-25EG	DS	M20AD6G3J417011E58	.	.	.
512MB	KINGMAX	KA8FE1BF-HJK-25A	SS	KLDC28F-ABK15	.	.	.
1024MB	KINGMAX	KA8FE1BF-HJK-25A	DS	KLDD48F-ABK15	.	.	.
512MB	Super Talent	Heat-Sink Package	SS	T800UA12C4	.	.	.
1024MB	Super Talent	Heat-Sink Package	DS	T800UB1GC4	.	.	.
1024MB	NANYA	NT5TU64M8BE-25C	DS	NT1GT64U8HB0BY-25C	.	.	.
1024MB	NANYA	NT5TU64M8CE-25D	DS	NT1GT64U8HCOBY-25D	.	.	.
512MB	PSC	A3R12E3HEF641B9A05	SS	AL68E63B8E1K	.	.	.
1024MB	PSC	A3R12E3HEF641B9A05	DS	AL7E8E63B-8E1K	.	.	.
256MB	TwinMOS	E2508AB-GE-E	SS	8G-24K2-EBT	.	.	.
1024MB	Elixir	N2TU51280BE-25C	DS	M2Y1G64TU8HB0B-25C	.	.	.

メモリのQVL (推奨ベンダーリスト) DDR2-667MHz

サイズ	ベンダー	チップ No.	SS/ DS	パーツ No	メモリサポート		
					A*	B*	C*
512MB	KINGSTON	D6408TEBGL3U	SS	KVR667D2N5/512	•	•	•
256MB	KINGSTON	HYB18T5256800AF3S	SS	KVR667D2N5/256	•	•	
256MB	KINGSTON	6SBI2D9DCG	SS	KVR667D2N5/256	•	•	•
2048MB	KINGSTON	E1108AB-6E-E	DS	KVR667D2N5/2G	•	•	•
256MB	Qimonda	HYB18T512160BF-3S	SS	HYS64T32000HU-3S-B	•	•	•
512MB	Qimonda	HYB18T512800BF3S	SS	HYS64T64000HU-3S-B	•	•	•
1024MB	Qimonda	HYB18T512800BF3S	DS	HYS64T128020HU-3S-B	•	•	
512MB	SAMSUNG	ZCE6K4T51083QC	SS	M378T6553CZ0-CE6	•	•	•
256MB	SAMSUNG	K4T51163QC-ZCE6	SS	M378T3354CZ3-CE6	•	•	•
512MB	SAMSUNG	K4T51083QC	SS	M378T6553CZ3-CE6	•	•	•
1024MB	SAMSUNG	ZCE6K4T51083QC	DS	M378T2953CZ3-CE6	•	•	•
256MB	SAMSUNG	K4T51163QE-ZCE6	SS	M378T3354EZ3-CE6	•	•	•
512MB	SAMSUNG	K4T51083QE	DS	M378T6553EZ3-CE6	•	•	•
1024MB	SAMSUNG	K4T51083QE	DS	M378T2953EZ3-CE6	•	•	•
256MB	Hynix	HY5PS121621CFP-Y5	SS	HYMP532U64CP6-Y5	•	•	•
1024MB	Hynix	HY5PS12821CFP-Y5	DS	HYMP512U64CP8-Y5	•	•	•
512MB	CORSAIR	64M8CFEG	SS	V5S12MB667D2	•	•	•
1024MB	CORSAIR	64M8CFEG	DS	V51GB667D2	•	•	•
256MB	ELPIDA	E2508AB-6E-E	SS	EBE25UC8ABFA-6E-E	•	•	•
512MB	ELPIDA	E5108AE-6E-E	SS	EBE51UD8AEFA-6E-E	•	•	•
512MB	A-DATA	AD29608A8A-3EG	SS	M20AD5G3H316611CS2	•	•	•
1024MB	A-DATA	AD29608A8A-3EG	DS	M20AD5G3H417611CS2	•	•	•
2048MB	A-DATA	NT5TU128M8BJ-3C	DS	M20NY5H3J417011CSZ	•	•	•
512MB	crucial	Heat-Sink Package	SS	BL6464AA663.8FD	•	•	•
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AA663.16FD	•	•	•
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AL664.16FD	•	•	•
1024MB	crucial	Heat-Sink Package	DS	BL12864AA663.16FD2	•	•	•
512MB	Apacer	AM4B5708GQJ57E0628F	SS	AUS12E667C5KBGC	•	•	•
1024MB	Apacer	AM4B5708GQJ57E	DS	AU01GE667C5KBGC	•	•	•
256MB	Kingmax	N2TU51216AG-3C	SS	KLCB68F-36KH5	•	•	•
512MB	Kingmax	KKEA88B4LAUG-29DX	SS	KLCC28F-A8KB5	•	•	•
1024MB	Kingmax	KKEA88B4LAUG-29DX	DS	KLCD48F-A8KB5	•	•	•
512MB	Super Talent	Heat-Sink Package	SS	T6UA512C5	•	•	•
1024MB	Super Talent	Heat-Sink Package	DS	T6UB1GC5	•	•	•
2048MB	NANYA	NT5TU128M8BJ-3C	DS	NT2GT64U8HB0JY-3C	•	•	•
512MB	NANYA	NT5TU64M8BE-3C	SS	NTS12T64U88B0BY-3C	•	•	•
512MB	PSC	A3R12E3GEF637BLC5N	SS	AL6BE8E63B-6E1K	•	•	•
1024MB	PSC	A3R12E3GEF637BLC5N	DS	AL7E8E63B-6E1K	•	•	•
512MB	TwinMOS	TMM6208G8M30C	SS	8D-23JK5M2ETP	•	•	•

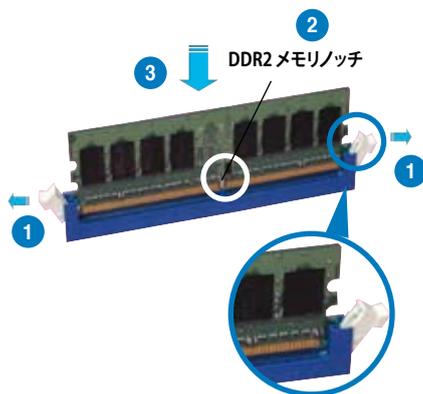
2.4.3 メモリを取り付ける



メモリや、その他のシステムコンポーネントを追加、または取り外す前に、コンピュータの電源プラグを抜いてください。プラグを差し込んだまま作業すると、マザーボードとコンポーネントが破損する原因となります。

手順

1. クリップを外側に押して、メモリスロットのロックを解除します。
2. メモリのノッチがスロットの切れ目に一致するように、メモリをスロットに合わせます。
3. クリップが所定の場所に戻りメモリが正しく取り付けられるまで、メモリをスロットにしっかり押し込みます。



ロック解除されたクリップ



- DDR 2メモリは取り付ける向きがあります。間違った向きでメモリを無理にスロットに差し込むと、メモリが損傷する原因となります。
- DDR2メモリのスロットはDDRメモリをサポートしていません。DDR2メモリのスロットにDDRメモリを取り付けしないでください。

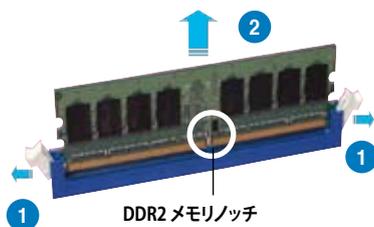
2.4.4 メモリを取り外す

手順

1. クリップを外側に同時に押してメモリのロックを解除します。



クリップを押しているとき、指でメモリを軽く引っぱります。無理な力をかけてメモリを取り外すとメモリが破損する恐れがあります。



2. スロットからメモリを取り外します。

2.5 拡張スロット

拡張カードを取り付ける場合は、このページに書かれている拡張スロットに関する説明をお読みください。



拡張カードの追加や取り外しを行う前は、電源コードを抜いてください。電源コードを接続したまま作業をすると、負傷や、マザーボードコンポーネントの損傷の原因となります。

2.5.1 拡張カードを取り付ける

手順

1. 拡張カードを取り付ける前に、拡張カードに付属するマニュアルを読み、カードに必要なハードウェアの設定を行ってください。
2. コンピュータのケースを開けます（マザーボードをケースに取り付けている場合）。
3. カードを取り付けるスロットのブラケットを取り外します。ネジは後で使用するので、大切に保管してください。
4. カードの端子部分をスロットに合わせ、カードがスロットに完全に固定されるまでしっかり押します。
5. カードをネジでケースに固定します。
6. ケースを元に戻します。

2.5.2 拡張カードを設定する

拡張カードを取り付けた後、ソフトウェアの設定を行い拡張カードを使用できるようにします。

1. システムの電源をオンにし、必要であれば BIOS の設定を変更します。BIOS の設定に関する詳細は、Chapter 4 をご参照ください。
2. IRQ (割り込み要求) 番号をカードに合わせます。次のページの表を参照してください。
3. 拡張カード用のソフトウェアドライバをインストールします。



PCI カードを共有スロットに挿入する際は、ドライバが IRQ の共有をサポートすること、または、カードが IRQ 割り当てを必要としないことを確認してください。IRQ を要求する 2 つの PCI グループが対立し、システムが不安定になりカードが動作しなくなる場合があります。詳細は次項の表をご参照ください。

2.5.3 割り込み割り当て

IRQ	標準機能
0	システムタイマー
1	キーボードコントローラ
6	フロッピーディスクコントローラ
8	システム CMOS/リアルタイムクロック
9	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ
10	NVIDIA nForce PCI システムマネージメント
11	PCI ステアリング用 IRQ ホルダ
12	PS/2 互換マウスポート
13	数値データプロセッサ
14	プライマリ IDE チャンネル
19	VIA OHCI 対応 IEEE 1394 ホストコントローラ
20	NVIDIA ネットワークバスエミュレータ
20	NVIDIA nForce Serial ATA コントローラ
21	NVIDIA ネットワークバスエミュレータ
21	標準エンハンス PCI to USB ホストコントローラ
22	HD オーディオ用 Microsoft UAA パスドライバ
22	nForce Serial ATA コントローラ
23	nForce Serial ATA コントローラ
23	標準 OpenHCD USB ホストコントローラ

本マザーボード用のIRQ割り当て

	A	B	C	D	E	F	G	H
PCI スロット 1	共有	-	-	-	-	-	-	-
LAN (8056)	共有	-	-	-	-	-	-	-
SATA (368)	共有	-	-	-	-	-	-	-
LAN (8056)	-	共有	-	-	-	-	-	-
PCIe x16_1	共有	-	-	-	-	-	-	-
PCIe x16_2	共有	-	-	-	-	-	-	-
PCIe x16_3	共有	-	-	-	-	-	-	-
PCIe x1_1	-	共有	-	-	-	-	-	-
PCIe x1_2	共有	-	-	-	-	-	-	-
USB コントローラ 1	-	-	-	-	-	-	-	共有
USB コントローラ 2	-	-	-	共有	-	-	-	-
USB コントローラ 3	-	-	共有	-	-	-	-	-
USB コントローラ 4	共有	-	-	-	-	-	-	-
USB コントローラ 5	-	-	-	-	-	共有	-	-
USB コントローラ 6	-	-	共有	-	-	-	-	-
USB 2.0 コントローラ 1	-	-	-	-	-	-	-	共有
USB 2.0 コントローラ 2	-	-	共有	-	-	-	-	-
SATA コントローラ 1	-	-	-	-	-	-	共有	-
SATA コントローラ 2	-	-	-	-	-	-	共有	-

2.5.4 PCI スロット

LAN カード、SCSI カード、USB カード等の PCI 規格準拠のカードをサポートしています。各スロットの位置は下の図で確認してください。

2.5.5 PCI Express x1 スロット

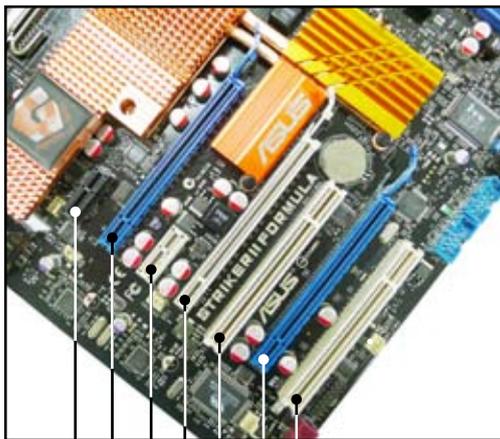
本マザーボードは PCI Express x1 ネットワークカード、SCSI カード等の PCI Express 規格準拠のカードをサポートしています。スロットの位置は下の写真をご参照ください。



- 製品付属のオーディオカードは、なるべくブラックの PCIe x1 スロットにとりつけるようにしてください。
- PCIe x1 のデバイスを取り付ける場合は、なるべく PCIe x16 スロットではなく、PCIe x1 のスロットに取り付けてください。

2.5.6 PCI Express x16 スロット

本マザーボードは PCI Express 規格準拠の SLI™-ready Express x16 ビデオカード 3 枚をサポート可能です。ビデオカード 3 枚を取り付けることで、トリプルディスプレイが可能になります。3 基の PCI Express x16 スロットのうち、ブルーの 2 基は PCIe 2.0 デバイスをサポートします。



Audio/PCI Express x1 スロット

PCI Express x16 スロット

PCI Express x1 スロット

PCI Express x16 スロット

PCI スロット

PCI Express x16 スロット

PCI スロット



-
- ビデオカード 1 枚をプライマリ（ブルー） PCI Express x16 スロットに取り付け、その他の PCI Express デバイスをユニバーサル（ブラック） PCI Express x16 スロットに取り付けることをお勧めします。
 - 現在、3 ウェイ SLI™ モードをサポートするビデオカードは、NVIDIA® SLI™-Ready **GeForce® 8800 Ultra and GeForce® 8800 GTX** だけです。
 - ビデオカードを 2 枚以上取り付ける場合は、リアケースファンをマザーボードコネクタ（CHA_FAN1 または OPT_FAN1/3）に接続してください。（詳細：ページ 2-36 参照）
 - シングルカードモードでは、パフォーマンスを上げるため、PCI Express x16 ビデオカードは PCIe 2.0 スロット（ブルー）のいずれかに取り付けることをお勧めします。
 - SLI™ モードでは、パフォーマンスを上げるため、PCIe 2.0 スロット（ブルー）に PCI Express x16 ビデオカードを 2 枚取り付けることをお勧めします。
 - NVIDIA® SLI™ モードで動作させる場合は、動作させるのに十分な電源装置をご使用ください。（詳細：ページ 2-38 参照）
-

2.6 スライドスイッチ

1. RTC RAMのクリア (CLRRTC_SW)

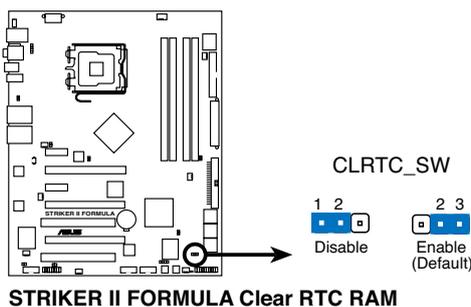
このオンボードスライドスイッチは、**clr CMOS** スイッチを有効にするものです。CMOS RTC RAMのデータを消去することにより、日、時、およびシステム設定パラメータをクリアできます。バックパネルI/Oにあるこの**clr CMOS** スイッチにより、システムパスワードなどのシステムセットアップ情報が簡単にクリアできます。

RTC RAMをクリアする手順

1. コンピュータの電源をオフにし電源コードをコンセントから抜きます。
2. clr CMOS スイッチを押します。
3. 電源コードを差し込み、コンピュータの電源をオンにします。
4. 起動プロセスの間キーを押し、BIOS設定に入ったらデータを再入力します。



キャップは取り外さないでください。システムの起動エラーの原因となります。



clr CMOS スイッチの動作

システム電源状態	G3*	S5*	S0 (DOS モード)	S0 (OS モード)	S1	S3	S4
CMOSのクリア	●	●	●**				

*G3: +5VSB 電源無しの場合電源オフ (AC電力が停止) ; S5: +5VSB 電源ありの場合電源オフ

** システムは直ちにシャットダウンします。

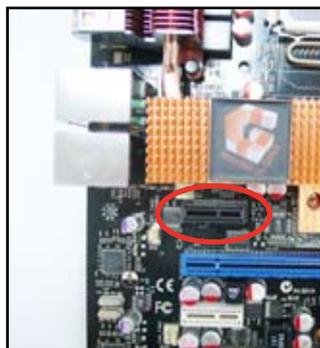


- CLRRTC_SW スイッチが「Disable」の位置に移動している場合、clr CMOS スイッチは機能しませんが、S0 モード (DOS モード)でのシャットダウン機能はまだ機能します。
- CMOSクリア後はクリアする前のBIOS 設定を再入力してください。
- CPUのオーバークロックによりシステムがハングした場合は、RTCをクリアする必要はありません。C.P.R. (CPU Parameter Recall) 機能を利用し、システムを停止して再起動すると、BIOS は自動的にパラメータ設定を初期設定値にリセットします。メモリアイミングまたはチップセット電圧のオーバークロックによりシステムがハングし、電源ボタンが機能しない場合は、**clr CMOS** スイッチを押すことでシステムをシャットダウンし、同時にCMOSをクリアします。

2.7 オーディオカード、I/O シールド、LCD Poster を取り付ける

2.7.1 オーディオカードを取り付ける

1. オーディオカードをパッケージから取り出します。
2. マザーボード上のスロットの位置を確認します。



3. カードコネクタとスロットの位置を合わせ、カードをスロットにしっかり固定します。
4. 以下はオーディオカードをマザーボードに取り付けた写真です。



2.7.2 I/O シールドと LCD Poster を取り付ける

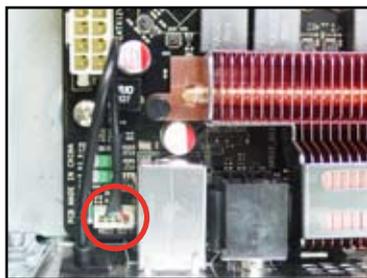
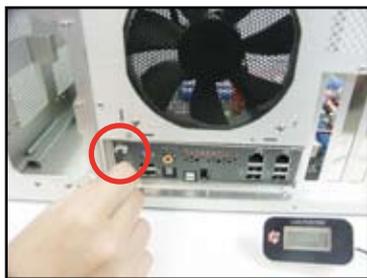
1. I/O シールドをケースバックパネルに取り付けます。マザーボードのバックポートが I/O の各開口部に収まるように向きを確認し、I/O シールドを所定の位置に固定します。
2. マザーボードの I/O 側とケースバックパネルの位置を合わせ、マザーボードをケースに取り付けます。



I/Oシールドを取り付ける際は、I/Oシールドの突起部分によりマザーボード側のI/Oポートが損傷しないように注意してください。



3. LCD Poster のケーブルを開口部に通し、所定の位置に取り付けます。
4. LCD Poster のケーブルをオンボードコネクタ (LCD_CONと表示) に接続します。

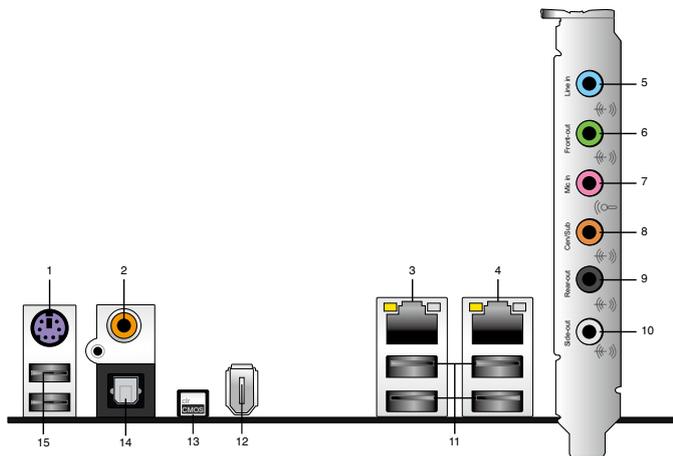


5. 右の写真はLCD Poster を設置した例です。お好きな場所に置き、画面をモニタしてください。

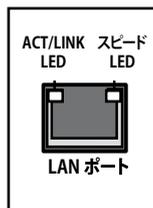


2.8 コネクタ

2.8.1 リアパネルコネクタ



1. **PS/2 キーボードポート (パープル)**: PS/2 キーボード用です。
2. **コアキシャル S/PDIF 出力ポート**: コアキシャル S/PDIF ケーブルを使って外部オーディオ出力デバイスを接続することができます。
3. **LAN 2 (RJ-45) ポート**: ネットワークハブを通して、LAN での Gigabit 接続をサポートします。LAN ポートLEDの表示については、下の表を参考にしてください。
4. **LAN 1 (RJ-45) ポート**: ネットワークハブを通して、LAN での Gigabit 接続をサポートします。LAN ポートLEDの表示については、下の表を参考にしてください。



32bit OS LAN ポート LED

Activity/Link	スピード LED	説明
オフ	オフ	ソフトオフモード
イエロー*	オフ	電源 オン/オフの途中
イエロー*	オレンジ	100 Mbps

* 点滅中

64bit OS LAN ポート LED

Activity/Link	スピード LED	説明
オフ	オフ	ソフトオフモード
イエロー*	オフ	電源 オン/オフの途中
イエロー*	オレンジ	100 Mbps
イエロー*	グリーン	1 Gbps

* 点滅中

5. **ライン入力ポート(ライトブルー)**:テープ、CD、DVDプレーヤー、またはその他のオーディオソースを接続します。
6. **ライン出力ポート(ライム)**:ヘッドフォンやスピーカーを接続します。4、6、8チャンネルの出力設定のときは、このポートはフロントスピーカー出力になります。
7. **マイクポート(ピンク)**:マイクを接続します。
8. **センター/サブウーファポート(オレンジ)**:センター/サブウーファスピーカーを接続します。
9. **リアスピーカー出力ポート(ブラック)**:このポートは4チャンネル、6チャンネル、8チャンネルのオーディオ構成で使用します。
10. **サイドスピーカー出力ポート(グレー)**:8チャンネルオーディオ構成でサイドスピーカーを接続します。



2、4、6、8チャンネル構成時のオーディオポートの機能については、以下のオーディオ構成表を参考にしてください。

オーディオ構成表

ポート	ヘッドセット 2チャンネル	4チャンネル	6チャンネル	8チャンネル
ライトブルー	ライン入力	ライン入力	ライン入力	Line In
ライム	ライン出力	フロントスピーカー出力	フロントスピーカー出力	フロントスピーカー出力
ピンク	マイク入力	マイク入力	マイク入力	マイク入力
オレンジ	-	-	センタ/サブウーファ	センタ/サブウーファ
ブラック	-	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力	リアスピーカー出力
グレー	-	-	-	サイドスピーカー出力

11. **USB 2.0 ポート 1、2、3、4**: USB 2.0デバイスを接続することができます。
12. **IEEE 1394a ポート**: オーディオ/動画デバイス、記憶装置、PC、ポータブルデバイス等の高速接続を可能にします。
13. **clr CMOS スイッチ**: オーバークロックによりシステムがハングした場合、clr CMOS スイッチを押してセットアップ情報をクリアします。
14. **光デジタル S/PDIF 出力ポート**: 光デジタル S/PDIF ケーブルを使って外部オーディオ出力デバイスを接続することができます。
15. **USB 2.0 ポート 5 と 6**: USB 2.0デバイスを接続することができます。

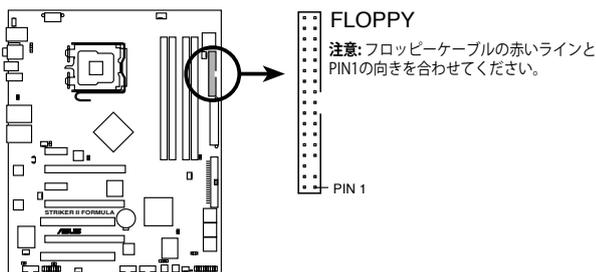
2.8.2 内部コネクタ

1. フロッピーディスクドライブコネクタ (34-1ピンFLOPPY)

フロッピーディスクドライブ (FDD) ケーブル用コネクタです。ケーブルの一方をこのコネクタに挿入し、もう一方をフロッピーディスクドライブの背面に接続します。



誤ってケーブルを接続しないように、コネクタのピン5は取り外されています。



STRIKER II FORMULA Floppy disk drive connector

2. IDE コネクタ (40-1ピン PRI_IDE)

Ultra DMA133/100/66 ケーブル用です。各 Ultra DMA 133/100/66 ケーブルにはブルー、ブラック、グレーの3つのコネクタがあります。マザーボードのIDEコネクタにはブルーを接続し、下からいずれかのモードを選択してください。

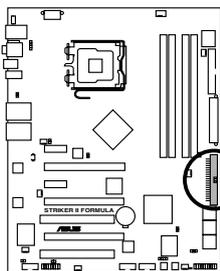
	ドライブジャンパ設定	デバイスのモード	ケーブルコネクタ
デバイス1台	Cable-Select/ マスター	-	ブラック
デバイス2台	Cable-Select	マスター	ブラック
		スレーブ	グレー
	マスター	マスター	ブラック/ グレー
	スレーブ	スレーブ	



- 誤ってケーブルを接続しないようにコネクタのピン20は取り外されています。
- Ultra DMA 133/100/66 IDE デバイスの場合は、80ピンタイプのIDEケーブルを使用します。



あるデバイスジャンパを「Cable-Select」に設定した場合は、他のデバイスジャンパも全て同じ設定にしてください。



PRI_IDE

注意: フロッピーケーブルの赤いラインと PIN1の向きを合わせてください。

STRIKER II FORMULA IDE connector

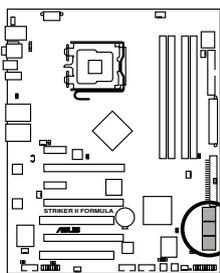
3. Serial ATA コネクタ (7ピン SATA1-6)

これらコネクタは Serial ATA ケーブル用で、Serial ATA ハードディスクドライブに使用します。

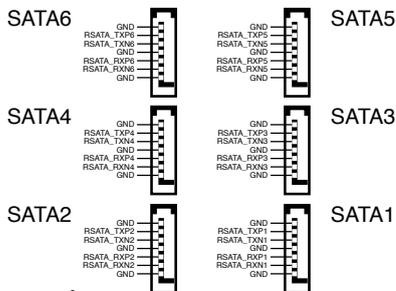
Serial ATA HDDを取り付けると、オンボード搭載の NVIDIA® MediaShield™ RAID コントローラで RAID 0、RAID 1、RAID 0+1、RAID 5、JBOD が構築できます。



- これらコネクタは初期設定で [Disabled] に設定されています。Standard IDE モードでは、Serial ATA ブート/データハードディスクドライブをこれらのコネクタに接続することができます。これらのコネクタを使用して Serial ATA RAID を構築する場合は、BIOS で [RAID Enabled] の項目を有効にしてください。詳細はセクション「4.5.3 オンボードデバイス設定構成」をご覧ください。
- RAID 5 には最低 3 台の HDD、RAID 0+1 には最低 4 台の HDD、RAID 0 または RAID 1 には 2 ~ 4 台の Serial ATA HDD をご使用ください。
- RAID を構築する際には、セクション「5.4.2 NVIDIA® RAID」、または マザーボードのサポート DVD に収録されているマニュアルをご参照ください。



STRIKER II FORMULA SATA connectors



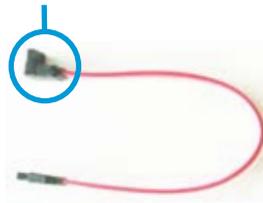


Serial ATA ハードディスクドライブを使用する前に、Windows® XP Service Pack 1 のインストールが必要です。Serial ATA RAID 機能 (RAID 0/RAID 1/RAID 5 /RAID 10)は Windows® XP 以降のOS環境でのみ利用することができます。



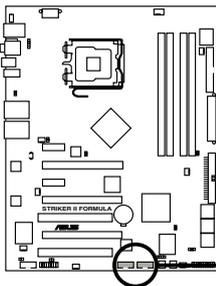
SATAケーブルの直角部分を SATA デバイスに接続します。あるいは、オンボード SATA ポートに接続してビデオカードとの衝突を避けることもできます。

直角部分

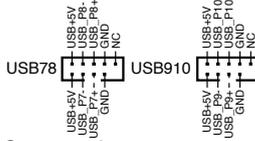
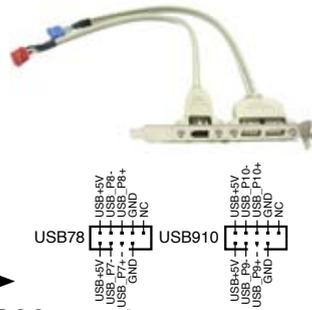


4. USB コネクタ (10-1 ピン USB 78、USB 910)

USB 2.0 ポート用のコネクタです。USBケーブルをこれらのコネクタに接続します。このコネクタは最大 480 Mbps の接続速度を持つ USB 2.0 規格に準拠しています。



STRIKER II FORMULA USB 2.0 connectors



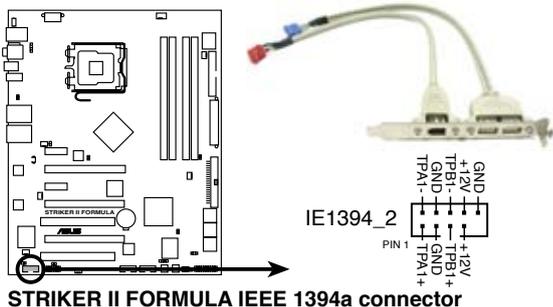
1394 ケーブルを USB コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。



まずUSB ケーブルをASUS Q-Connector (USB、ブルー)に接続し、Q-Connector (USB)をオンボードUSB コネクタに取り付けると接続が短時間で行えます。

5. IEEE 1394a ポートコネクタ (10-1 ピン IE1394_2)

IEEE 1394a ポート用です。IEEE 1394a ケーブルをこのコネクタに接続します。



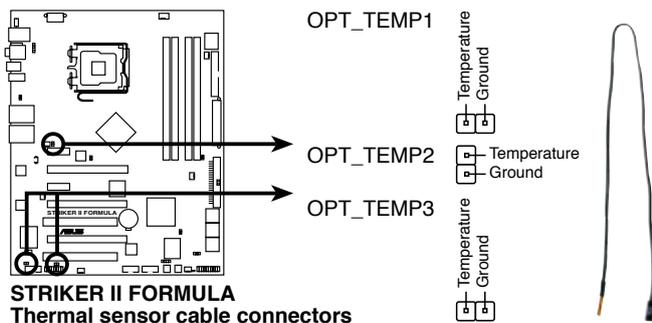
USBケーブルを IEEE 1394a コネクタに接続しないでください。マザーボードが破損する原因となります。



まず、1394 ケーブルを ASUS Q-Connector (1394、レッド) に接続し、Q-Connector (1394) をオンボード1394 コネクタに取り付けると接続が短時間で済みます。

6. サーマルセンサーケーブルコネクタ (2ピン OPT_TEMP1/2/3)

温度モニター用のコネクタです。サーマルセンサーケーブルをこれらコネクタに接続し、もう一方を温度をモニターするデバイスに接続します。この機能とオプションファン1/2/3により、より高い冷却効果が期待できます。



[OPT1/2/3 Cable Overheat Protection] に設定した場合、サーマルセンサーケーブルをデバイスから取り外してください。(詳細：4-38 参照)



サーマルセンサーケーブルは別売りとなっております。

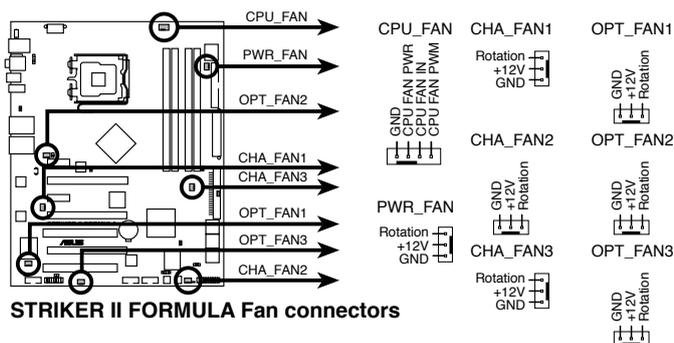
7. CPU ファンコネクタ、ケースファンコネクタ、電源ファンコネクタ、オプションファンコネクタ

(4ピン CPU_FAN、3ピン CHA_FAN1-3、3ピン PWR_FAN、3ピン OPT_FAN1-3)

各ファンコネクタは+12Vで、350 mA ~ 1000 mA (最大 24 W) またはトータルで 1 A ~ 3.48 A (最大 41.76 W) の冷却ファンをサポートします。ファンケーブルをマザーボードのファンコネクタに接続し、各ケーブルの黒いワイヤがコネクタのアースピンに接続されていることを確認します。



ケース内に十分な空気の流れがないと、マザーボードコンポーネントが破損する恐れがあります。組み立ての際にはシステムの冷却ファン (吸/排気ファン) を必ず搭載してください。また、吸/排気ファンの電源をマザーボードから取得することで、エアフローをマザーボード側で効果的にコントロールすることができます。また、これはジャンパピンではありません。ファンコネクタにジャンパキャップを取り付けないでください。

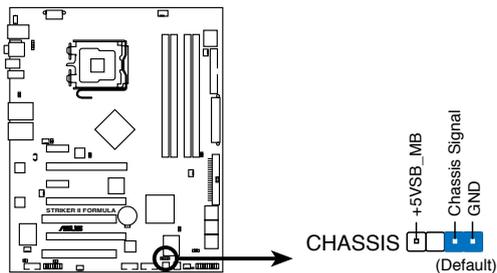


- CPU_FAN、CHA_FAN1-3、OPT_FAN1-3 コネクタのみがASUS Q-Fan 2 機能に対応しています。
- ビデオカードを 2 枚取り付ける場合は、システムの温度上昇を防ぐため、ケースファンケーブルをマザーボード側の CHA_FAN1 または OPT_FAN1/3 と表示のあるコネクタに接続することをお勧めします。

8. ケース開閉検出コネクタ (4-1 ピン CHASSIS)

ケース開閉検出センサーまたはスイッチ用コネクタです。センサーまたはスイッチを接続してください。システムコンポーネントの取り外しや交換のときにケースを開けると、ケース開閉検出センサーまたはスイッチはこのコネクタに信号を送信します。信号はその後、ケース開閉検出イベントを発行します。

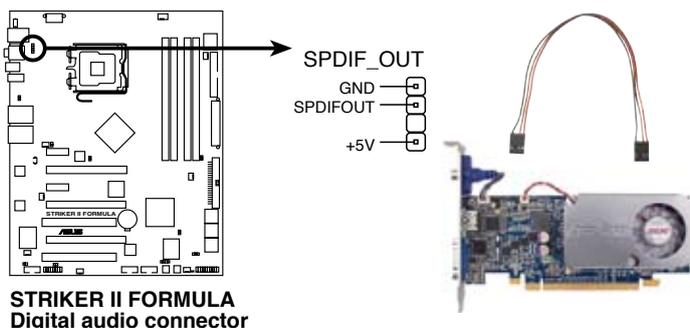
初期設定値では、「Chassis Signal」と「Ground」のピンの間はジャンパキャップにより、ショートされています。ケース開閉検出機能を使用する場合にのみ、ジャンパを取り外してケース開閉検出センサーを接続してください。



STRIKER II FORMULA Chassis intrusion connector

9. デジタルオーディオコネクタ (4-1ピン SPDIF_OUT、ASUS HDMI ビデオカード用)

このコネクタは追加のS/PDIFポート用で、S/PDIF 出力ケーブルをこのコネクタに接続します。ASUS HDMI 搭載のビデオカードをご使用の場合は、S/PDIF 出力ケーブルで HDMI カードをこのコネクタに接続してください。



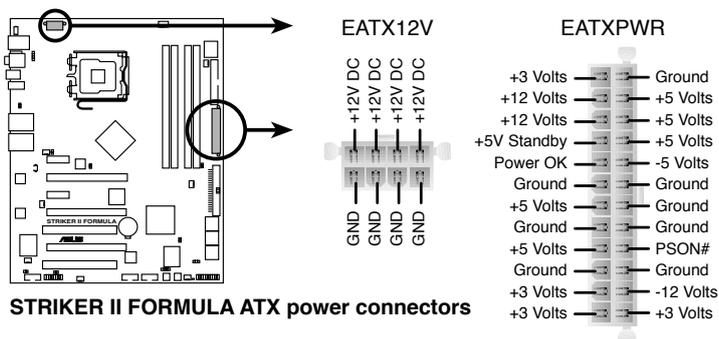
**STRIKER II FORMULA
Digital audio connector**



ASUS HDMI- 搭載のビデオカードと S/PDIF 出力ケーブルは別売りとなっております。

10. ATX 電源コネクタ (24ピン EATXPWR、8ピン EATX12V)

ATX電源プラグ用のコネクタです。電源プラグは正しい向きでのみ、取り付けられるように設計されています。正しい向きでしっかりと挿し込んでください。



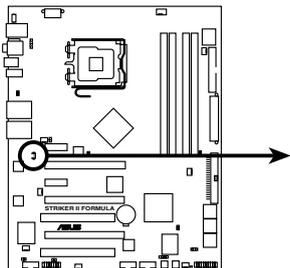
- EPS12V コネクタを使用する場合は、EATX12V コネクタのキャップを外してから8ピン EPS +12V 電源プラグに接続してください。
- EATX12V コネクタには8ピン EPS +12V 電源プラグのみをご使用ください。



- システムの快適なご利用のために、最低 400 W ATX 12 V 仕様 2.0 (またはそれ以降) 対応電源ユニットを使用することをお勧めします。
- 4ピン/8ピン EATX12V 電源プラグを必ず接続してください。システムが起動しなくなります。
- 大量に電力を消費するデバイスを使用する場合は、高出力の電源ユニットの使用をお勧めします。電源ユニットの能力が不十分だと、システムが不安定になる、またはシステムが起動できなくなる等の問題が発生する場合があります。
- ご使用のシステムに最低限必要な電源が分からない場合は、<http://support.asus.com/PowerSupplyCalculator/PSCalculator.aspx?SLanguage=en-us> の「Recommended Power Supply Wattage Calculator」をご参照ください。
- ATX 12 V 仕様 2.0対応 (400W) の電源ユニットは、以下の条件でテストした結果、本マザーボードの使用上問題がありません。
CPU: Intel® Pentium® Extreme 3.73GHz
メモリ: 512 MB DDR2 (× 4)
ビデオカード: ASUS EAX1900XT
Parallel ATA デバイス: IDE ハードディスクドライブ
Serial ATA デバイス: SATA ハードディスクドライブ (2台)
光学ドライブ: DVD-RW
- ハイエンド PCI Express x16 カードを 2枚 使用する場合は、500W ~ 600W、またはそれ以上の電源をご使用ください。
- 3ウェイ SLI™ システムを構築する場合は、NVIDIA の Web サイト (www.nvidia.com) 上のベンダーリストでテスト済みの電源装置をご確認ください。

11. ROG コネクタ (2ピン ROG)

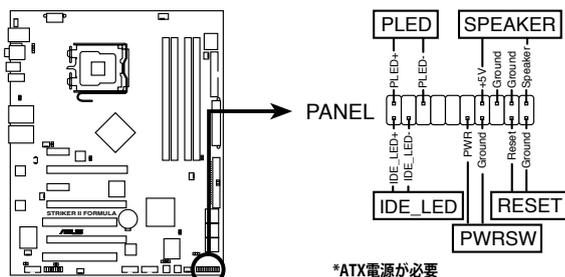
ヒートパイプアセンブリーのネームプレート (Republic of Gamers と表示) 用のコネクタです。ネームプレートのケーブルを接続します。システムがオンの場合、ネームプレートの LED が点灯します。



STRIKER II FORMULA ROG connector

12. システムパネルコネクタ (20-8 ピン PANEL)

これらのコネクタはケースに付属する各機能に対応しています。



STRIKER II FORMULA System panel connector

- **システム電源 LED (2 ピン PLED)**

システム電源LED用です。ケース電源LEDケーブルを接続してください。システムの電源LEDはシステムの電源をオンにすると点灯し、システムがスリープモードに入ると点滅します。

- **HDD Activity LED (2ピン IDE_LED)**

HDD Activity LED用です。HDD Activity LEDケーブルを接続してください。IDE LEDは、データがHDDと読み書きを行っているときに点灯するか点滅します。

- **ビープ (Beep) スピーカー (4 ピン SPEAKER)**

ケース取り付けのビープスピーカー用です。スピーカーはその鳴り方でシステムの不具合を報告し、警告を發します。

- **ATX 電源ボタン/ソフトオフボタン (2 ピン PWRSW)**

システムの電源ボタン用です。電源ボタンを押すとシステムの電源がオンになります。また BIOS の設定によってはシステムをスリープモードまたはソフトオフモードにすることができます。システムがオンになっているときに電源スイッチを押すと、システムの電源はオフになります。

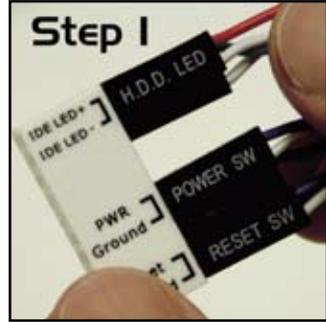
- **リセットボタン (2 ピン RESET)**

ケースに付属のリセットボタン用です。システムの電源をオフにせずにシステムを再起動します。

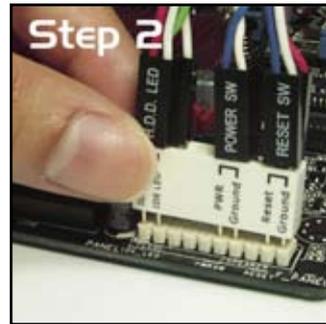
ASUS Q-Connector (システムパネル)

ASUS Q-Connector でケースフロントパネルケーブルの取り付け/取り外しが以下の手順で簡単に行えます。下は取り付け方法です。

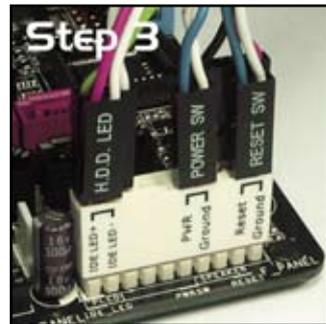
1. フロントパネルケーブルを ASUS Q-Connector に接続します。
向きはQ-Connector 上にある表示を参考にし、フロントパネルケーブルの表示と一致するように接続してください。



2. ASUS Q-Connector をシステムパネルコネクタに取り付けます。マザーボードの表示と一致するように取り付けてください。



3. フロントパネル機能が有効になりました。右は Q-connector を取り付けた写真です。

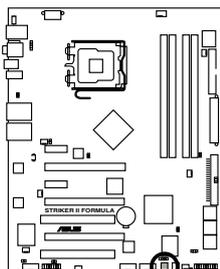


2.8.3 オンボードスイッチ

オンボードスイッチはむき出しのシステムを使ったパフォーマンスの調節に便利です。システムパフォーマンスを頻繁に行うゲーマー、オーバークロッカーに配慮した機能です。

1. パワーオンスイッチ

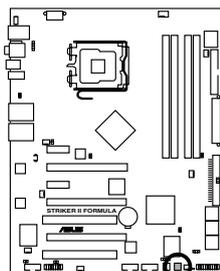
パワーオンスイッチを押すと、システムがウェークアップ/電源オンになります。



STRIKER II FORMULA Power on switch

2. リセットスイッチ

リセットスイッチを押すとシステムを再起動します。



STRIKER II FORMULA Reset switch

電源をオンにする手順から、音声による
POSTメッセージ、電源をオフにする手順

電源をオンにする



3.1	初めて起動する	3-1
3.2	コンピュータの電源をオフにする	3-2

3.1 初めて起動する

1. すべての接続が終了したら、システムケースのカバーを元に戻してください。
2. すべてのスイッチをオフにしてください。
3. 電源コードをケース背面の電源コネクタに接続します。
4. 電源コードをコンセントに接続します。
5. 以下の順番でデバイスの電源をオンにします。
 - a. モニター
 - b. 外部デバイス類(ディジーチェーンの最後のデバイスから)
 - c. システム電源
6. システムの電源をオンにすると、システム前面パネルケースのシステム電源LEDが点灯します。ATX電源装置を搭載したシステムの場合、ATX電源ボタンを押すとシステムLEDが点灯します。モニターが「グリーン」規格に準拠している場合や、電源スタンバイ機能を搭載している場合、システムの電源をオンにすると、モニターのLEDが点灯もしくはオレンジからグリーンに切り替わります。

次にシステムは、起動時の自己診断テスト (POST) を実行します。テストを実行している間、BIOSがビーブ音を出すか、スクリーンにメッセージが表示されます。電源をオンにしてから30秒以内に何も表示されない場合は、電源オンテストの失敗です。ジャンプ設定と接続を確認してください。問題が解決されない場合は、販売店にお問い合わせください。
7. 電源をオンにした直後に、<Delete>キーを押すとBIOS設定に入ります。Chapter 4の指示に従ってください。

3.2 コンピュータの電源をオフにする

3.2.1 OS シャットダウン機能を使用する

Windows® Vista™ ご利用の場合：

1. 「スタート」ボタンをクリックし、「シャットダウン」を選択します。
2. Windows® がシャットダウンした後、電源装置もオフになります。

Windows® XPをご使用の場合

1. スタートボタンをクリックし、「シャットダウン」を選択します。
2. 「電源を切る」をクリックし、コンピュータの電源をオフにします。
3. Windows® がシャットダウンした後、電源装置がオフになります。

3.2.2 電源スイッチのデュアル機能を使用する

システムがオンになっている間、電源スイッチを押してから4秒以内に離すとシステムはBIOS設定によりスリープモードまたはソフトオフモードに入ります。電源スイッチを4秒以上押すと、BIOS設定には関わらず、システムはソフトオフモードに入ります。
(詳細：『4.6 電源メニュー』参照)

BIOS セットアップメニューでのシステム設定の変更方法と BIOS パラメータの詳細

BIOS セットアップ

A large, light gray, stylized number '4' is positioned behind the main title text.

4.1	BIOS 管理更新	4-1
4.2	BIOS 設定プログラム.....	4-9
4.3	メインメニュー	4-13
4.4	Extreme Tweaker メニュー	4-18
4.5	拡張メニュー	4-29
4.6	電源メニュー	4-34
4.7	ブートメニュー	4-40
4.8	ツールメニュー	4-45
4.9	終了メニュー	4-48

4.1 BIOS 管理更新

次のユーティリティを使って、マザーボードのベーシックインプット/アウトプットシステム (BIOS) の管理更新を行います。

1. **ASUS Update** (Windows® 環境でBIOSを更新)
2. **ASUS EZ Flash 2** (USB フラッシュメモリ、サポート DVD を使用し、DOS モードで BIOS を更新)
3. **Award BIOS Flash ユーティリティ** (USB フラッシュディスク、CD ROM を使用し、BIOS を更新)
4. **ASUS CrashFree BIOS 2** (BIOS がダメージを受けた場合、サポート DVD を使用し、BIOS を更新)

ユーティリティの詳細については、このページ以降の各説明を参照してください。



BIOS を復旧できるように、オリジナルのマザーボード BIOS ファイルを USB フラッシュメモリにコピーしてください。BIOS のコピーにはASUS Update または Award BIOS Flash を使用します。

4.1.1 ASUS Update

ASUS Update は、Windows® 環境でマザーボードの BIOS を管理、保存、更新するユーティリティです。以下の機能を実行することができます。

- マザーボードの BIOS ファイルを保存する
- インターネットから最新の BIOS ファイルをダウンロードする
- 最新のBIOSファイルにBIOSを更新する
- インターネットから直接BIOSを更新する
- BIOSのバージョン情報を表示する

このユーティリティはマザーボードに付属しているサポート DVD からインストールします。



ASUS Update でインターネットを使用した機能を使用するためには、インターネット接続が必要です。

ASUS Update をインストールする

手順

1. 光学ドライブにサポート DVD をセットします。ドライブメニューが表示されます。
2. Utility タブをクリックし、「Install ASUS Update VX.XX.XX」をクリックします。
3. ASUS Update ユーティリティがシステムにインストールされます。

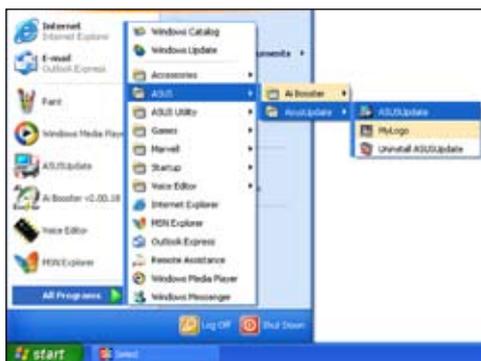


このユーティリティを使用してBIOSを更新する場合は、すべてのWindows®アプリケーションを終了してください。

インターネットを通してBIOSを更新する

手順

1. スタートメニュー → プログラム → **ASUS** → **ASUS Update** → **ASUS Update** をクリックします。ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。



2. ドロップダウンメニューから、「**Update BIOS from the internet**」を選択し、「**Next**」をクリックします。



3. 最寄りのASUS FTPサイトを選択するか、「**Auto Select**」をクリックし、「**Next**」をクリックします。

4. ダウンロードしたい BIOS バージョンを選択し、「Next」をクリックします。
5. 画面の指示に従って、更新プロセスを完了します。



ASUS Update ユーティリティはインターネットから最新版に更新することができます。すべての機能を利用できるように、常に最新版をご使用ください。



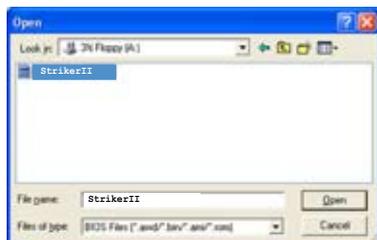
BIOSファイルからBIOSを更新する

手順

1. スタートメニュー → プログラム → ASUS → ASUSUpdate → ASUSUpdate をクリックして、ASUS Update ユーティリティを起動すると、ASUS Update メインウィンドウが表示されます。
2. ドロップダウンメニューから「Update BIOS from a file」を選択し、「Next」をクリックします。



3. OpenダイアログからBIOSファイルを探し、「Open」をクリックします。
4. 画面の指示に従い、更新プロセスを完了します。

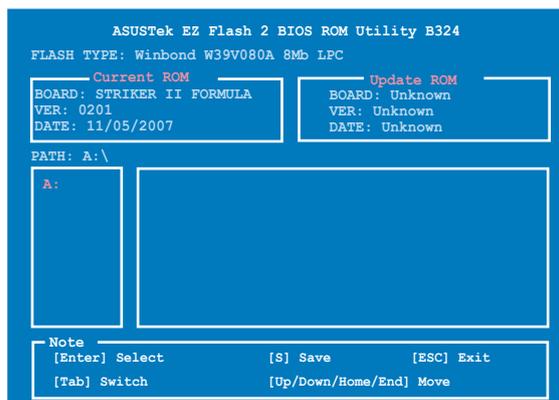


4.1.2 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 はDOS ベースのユーティリティを使うことなく、BIOS を短時間で更新します。このユーティリティは内蔵の BIOS チップですので、システム起動時の自己診断テスト(POST)中に、<Alt> + <F2>を押すことで起動することができます。

EZ Flash 2 を使用して BIOS を更新する手順

1. ASUS Webサイト (www.asus.co.jp) にアクセスして、マザーボード用の最新の BIOS ファイルをダウンロードします。
2. BIOS ファイルを USB フラッシュメモリに保存し、システムを再起動します。
3. EZ Flash 2 を起動する方法には以下の2つがあります。
 - (1) BIOSファイルを保存したUSBフラッシュメモリをUSBポートに挿入します。POST 中に <Alt> + <F2> を押すと下の画面が表示されます。



- (2) BIOS セットアッププログラムで、Tools メニューに進み EZ Flash2 を選択して <Enter> を押します。

<Tab> を使ってドライブを変更し <Enter> を押します。

4. BIOS ファイルが検出されると EZ Flash 2 が BIOS をアップデートし、システムが自動的に再起動されます。



- **FAT 32/16** フォーマットの USB フラッシュメモリ、ハードディスク等のデバイスのみをサポートします。
- BIOS を更新中にシステムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システム起動エラーの原因となります。

4.1.3 BIOSを更新する

AwardBIOS Flash を使用して BIOS ファイルを更新する

1. ASUS Web サイト (www.asus.co.jp) で最新の BIOS ファイルをダウンロードします。ファイル名を「StrikerII.BIN」に変更し、CD ROM または USB フラッシュメモリに保存します。フォーマットは **FAT 16/12** を使用します。



間違った BIOS ファイルのロードを避けるため、更新済みの BIOS ファイルのみを保存してください。

2. Award BIOS Flash Utility (awdf flash.exe)を、サポートDVDの“Software”フォルダから、上記1.で最新のBIOSファイルを保存した CD ROM/ USBフラッシュディスクにコピーしてください。
3. 4.1.2で作成したブート CD ROM、USB フラッシュディスクからDOS モードでシステムを起動してください。
4. DOSモードにおいて<X:>(Xは2.で作成したディスクに割り当てられたドライブレター) コマンドを使い、BIOSファイルとAward Flash Utilityを保存した CD ROM/USBフラッシュディスクに移動します。
5. プロンプトで「awdf flash」とタイプし<Enter>を押すと、Award BIOS Flash Utility 画面が表示されます。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.18
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For C55XEMCP55PXE-StrikerII-00    DATE:10/30/2007
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: 

Message: Please input File Name!
```

6. 「File Name to Program」に BIOS ファイル名を入力して<Enter>を押してください。

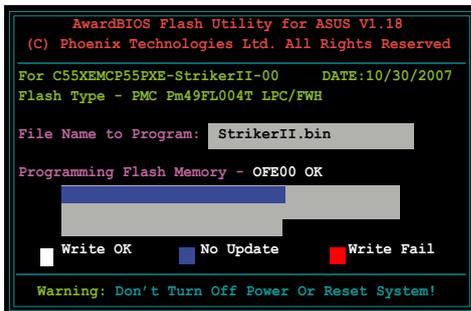
```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.18
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For C55XEMCP55PXE-StrikerII-00    DATE:10/30/2007
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: 

Message: Do You Want To Save Bios (Y/N)
```

7. BIOS ファイルを保存する、という内容の指示が出たら、<N>を押すと、次の画面が表示されます。
8. ファイルが確認されると、BIOS の更新が開始されます。



```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.18
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For C55XEMCP55PXE-StrikerII-00  DATE:10/30/2007
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: StrikerII.bin

Programming Flash Memory - OFE00 OK

[Progress bar]

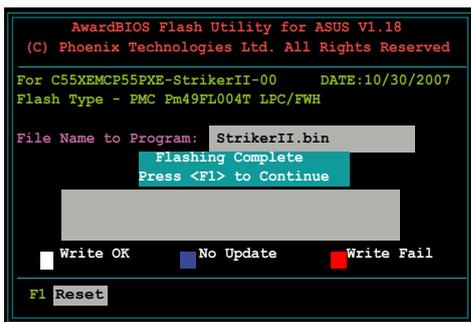
Write OK  No Update  Write Fail

Warning: Don't Turn Off Power Or Reset System!
```



更新中にシステムをオフにしたり、リセットしたりしないでください。

9. 「Flashing Complete」というメッセージが表示されます。これは BIOS の更新が完了したことを示します。フロッピーディスクを取り出し、<F1>を押してシステムを再起動します。



```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.18
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For C55XEMCP55PXE-StrikerII-00  DATE:10/30/2007
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: StrikerII.bin

Flashing Complete
Press <F1> to Continue

[Progress bar]

Write OK  No Update  Write Fail

F1 Reset
```

4.1.4 オリジナルの BIOS ファイルを保存する

AwardBIOS Flash を使ってオリジナルの BIOS を保存することができます。BIOS更新時に障害を起こしたり破損したりしたときの、BIOS ファイルの復元に使用します。



CD ROM、USB フラッシュディスクに、BIOS ファイルの保存するための十分な空き容量があることを確認してください。

AwardBIOS Flash を使ってオリジナルの BIOS を保存する

1. 前セクションのステップ1～6の手順を行ってください。
2. オリジナルの BIOS ファイルを保存するように指示が出たら<Y>を押すと、次の画面が表示されます。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.18
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For C55XEMCP55PXE-StrikerII-00    DATE:10/30/2007
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: 0106.bin
Save current BIOS as:

Message:
```

3. 「Save current BIOS as」に BIOS ファイルのファイル名を入力して<Enter>押しします。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.18
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For C55XEMCP55PXE-StrikerII-00    DATE:10/30/2007
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: 0106.bin
Checksum: 810DH
Save current BIOS as: 0107.bin

Message: Please Wait!
```

4. BIOS ファイルがフロッピーディスクに保存され、BIOS 更新プロセスに戻ります。

```
AwardBIOS Flash Utility for ASUS V1.18
(C) Phoenix Technologies Ltd. All Rights Reserved

For C55XEMCP55PXE-StrikerII-00    DATE:10/30/2007
Flash Type - PMC Pm49FL004T LPC/FWH

File Name to Program: 0107.bin
Now Backup System BIOS to
File!

Message: Please Wait!
```

4.1.5 ASUS CrashFree BIOS 2

ASUS CrashFree BIOS 3 は BIOS の自動復旧ツールで、BIOS 更新時に障害を起こした場合や破損した BIOS ファイルを復旧します。破損した BIOS ファイルは、BIOS ファイルを収録したサポート DVD で更新することができます。



このユーティリティを使用する前に、BIOS を収録したサポート DVD をお手元にご用意ください。

サポート DVD から BIOS を復旧する

手順

1. システムの電源をオンにします。
2. サポート DVD を光学ドライブに挿入します。
3. 下のメッセージが表示され、DVD の BIOS ファイルが自動的にチェックされます。

```
Award BootBlock BIOS v1.0
Copyright (c) 2000, Award Software, Inc.

BIOS ROM checksum error
Detecting IDE ATAPI device...
Found CDROM, try to Boot from it... Pass
```

BIOS が検出されると、BIOS ファイルを自動的に読み込み、破損した BIOS ファイルを更新します。

```
Award BootBlock BIOS v1.0
Copyright (c) 2000, Award Software, Inc.

BIOS ROM checksum error
Detecting IDE ATAPI device...
```

4. 更新作業が完了したらシステムを再起動してください。



- ASUS CrashFree BIOS 2 は FAT 32/16/12 フォーマットでシングルパーティションの USB フラッシュメモリのみをサポートします。デバイスサイズは 8GB 未満である必要があります。
- BIOS を更新している間に、システムのシャットダウンやリセットを行わないでください。システムの起動エラーの原因となります。

4.2 BIOS 設定プログラム

本マザーボードはプログラム可能な Low-Pin Count (LPC) チップを搭載しており、「4.1 BIOS 管理更新」で説明した付属ユーティリティを使用して BIOS の更新をすることが可能です。

BIOS 設定プログラムは、マザーボードを取り付けた時や、システムの再構成をした時、または「Run Setup」を促された時に使用します。本項では、この機能を使用してコンピュータの設定をする方法を説明します。

BIOS 設定プログラムを使用するように指示されていない場合でも、コンピュータの設定を変更することができます。例えば、セキュリティパスワード機能を有効にする、または、電源管理設定を変更することができます。これらの設定を変更するためには、コンピュータがこれらの変更を認識し、LPC チップの CMOS RAM に記録できるように、BIOS 設定プログラムを使用してコンピュータの設定を変更する必要があります。

マザーボードの LPC チップには BIOS 設定プログラムが搭載されています。BIOS 設定プログラムはコンピュータを起動するときに実行することができます。起動時の自己診断テスト (POST) の間に キーを押すと BIOS 設定プログラムが起動します。

POST の終了後に BIOS 設定プログラムを実行したい場合は、<Ctrl+Alt+Delete> を押すか、ケースのリセットボタンを押してシステムを再起動します。システムをオフにし、それからまたオンにすることによって再起動することもできます。ただし、これは最初の2つの方法が失敗した場合の最後の手段として行ってください。

BIOS 設定プログラムは簡単に使用できるように設計されています。メニュー画面から、ナビゲーションキーを使用してさまざまなサブメニューをスクロールする、使用可能なオプションから設定を選択することができます。



- このマザーボードの BIOS の初期設定値はほとんどの環境で、最適なパフォーマンスを実現できるように設定されています。BIOS 設定を変更した後システムが不安定になったら、初期設定値をロードしてください。初期設定値に戻すには、終了メニューの下の「**Load Setup Defaults**」を選択します。(詳細は「**4.9 終了メニュー**」をご参照ください)
- 本書に掲載した BIOS の画面は一例であり、実際に表示される内容と異なる場合があります。
- 最新の BIOS は ASUS Web サイト (www.asus.co.jp) からダウンロードしてください。

4.2.3 ナビゲーションキー

BIOS メニュー画面の右下には、メニューの操作をするためのナビゲーションキーの説明が表示されます。ナビゲーションキーを使用してメニューの項目を選択し、設定を変更します。

ナビゲーションキー	機能
<F1>	「ヘルプ」画面を表示
<F5>	初期設定値をロード
<Esc>	BIOS セットアップから退出、またはサブメニューからメインメニューに戻る
矢印キー (→ ←)	メニュー項目を選択
矢印キー (↑ ↓)	ハイライト表示を移動
Page Down または - (マイナス)	ハイライト表示した項目の数値を下げる
Page Up または + (プラス)	ハイライト表示した項目の数値を上げる
<Enter>	ハイライト表示したフィールドの選択項目を選択
<F10>	変更の保存と退出

4.2.4 メニュー

メニューバーをハイライト表示すると、そのメニューの設定項目が表示されます。例えば、メインを選択するとメインのメニューが表示されます。

メニューバーの他の項目(Advanced、Power、Boot、Exit)にはそれぞれメニューがあります。

4.2.5 サブメニュー

サブメニューの項目の前には、黒い三角形が付いています。サブメニューを表示するためには、項目を選択し <Enter> を押します。

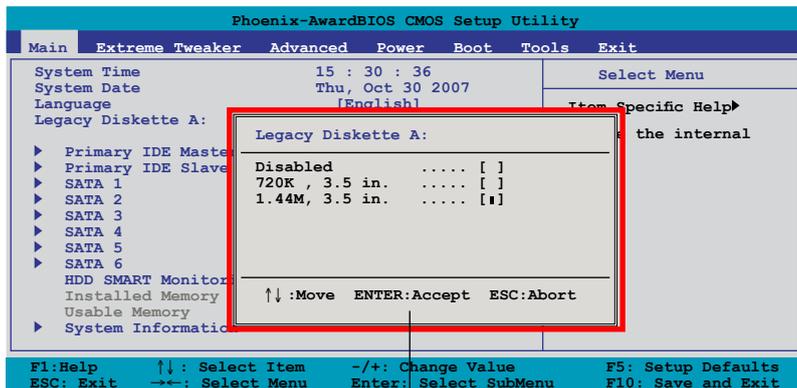
4.2.6 構成フィールド

構成フィールドには設定された値が表示されます。設定の変更が可能な項目は、フィールドの値を変更できます。ユーザー設定できない項目は、選択することができません。

各値はカッコで囲まれており、選択するとハイライト表示されます。フィールドの値を変更するには、選択し <Enter> を押してオプションのリストを表示させます。

4.2.7 ポップアップウィンドウ

項目を選択し<Enter>を押すと、ユーザー設定可能なオプションと共にポップアップウィンドウが表示されます。



ポップアップメニュー

4.2.8 ヘルプ

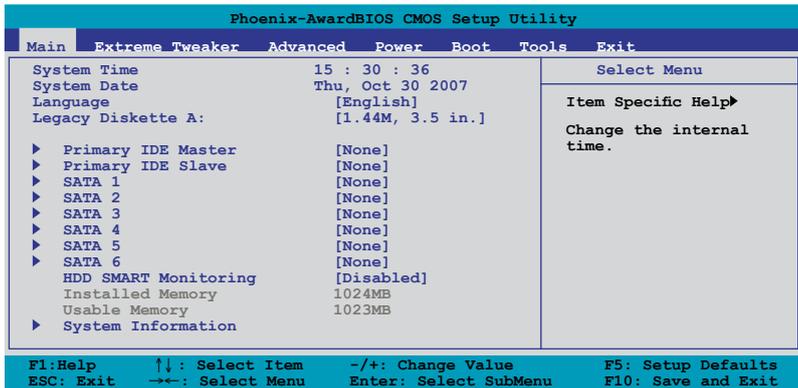
メニュー画面の右上には、選択した項目の簡単な説明が表示されます。

4.3 メインメニュー

BIOS 設定プログラムに入ると、メインメニューが表示され、システム情報の概要が表示されます。



メニュー画面の情報および操作方法については、「4.2.1 BIOS メニュー画面」をご参照ください。



4.3.1 System Time [xx:xx:xx]

システム時間を設定します。

4.3.2 System Date [Day xx/xx/xxxx]

システム日付を設定します。

4.3.3 Language [English]

BIOS で表示する言語を選択することができます。

設定オプション: [Japanese] [English] [French] [Deutsch] [Chinese (Trad.)] [Chinese (Simp.)]

4.3.4 Legacy Diskette A [1.44M, 3.5 in.]

フロッピーディスクドライブのタイプを設定します。

設定オプション: [Disabled] [720K, 3.5 in.] [1.44M, 3.5 in.]

4.3.5 Primary、IDE Master/Slave

BIOSは接続されたIDEデバイスを自動的に検出します。「Device」を選択し、<Enter>を押すとIDEデバイスの情報が表示されます。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility	
Main	
Primary IDE Master	Select Menu
PIO Mode [Auto]	Item Specific Help▶
UDMA Mode [Auto]	Set a PIO mode for the IDE device. Mode0 through 4 successive increase in performance.
Primary IDE Master Access Mode [Auto]	
Capacity 0 GB	
Cylinder 0	
Head 0	
Sector 0	
Transfer Mode None	
F1: Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup Defaults	
ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select SubMenu F10: Save and Exit	

BIOSは、Capacity、Cylinder、Head、Sector、Transfer Mode)の値を自動的に検出します。これらの項目の値をユーザーが変更することはできません。また、システムにIDEデバイスが接続されていない場合は「N/A」と表示されます。

PIO Mode [Auto]

PIOモードを選択します。

設定オプション:[Auto] [Mode 0] [Mode 1] [Mode 2] [Mode 3] [Mode 4]

UDMA Mode [Auto]

DMAモードを選択します。

設定オプション:[Disabled] [Auto]

Primary IDE Master/Slave [Auto]

[Auto] に設定すると自動的にIDE HDDが検出され、サブメニューの値を自動的に検出します。HDDが前のシステムで既にフォーマットしてある場合は、間違った値を表示することがあります。その場合は [Manual] に設定し、IDE HDDの値を手動で入力してください。ドライブを取り付けていない場合は、[None] を選択します。

設定オプション:[None] [Auto] [Manual]

Access Mode [Auto]

初期設定値の [Auto] で、IDE HDD を自動的に検出します。「IDE Primary Master/ Slave」の項目を [Manual] に設定した場合は、この項目を [CHS] に設定します。
設定オプション: [CHS] [LBA] [Large] [Auto]



HDD の設定を行う前にドライブのメーカーから、正しい設定情報を確認してください。間違った設定によりシステムがHDDを認識できないことがあります。

Capacity

ハードディスクの容量を表示。ユーザー設定できません。

Cylinder

ハードディスクシリンダー数を表示。ユーザー設定できません。

Head

ハードディスクの読み出し/書き込みヘッド数を表示。ユーザー設定できません。

Sector

トラックごとにセクタの数を表示。ユーザー設定できません。

Transfer Mode

転送モードを表示。ユーザー設定できません。



BIOSでIDE HDDを入力したら、FDISKなどのディスクユーティリティを使って、パーティションで区切って新しいIDE HDDをフォーマットしてください。この作業はハードディスクのデータの読み書きをするために必要です。Primary IDE HDDのパーティションの設定を必ず行ってください。

4.3.6 SATA 1-6

セットアップ中に BIOS は自動的に Serial ATA デバイスを検出します。デバイスを選択し、<Enter>を押すと SATA デバイスの情報が表示されます。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Main			
SATA 1		Select Menu	
Extended IDE Drive	[Auto]	Item Specific Help▶ Selects the type of fixed disk connected to the system.	
Access Mode	[Auto]		
Capacity	0 MB		
Cylinder	0		
Head	0		
Landing Zone	0		
Sector	0		
F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

BIOSは、Capacity、Cylinder、Head、Landing Zone and Sector の値を自動的に検出します。これらの項目の値は変更することはできません。また、システムに SATA デバイスが接続されていない場合は「0」と表示されます。

Extended IDE Drive [Auto]

システムに接続されたハードドライブのタイプを選択。
設定オプション:[None] [Auto]

Access Mode [Auto]

セクタを設定します。
設定オプション:[Large] [Auto]



HDD の設定を行う前にドライブのメーカーから、正しい設定情報を確認してください。間違った設定によりシステムがHDDを認識できないことがあります。

Capacity

ハードディスクの容量を表示。ユーザー設定できません。

Cylinder

ハードディスクシリンダー数を表示。ユーザー設定できません。

Head

ハードディスクの読み出し/書き込みヘッド数を表示。ユーザー設定できません。

Landing Zone

トラックごとのランディングゾーンの数を表示。ユーザー設定できません。

Sector

トラックごとにセクタの数を表示。ユーザー設定できません。



BIOSでIDE HDDを入力したら、FDISKなどのディスクユーティリティを使って、パーティションで区切って新しいIDE HDDをフォーマットしてください。この作業はハードディスクのデータの読み書きをするために必要です。Primary IDE HDDのパーティションの設定を必ず行ってください。

4.3.7 HDD SMART Monitoring [Disabled]

ハードディスクの SMART (Self-Monitoring Analysis & Reporting Technology) 機能の設定。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.3.8 Installed Memory [xxx MB]

メモリの容量を表示。

4.3.9 Usable Memory [XXX MB]

使用可能なメモリサイズの表示。

4.3.10 システム情報

システム仕様の概要です。BIOS はさまざまな情報を自動的に検出します。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Main			
System Information		Select Menu	
BIOS Revision	0201	Item Specific Help▶	

F1: Help ↑↓: Select Item +/-: Change Value F5: Setup Defaults
ESC: Exit ←→: Select Menu Enter: Select SubMenu F10: Save and Exit

BIOS revision

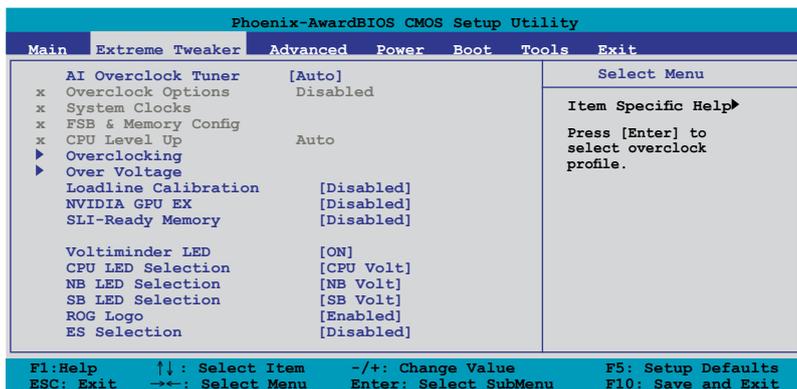
自動検出された BIOS 情報を表示します。

4.4 Extreme Tweaker メニュー

Extreme Tweaker メニューではオーバークロックに関連する項目を設定します。



本メニューでの設定変更は、システムの誤動作の原因となることがあります。十分に注意してください。



4.4.1 AI Overclock Tuner [Auto]

CPU オーバークロックオプションを選択して、CPU 内部周波数を設定することができます。

Manual オーバークロックの値を手動で設定します。

Auto システムに対して標準的な設定をロードします。

Standard システムに対して標準的な設定にします。

AI Overclock オーバークロック中にシステムを安定させる最適な値に設定します。

CPU Level Up CPU レベルを選択します。関連するパラメータは自動的に調節されます。



次の項目は、「**AI Overclock Tuner**」の項目が [AI Overclock] に設定されている時のみユーザー設定可能です。

Overclock Options [Disabled]

オーバークロックオプションを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Overclock 5%] [Overclock 10%] [Overclock 15%]
[Overclock 20%]



次の項目は、「AI Overclock Tuner」の項目が [CPU Level Up] に設定されている時のみユーザー設定可能です。

CPU Level Up [Auto]

CPU レベルを選択します。選択した CPU レベルにより、関連するパラメータは自動的に調節されます。

設定オプション: [Auto] [X6800] [E6850] [Crazy]



- 設定オプションは、ご使用の CPU のタイプにより異なります。
- オプション [Crazy] は、E6600 以上の CPU を使用すると表示されます。



次の項目は、「AI Overclock Tuner」の項目が [Manual] に設定されている時のみユーザー設定可能です。

System Clocks

システム周波数に関連する設定項目です。項目を選択し <Enter> を押ししてください。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Extreme Tweaker		
System Clocks		Select Menu
PCIEX16_2 Frequency (MHz)	[100]	Item Specific Help▶
PCIEX16_1 3 Frequency (MHz)	[100]	Set MCP55 PCIE Overclock
SPP <-> MCP Ref Clock, MHz	[Auto]	

PCIEX16_2 Frequency (MHz) [100]

PCIEX16_2 オーバークロック周波数を設定することができます。<+> <-> キーで周波数を調整します。また、数字キーで数値を入力することもできます。

設定オプション: [100 MHz]~[200 MHz]

PCIEX16_1 3 Frequency (MHz) [100]

PCIEX16_1/3 オーバークロック周波数を設定することができます。<+> / <-> キーまたは数字キーで数値を入力します。

設定オプション: [100 MHz]~[200 MHz]

SPP <-> MCP Ref Clock, MHz [Auto]

設定オプション: [Auto] [200.0] [200.5] [201.0] [201.5]~[500.0]

FSB & Memory Config

システム周波数に関連する設定項目です。項目を選択し<Enter>を押してください。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Extreme Tweaker			
FSB & Memory Config		Select Menu	
CPU Level Up	[Auto]	Item Specific Help▶ Warning: this function belongs to overclocking, and it may cause instability. Select a CPU level, and the rest will be auto-adjusted. If you want to adjust more, set AI Overclock Tuner to Manual after you select a CPU level.	
FSB - Memory Clock Mode	[Auto]		
x FSB - Memory Ratio	Auto		
x FSB (QDR), MHz	Auto		
Actual FSB (QDR), MHz	1333.3		
x MEM (DDR), MHz	Auto		
Actual MEM (DDR), MHz	909.1		
F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

CPU Level Up [Auto]

CPU レベルを選択します。選択した CPU レベルにより、関連するパラメータは自動的に調節されます。

設定オプション: [Auto] [X6800] [E6850] [Crazy]



- 設定オプションは、ご使用の CPU のタイプにより異なります。
- オプション [Crazy] は、E6600 以上の CPU を使用すると表示されます。

FSB - Memory Clock Mode [Auto]

システムクロックのモードを設定することができます。

設定オプション: [Auto] [Linked] [Unlinked]



以下の項目は、「FSB-Memory Clock Mode」の項目を [Linked] に設定すると、ユーザー設定可能になります。

FSB - Memory Ratio [Auto]

設定オプション: [Auto] [1:1] [5:4] [3:2] [Sync Mode]

FSB (QDR), MHz [1066]

CPU FSB 周波数を設定します。<+>と<-> キーで周波数を設定します。数字キーで値を直接入力することもできます。入力範囲は 533 ~ 3200 です。



「FSB (QDR), MHz」の項目は「FSB - Memory Clock Mode」を [Unlinked] に設定した場合にもユーザー設定可能になります。

Actual FSB (QDR), MHz

再起動時に反映される実際の周波数です。



以下の項目は、「**FSB-Memory Clock Mode**」の項目を [Unlinked] に設定すると、ユーザー設定可能になります。

MEM (DDR), MHz [800]

メモリ周波数を設定します。<+>と<-> キーで周波数を設定します。数字キーで値を直接入力することもできます。入力範囲は 400 ~ 2600 です。

Actual MEM (DDR), MHz

再起動時に反映される実際の周波数です。

4.4.2 Overclocking

システム周波数に関連する設定項目です。項目を選択し<Enter>を押してください。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility				
Extreme Tweaker				
Overclocking		Select Menu		
CPU Type	Intel (R) Core(TM)2 Duo CPU E6750 @ 2.66GHz	Item Specific Help▶		
CPU Speed	2.66GHz			
Cache RAM	4096K			
CPU Multiplier	[8]			
▶ Memory Timing Setting				
▶ Spread Spectrum Control				
CPU Internal Thermal Control	[Disabled]			
Limit CPUID MaxVal	[Disabled]			
Enhanced C1 (C1E)	[Disabled]			
Execute Disable Bit	[Enabled]			
Virtualization Technology	[Enabled]			
Enhanced Intel SpeedStep(tm) Tech.	[Disabled]			
LDT Frequency	[5x]			
F1: Help	↑↓: Select Item		-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu		Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

CPU Multiplier [8]

<+>と<-> キーまたは数字キーを使用して値を入力します。入力範囲は6～50です。

Memory Timing Setting

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Extreme Tweaker			
Memory Timing Setting		Select Menu	
tCL (CAS Latency)	[Auto]	Item Specific Help▶	
tRCD	[Auto]		
tRP	[Auto]		
tRAS	[Auto]		
Command Per Clock (CMD)	[Auto]		
** Advanced Memory Settings **			
tRRD	[Auto]	Set Memory timings to [Optimal] to use the value recommended by the DIMM's manufacturer.	
tRC	[Auto]		
tWR	[Auto]		
tWTR	[Auto]		
tREF	[Auto]		
tRD	[Auto]		
tRFC	[Auto]		
Async Latency	[Auto]		
F1: Help	↑↓: Select Item		-/+ : Change Value
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

tCL (CAS Latency) [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7]

tRCD [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7]

tRP [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7]

tRAS [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7]~[31]

Command Per Clock (CMD) [Auto]

設定オプション: [Auto] [1 clock] [2 clock]

tRRD [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7]~[15]

tRC [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7]~[31]

tWR [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7]

tWTR [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7]~[15]

tREF [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2]

tRD [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7]~[15]

tRFC [Auto]

設定オプション: [Auto] [1] [2] [3] [4] [5] [6] [7]~[127]

Async Latency [Auto]

設定オプション: [Auto] [1.00nS] [1.25nS] [1.50nS] [1.75nS] [2.00nS] [2.25nS]
[2.50nS]

Spread Spectrum Control

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Extreme Tweaker		
Spread Spectrum Control		Select Menu
CPU Spread Spectrum	[Auto]	Item Specific Help▶
SATA Spread Spectrum	[Disabled]	
LDT Spread Spectrum	[Auto]	

CPU Spread Spectrum [Auto]

設定オプション: [Disabled] [Auto]

SATA Spread Spectrum [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [Auto]

LDT Spread Spectrum [Auto]

設定オプション: [Auto] [Disabled]

CPU Internal Thermal Control [Disabled]

設定オプション: [Auto] [Disabled]

Limit CPUID MaxVal [Disabled]

[Enabled] に設定すると、拡張 CPUID 機能非対応 CPU でもレガシーオペレーティングシステムを起動することができます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Enhanced C1 (C1E) [Disabled]

C1E サポートを設定します。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Execute Disable Bit [Enabled]

No-Execution Page Protection Technology を設定します。[Disabled] に設定すると XD 機能フラグが常にゼロ(0)に戻ります。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Virtualization Technology [Enabled]

Virtualization Technology は、複数の OS を同時に動作させるハードウェアプラットフォームの構築を可能にします。これにより、1 つのシステムを複数のシステムとして仮想的に動作させることができます。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Enhanced Intel SpeedStep(tm) Tech. [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

LDT Frequency [5x]

設定オプション: [1x] [2x] [3x] [4x] [5x] [6x] [7x] [8x]

4.4.3 Over Voltage

システム電圧に関連する設定項目です。項目を選択し<Enter>を押してください。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Extreme Tweaker		
Over Voltage		Select Menu
CPU Voltage	[Auto]	Item Specific Help▶ Set CPU VID to desired voltage, but it will cause other CPU power management feature (such as C1E, EIST, and TM2) fail to control CPU VID. Select [Auto] to let CPU VID keep original value.
Memory Voltage	[Auto]	
1.2V HT Voltage	[Auto]	
NB Core Voltage	[Auto]	
SB Core Voltage	[Auto]	
CPU VTT Voltage	[Auto]	
CPU PLL Voltage	[Auto]	
Bridge Core Voltage	[Auto]	
DDRII Controller Ref Voltage	[Auto]	
DDRII Channel A Ref Voltage	[Auto]	
DDRII Channel B Ref Voltage	[Auto]	
NB GTL REF Ratio	[Auto]	
CPU GTL_REF Ratio	[Auto]	

F1: Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup Defaults
ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select SubMenu F10: Save and Exit

CPU Voltage [Auto]

CPU 電圧を設定します。設定フィールドの文字列の色は、オンボード CPU LED の色と対応し、共に電圧の状態を表します。「CPU LED Selection」の項目を [CPU Volt] に設定すると、オンボード CPU LED は CPU 電圧の状態を表示します。CPU LED の定義についてはページ 2-1 をご参照ください。

設定オプション: [Auto] [1.10000V] [1.10625V] [1.11250V] [1.11875V] [1.12500V] [1.13125V] [1.13750V] [1.14375V] [1.15000V] [1.15625V] [1.16250V] [1.16875V] [1.17500V] [1.18125V] [1.18750V] [1.19375V] [1.20000V] [1.20625V] [1.21250V] [1.21875V] [1.22500V] [1.23125V] [1.23750V] [1.24375V] [1.25000V] [1.25625V] [1.26250V] [1.26875V] [1.27500V] [1.28125V] [1.28750V] [1.29375V] [1.30000V]~[1.87500V] [1.88125V] [1.88750V] [1.89375V] [1.90000V] [1.95000V] [1.97500V] [2.00000V] [2.02500V] [2.05000V] [2.07500V] [2.10000V]~[2.30000V] [2.32500V] [2.35000V] [2.37500V] [2.40000V]

CPU 電圧の設定を行う前に CPU の説明書をご参照ください。CPU 電圧の変更により、CPU が損傷する、あるいはシステムが不安定になる場合があります。

Memory Voltage [Auto]

メモリ電圧を設定します。設定フィールドの文字列の色は、オンボード メモリ LED の色と対応し、共に電圧の状態を表します。メモリ LED の定義についてはページ 2-2 をご参照ください。

設定オプション: [Auto] [1.80V] [1.82V] [1.84V] [1.86V] [1.88V] [1.90V]~ [3.32V] [3.34V] [3.36V] [3.38V] [3.40V]

1.2V HT Voltage [Auto]

1.2V HT 電圧を設定します。設定フィールドの文字列の色は、電圧の状態を表します。「SB LED Selection」の項目を [SB_HT Volt] に設定すると、オンボードサウスブリッジ LED が 1.2V HT 電圧の状態を表示します。サウスブリッジ LED の定義に関しては ページ 2-2 をご参照ください。

設定オプション: [Auto] [1.20V] [1.25V] [1.30V] [1.35V]~[1.80V] [1.85V] [1.90V] [1.95V]

NB Core Voltage [Auto]

ノースブリッジ電圧を設定します。設定フィールドの文字列の色は、ノースブリッジ電圧の状態を表します。「NB LED Selection」の項目を [NB Volt] に設定すると、オンボードノースブリッジ LED がノースブリッジ電圧の状態を表示します。ノースブリッジ LED の定義に関しては ページ 2-2 をご参照ください。設定オプション: [Auto] [1.20V] [1.22V] [1.24V] [1.26V]~[2.40V] [2.42V] [2.44V] [2.46V]

SB Core Voltage [Auto]

サウスブリッジ電圧を設定します。設定フィールドの文字列の色は、サウスブリッジ電圧の状態を表します。「SB LED Selection」の項目を [SB Volt] に設定すると、オンボードノースブリッジ LED がサウスブリッジ電圧の状態を表示します。サウスブリッジ LED の定義については ページ 2-2 をご参照ください。

設定オプション: [Auto] [1.50V] [1.55V] [1.60V] [1.65V]~[1.80V] [1.85V]

CPU VTT Voltage [Auto]

CPU VTT 電圧を選択します。構成フィールドの文字の色は電圧の状態を示しています。「NB LED Selection」を [VTT Volt] に設定すると、オンボードノースブリッジ LED はノースブリッジの電圧状態を表示します。ノースブリッジ LED の定義については ページ 2-2 をご参照ください。

設定オプション: [Auto] [1.20V] [1.22V] [1.24V] [1.26V]~[2.40V] [2.42V] [2.44V] [2.46V]

CPU PLL Voltage [Auto]

CPU PLL 電圧を設定します。設定フィールドの文字列の色は、オンボード CPU LED の色と対応し、共に電圧の状態を表します。「CPU LED」の項目を [PLL Volt] に設定すると、オンボード CPU LED は CPU PLL 電圧の状態を表示します。CPU LED の定義については ページ 2-1 をご参照ください。

設定オプション: [Auto] [1.50V] [1.52V] [1.54V] [1.56V] [1.58V] [1.60V]~[2.90V] [2.92V] [2.94V] [2.96V] [2.98V] [3.00V]

Bridge Core Voltage [Auto]

PCIEX16_1 および PCIEX16_3 ブリッジ電圧を設定します。

設定オプション: [Auto] [1.20V] [1.25V] [1.30V] [1.35V]~[1.50V] [1.55V]

DDRII Controller Ref Voltage [Auto]

メモリ電圧を手動で設定できます。または、[Auto]に設定してセーフモードを適用することができます。

設定オプション: [Auto] [DDR2_REF] [DDR2_REF+30mv] [DDR2_REF+20mv] [DDR2_REF+10mv] [DDR2_REF-10mv] [DDR2_REF-20mv] [DDR2_REF-30mv]

DDRII Channel A Ref Voltage [Auto]

メモリ電圧を手動で設定できます。または、[Auto]に設定してセーフモードを適用することができます。

設定オプション: [Auto] [DDR2_REF] [DDR2_REF+30mv] [DDR2_REF+20mv] [DDR2_REF+10mv] [DDR2_REF-10mv] [DDR2_REF-20mv] [DDR2_REF-30mv]

DDRII Channel B Ref Voltage [Auto]

メモリ電圧を手動で設定できます。または、[Auto]に設定してセーフモードを適用することができます。

設定オプション: [Auto] [DDR2_REF] [DDR2_REF+30mv] [DDR2_REF+20mv] [DDR2_REF+10mv] [DDR2_REF-10mv] [DDR2_REF-20mv] [DDR2_REF-30mv]

NB GTL_REF Ratio [Auto]

設定オプション: [Auto] [0.637V] [0.625V] [0.615V] [0.604V] [0.588V] [0.577V] [0.569V] [0.559V]

CPU GTL_REF Ratio [Auto]

設定オプション: [Auto] [0.628] [0.612] [0.600] [0.585] [0.562] [0.552] [0.542] [0.530]

4.4.4 Loadline Calibration [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.4.5 NVIDIA GPU Ex [Disabled]

最適化された NVIDIA Ex グラフィックスドライバを有効/無効にします。

設定オプション: [Auto] [Disabled]

4.4.6 SLI-Ready Memory [Disabled]

SLI-Ready メモリモジュール用の SPD プロファイルを選択することができます。設定オプションはユーザーが取り付けしたモジュールのタイプにより異なります。

設定オプション: [Disabled] [CPUOC 0%] [CPUOC 1%]~[CPUOC 5%] [CPUOC MAX] [Expert]

4.4.7 Voltiminder LED [ON]

オンボード Voltiminder LED のオン/オフを切り替えます。

設定オプション: [ON] [OFF]

4.4.8 CPU LED Selection [CPU Volt]

オンボード CPU LED の表示を、CPU 電圧 [CPU Volt] と CPU PLL 電圧 [PLL Volt]の間で切り替えます。

設定オプション: [CPU Volt] [PLL Volt]

4.4.9 NB LED Selection [NB Volt]

オンボードノースブリッジ LED の表示を、ノースブリッジ電圧 [NB Volt] またはFSBターミネーション電圧 [FSBT Volt]の間で切り替えます。

設定オプション: [NB Volt] [VTT Volt]

4.4.10 SB LED Selection [SB Volt]

オンボードサウスブリッジ LED の表示を、サウスブリッジ電圧 [SB Volt] と1.2V HT 電圧 [SB_HT Volt] の間で切り替えます。

設定オプション: [SB Volt] [SB_HT Volt]

4.4.11 ROG Logo [Enabled]

この項目を [Enabled] に設定すると、ヒートパイプ上にある Republic of Gamers と表示されたボックスが、システムの電源がオンになると点灯します。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

4.4.12 ES Selection [Disabled]

設定オプション: [Disabled] [WOL Disabled] [WOL Enabled]

4.5 拡張メニュー

CPU とシステムデバイスの設定を変更します。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Main	Extreme Tweaker	Advanced	Power Boot Tools Exit
▶ AI NET2 ▶ PCIPnP ▶ Onboard Device Configuration ▶ USB Configuration			Select Menu Item Specific Help▶ Press [Enter] to set.
F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

4.5.1 AI NET2

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Advanced			
AI NET2		Select Menu	
POST Check LAN Cable [Disabled]		Item Specific Help▶	
POST Check LAN2 Cable [Disabled]		Enable or Disable LAN cable check during POST.	
Pair	Status	Length	
LAN1 (1-2)	Open	N/A	
LAN1 (3-6)	Open	N/A	
LAN1 (4-5)	Open	N/A	
LAN1 (7-8)	Open	N/A	
LAN2 (1-2)	Open	N/A	
LAN2 (3-6)	Open	N/A	
LAN2 (4-5)	Open	N/A	
LAN2 (7-8)	Open	N/A	
F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

POST Check LAN/LAN2 Cable [Disabled]

POST で LAN/LAN2 ケーブルをチェックするかを設定することができます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

4.5.2 PCIPnP

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility	
Advanced	
PCIPnP	Select Menu
Plug & Play O/S [No] Primary Display Adapter [PCI]	Item Specific Help▶ Select Yes if you are using a Plug and Play capable operating system. Select No if you need the BIOS to configure non-boot devices.

Plug & Play O/S [No]

[No]に設定すると、BIOS はマザーボードに接続されたデバイスの設定を自動的にを行います。Plug and Play OSをインストールした状態で [Yes] に設定すると、OSは Plug and Play デバイスは起動に不要と設定します。

設定オプション: [No] [Yes]

Primary Display Adapter [PCI]

プライマリブートデバイスとして使用するグラフィックスコントローラを選択することができます。

設定オプション: [PCI] [PCI-E]

4.5.3 オンボードデバイス設定構成

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility	
Advanced	
Onboard Device Configuration	Select Menu
▶ IDE Function Setup ▶ Serial-ATA Configuration HD Audio [Auto] Front Panel Support Type [HD Audio] Onboard 1st nVidia LAN [Enabled] Onboard 2nd nVidia LAN [Enabled] Onboard LAN Boot ROM [Disabled] Onboard 1394 [Enabled] LCD Poster Off [Enabled] LCD Poster Backlight [Disabled] LCD Poster Mode [Current Time] x LCD Poster String	Item Specific Help▶ Press [Enter] to set.

F1: Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	→←: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

IDE Function Setup

サブメニューは IDE 機能の関連項目です。項目を選択し<Enter> を押して設定します。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
IDE Function Setup		Select Menu
OnChip IDE Channel0	[Enabled]	Item Specific Help▶
IDE DMA transfer access	[Enabled]	Press [Enter] to set.
IDE Prefetch Mode	[Enabled]	

OnChip IDE Channel0 [Enabled]

Onchip IDE Channel 0 コントローラを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

IDE DMA transfer access [Enabled]

IDE DMA transfer access を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

IDE Prefetch Mode [Enabled]

IDE PIO Prefetch Mode を設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Serial-ATA Configuration

Serial ATA 設定を変更することができます。項目を選択し<Enter> を押してください。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
Serial-ATA Configuration		Select Menu
Serial-ATA Controller	[Enabled]	Item Specific Help▶
RAID Enabled	[Disabled]	Press [Enter] to control onchip SATA controller.
x SATA1 RAID	Disabled	
x SATA2 RAID	Disabled	
x SATA3 RAID	Disabled	
x SATA4 RAID	Disabled	
x SATA5 RAID	Disabled	
x SATA6 RAID	Disabled	

Serial-ATA Controller [Enabled]

オンボード Serial ATA コントローラを有効/無効にします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]



以下の項目は「Serial-ATA Controller」を有効にした場合に設定することができます。

RAID Enabled [Disabled]

オンボード RAID コントローラを設定します。[Enabled] に設定すると関連項目がユーザー設定可能になります。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

SATA 1/2/3/4/5/6 [Disabled]

SATA ドライブ 1～6 台目の RAID 機能を有効/無効にします。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

HD Audio [Auto]

HD オーディオを設定します。

設定オプション: [Auto] [Disabled]

Front Panel Support Type [HD Audio]

フロントパネルオーディオモジュールがサポートするオーディオ標準に応じて、フロントパネルオーディオコネクタ (AAFP) のモードをレガシー AC'97 またはHDオーディオに設定することができます。

設定オプション: [AC97] [HD Audio]

Onboard 1st/2nd Nvidia LAN [Enabled]

オンボードNVIDIA®LAN コントローラを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

OnBoard LAN Boot ROM [Disabled]

オンボード LAN ブート ROMを設定します。

設定オプション: [Enabled] [Disabled]

Onboard 1394 [Enabled]

オンボード1394 デバイスのサポートを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

LCD Poster Off [Enabled]

LCD Poster の有効/無効を切り替えます。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

LCD Poster Backlight [Disabled]

POSTの後の LCD Poster バックライトを設定します。

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

LCD Poster Mode [Current Time]

LCD Poster のモードを選択します。

設定オプション: [Current Time] [User String]



次の項目は、「LCD Poster Mode」を [User String] に設定するとユーザー設定可能になります。

LCD Poster String

LCD Poster で表示するSTRINGを入力します。この項目をハイライト表示して選択し、<Enter> を押してSTRINGを入力します。

USB Configuration

USB関連機能の変更をすることができます。項目を選択し <Enter> を押して設定オプションを表示させてください。

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Advanced		
USB Configuration		Select Menu
USB Controller	[Enabled]	Item Specific Help▶
USB Legacy support	[Enabled]	Enable or disable USB
USB2.0 Controller	[Enabled]	1.1 and 2.0 Controller.

USB Controller [Enabled]

オンチップ USB コントローラを設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

USB Legacy Support [Enabled]

レガシーOS環境での USB デバイスのサポートを設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

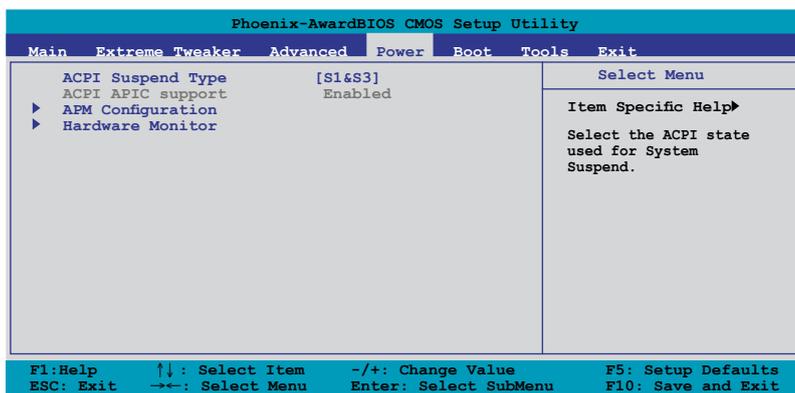
USB 2.0 Controller [Enabled]

USB 2.0 コントローラを設定します。

設定オプション:[Disabled] [Enabled]

4.6 電源メニュー

ACPIとAPM機能の設定の変更を行います。項目を選択し、<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



4.6.1 ACPI Suspend Type [S1&S3]

システムのサスペンドに使用される、ACPIの状態を選択します。
設定オプション:[S1 (POS)] [S3(STR)] [S1&S3]

4.6.2 ACPI APIC Support [Enabled]

アプリケーション固有の集積回路 (ASIC: Application-Specific Integrated Circuit) での拡張構成電源インターフェース (ACPI: Advanced Configuration and Power Interface) のサポートを有効/無効にします。[Enabled]にすると、ACPI APICの表のポインターが RSDT ポインターリストに含まれます。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

4.6.3 APM の設定

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Power		
APM Configuration		Select Menu
Restore on AC Power Loss	[Power-Off]	Item Specific Help▶
PWR Button < 4 secs	[Instant-Off]	Press [Enter] to
Power Up On PCI/PCIE Devices	[Disabled]	select whether or not
USB Resume from S5	[Disabled]	to restart the system
Power On by RTC Alarm	[Disabled]	after AC power loss
x Date (of Month) Alarm	0	
x Alarm Time (hh:mm)	0 : 0 : 0	
HPET Support	[Enabled]	
Power Up By PS/2 Keyboard	[Disabled]	

F1: Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup Defaults
ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select SubMenu F10: Save and Exit

Restore on AC Power Loss [Power-Off]

停電などで電力が遮断された場合の再通電時に関する設定です。
設定オプション: [Power-Off] [Power-On] [Last State]

PWR Button < 4 secs [Instant-Off]

4 秒以上電源ボタンを押した後のイベントを設定します。
設定オプション: [Suspend] [Instant-Off]

Power Up On PCI/PCIE Devices [Disabled]

PCI デバイスと NVIDIA® オンボード LAN を使用して S5 状態から PME ウェイクアップする機能を設定します。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

USB Resume from S5 [Disabled]

USB キーボード/マウスを使用して S5 状態からレジュームするかを設定します。
設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Power On By RTC Alarm [Disabled]

ウェイクアップイベントを作成する RTC を設定します。この項目を [Enabled] に設定すると、**Date (of Month) Alarm** と **Alarm Time (hh:mm)** がユーザー設定可能になります。設定オプション: [Disabled] [Enabled]

Date (of Month) Alarm [XX]

アラームの日付を設定するのは、この項目をハイライト表示し、<Enter>を押してポップアップメニューを表示させます。その後、数値を入力し、<Enter>を押します。なお、[0] の定義は「毎日」です。
設定オプション: [Min=0] [Max=31]

Alarm Time (hh:mm) [X: X: X]

アラーム時間の設定

1. この項目をハイライト表示させ <Enter> を押して時間(時)を設定します。
2. 値を入力(最小=0、最大=23)し<Enter> を押します。
3. <TAB> を押してminute のフィールドに移動し<Enter> を押します。
4. 時間(分)の値を入力(最小=0、最大=59)し、<Enter> を押します。

HPET Support [Enabled]

設定オプション: [Disabled] [Enabled]

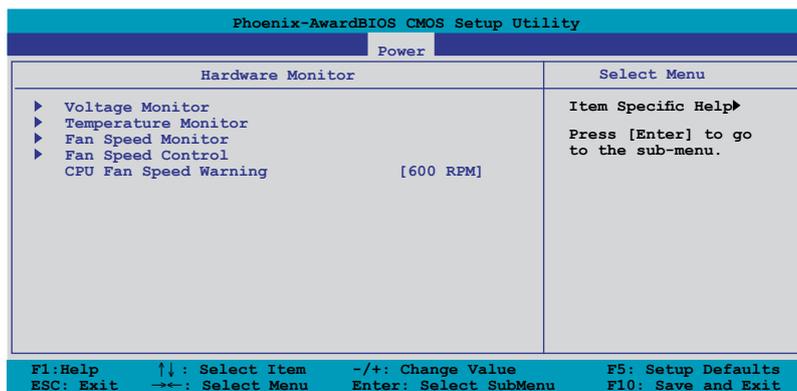
Power On By PS/2 Keyboard [Disabled]

PS/2 キーボードで電源オンにする機能を無効にできます。また、キーボードの特定のキーを使用してシステムの電源をオンにできます。この機能は、+5V SB リード線で最低1A を供給する ATX 電源を必要とします。

設定オプション: [Disabled] [Space Bar] [Ctrl-ESC] [Power Key]

4.6.4 ハードウェアモタ

BIOSで自動的に検出されたハードウェアモニターの値を表示します。また、CPU Q-Fan に関連する項目を変更します。<Enter>を押すと設定オプションが表示されます。



Voltage Monitor

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Power			
Voltage Monitor		Select Menu	
Vcore Voltage	[1.32V]	Item Specific Help▶ Press [Enter] to set.	
Memory Voltage	[2.00V]		
1.2V HT Voltage	[1.23V]		
NB Voltage	[1.26V]		
SB Voltage	[1.50V]		
CPU PLL Voltage	[1.52V]		
CPU VTT Voltage	[1.20V]		
DDR2 Termination Voltage	[0.99V]		
3.3V Voltage	[2.89V]		
5V Voltage	[4.66V]		
12V Voltage	[11.64V]		
F1:Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	←→: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

Vcore, Memory, 1.2V HT, NB, SB, CPU PLL, CPU VTT, DDR2 Termination, 3.3V, 5V, 12V Voltage

VCORE の電圧を自動的に検出して表示します。

Temperature Monitor

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility			
Power			
Temperature Monitor		Select Menu	
CPU Temperature	30°C	Item Specific Help▶ Set NB Over Temperature Warning Message.	
M/B Temperature	35°C		
NB Temperature	44°C		
SB Temperature	47°C		
OPT1 Temperature	0°C		
OPT2 Temperature	0°C		
OPT3 Temperature	0°C		
NB Overheat Protection	[90]		
SB Overheat Protection	[90]		
OPT1 Cable Overheat Protection	[90]		
OPT2 Cable Overheat Protection	[90]		
OPT3 Cable Overheat Protection	[90]		
F1:Help	↑↓: Select Item	-/+ : Change Value	F5: Setup Defaults
ESC: Exit	←→: Select Menu	Enter: Select SubMenu	F10: Save and Exit

CPU, M/B, NB, SB, OPT1/2/3 Temperature

オンボードハードウェアモニタが CPU、マザーボード、ノースブリッジ、サウスブリッジ、OPT1/2/3 ファンの温度をそれぞれ自動的に検出し表示します。この項目はユーザー設定できません。

NB Overheat Protection; SB Overheat Protection [90]

ノースブリッジ/サウスブリッジチップセットの温度が、設定された温度より高くなった場合、システムは自動的にシャットダウンし、破損を防ぎます。

設定オプション: [Disabled] [70] [80] [90]

OPT1/2/3 Cable Overheat Protection [90]

サーマルセンサーケーブルをマザーボードに接続してデバイス温度をモニターする場合、設定した温度より高くなるとシステムは自動的にシャットダウンし、破損を防ぎます。設定オプション: [Disabled] [50] [60] [70] [80] [90]

Fan Speed Monitor

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
		Power
Fan Speed Monitor		Select Menu
CPU FAN Speed	4411 RPM	Item Specific Help▶
CHA_FAN1 Speed	0 RPM	
CHA_FAN2 Speed	0 RPM	
CHA_FAN3 Speed	0 RPM	
OPT1 FAN Speed	0 RPM	
OPT2 FAN Speed	0 RPM	
OPT3 FAN Speed	0 RPM	
PWR FAN Speed	0 RPM	

CPU FAN, CHA_FAN1/2/3, OPT1/2/3 FAN, PWR FAN Speed

CPU ファン、ケース ファン、電源 ファン、オプションファン速度を自動的に検出して回転数/分(RPM)の単位で表示します。マザーボードにファンが取り付けられていない場合、このフィールドには0と表示されます。これらの項目はユーザー設定できません。

Fan Speed Control

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
		Power
Fan Speed Control		Select Menu
CPU FAN Control	[Duty Cycle Mode]	Item Specific Help▶ Select Fan Control mode.
CPU FAN Duty Cycle	[100%]	
CHASSIS FAN Control	[Duty Cycle Mode]	
CHASSIS FAN Duty Cycle	[100%]	
x CHASSIS FAN Q-Fan Sense	CPU Temperature	
OPT FAN1 Control	[Duty Cycle Mode]	
OPT FAN1 Duty Cycle	[100%]	
x OPT FAN1 Target Temperature	40°C/104°F	
OPT FAN2 Control	[Duty Cycle Mode]	
OPT FAN2 Duty Cycle	[100%]	
x OPT FAN2 Target Temperature	40°C/104°F	
OPT FAN3 Control	[Duty Cycle Mode]	
OPT FAN3 Duty Cycle	[100%]	
x OPT FAN3 Target Temperature	40°C/104°F	

F1: Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup Defaults
ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select SubMenu F10: Save and Exit

CPU FAN Control [Duty Cycle Mode]

ファンコントロールモードを設定することができます。

設定オプション: [Duty Cycle Mode] [Q-FAN Mode]

CPU FAN Duty Cycle [100%]

ファンの動作を設定することができます。この項目は「**CPU FAN Control**」の項目を [Duty Cycle Mode] に設定するとユーザー設定可能になります。

設定オプション: [60%] [70%] [80%] [90%] [100%]

CHASSIS FAN Control [Duty Cycle Mode]

ファンコントロールモードを設定することができます。

設定オプション: [Duty Cycle Mode] [Q-FAN Mode]

CHASSIS FAN Duty Cycle [100%]

ファンの動作を設定することができます。この項目は「**CHASSIS FAN Control**」の項目を [Duty Cycle Mode] に設定するとユーザー設定可能になります。

設定オプション: [60%] [70%] [80%] [90%] [100%]

CHASSIS FAN Q-Fan Sense [CPU Temperature]

Q-Fan 機能で CPU/MB の温度を検出し、ファンスピードを調節することができます。この項目は「**CHASSIS FAN Control**」の項目を [Q-FAN Mode] に設定するとユーザー設定可能になります。

設定オプション: [CPU Temperature] [MB Temperature]

OPT FAN1/2/3 Control [Duty Cycle Mode]

ファンコントロールモードを設定することができます。

設定オプション: [Duty Cycle Mode] [Q-FAN Mode]

OPT FAN1/2/3 Duty Cycle [100%]

ファンの動作を設定することができます。この項目は「**OPT FAN1/2/3 Control**」の項目を [Duty Cycle Mode] に設定するとユーザー設定可能になります。

設定オプション: [60%] [70%] [80%] [90%] [100%]

OPT Fan1/2/3 Target Temperature [40°C/104°F]

Q-Fan 機能で OPT Fan1/2/3 に接続した各ファンの温度を検出し、ファン速度を調節することができます。この項目は「**OPT FAN1/2/3 Control**」の項目を [Q-FAN Mode] に設定するとユーザー設定可能になります。

設定オプション: [10°C/50°F] [15°C/59°F] [20°C/68°F] [25°C/77°F] [30°C/86°F] [35°C/95°F] [40°C/104°F] [45°C/113°F] [50°C/122°F] [55°C/131°F] [60°C/140°F] [65°C/149°F] [70°C/158°F] [75°C/167°F] [80°C/176°F] [85°C/185°F]



この機能を利用するには、サーマルセンサー用ケーブルを OPT_TEMP1/2/3 コネクタにそれぞれ接続する必要があります。

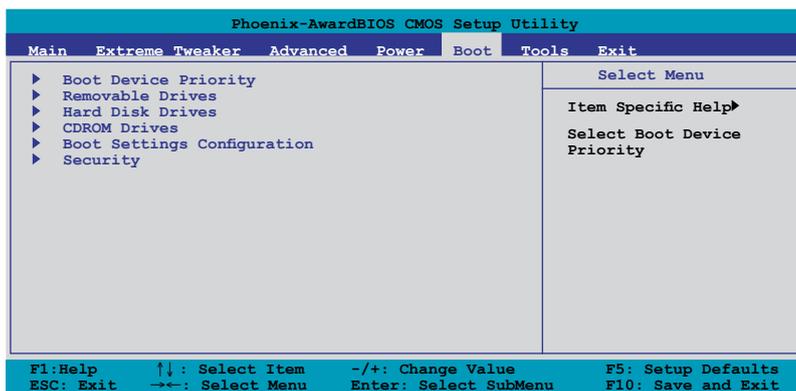
CPU Fan Speed warning [600 RPM]

CPU ファンスピードの警告機能を設定することができます。CPU ファンのスピードが設定値より低くなったとき、警告を出します。[Disabled] にすると、ファンが取り付けられていない、または正常に動作していない場合でもこの警告を出しません。

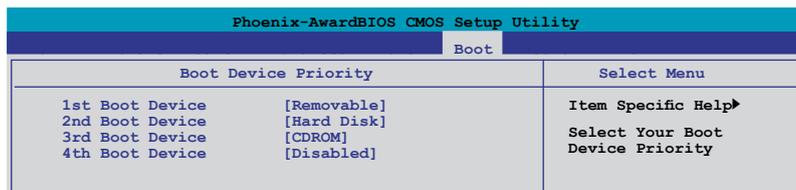
設定オプション: [Disabled] [600 RPM] [1200 RPM] [1600 RPM]

4.7 ブートメニュー

システムをブートする際のオプションを変更します。<Enter> を押してサブメニューを表示します。



4.7.1 ブートデバイスの優先順位

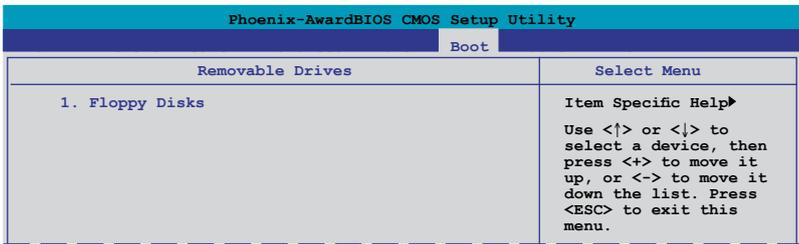


1st ~ 4th Boot Device [Removable]

ブートさせるデバイスの優先順位を指定します。画面に表示されるデバイスの数は、ブート可能なデバイスの数です。

設定オプション: [Removable] [Hard Disk] [CDROM] [Disabled]

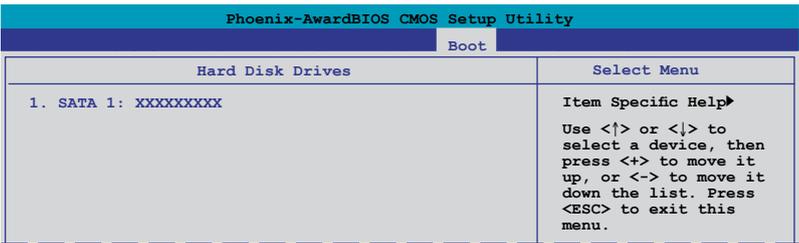
4.7.2 Removable Drives



1. Floppy Disks

システムに取り付けたリムーバブルドライブを割り当てます。

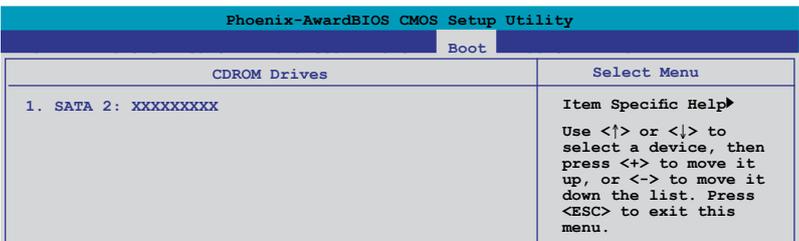
4.7.3 Hard Disk Drives



1. 1st Master: XXXXXXXXX

システムに取り付けた HDD を割り当てます。

4.7.4 CDROM Drives



1. 1st Slave: XXXXXXXXX

システムに取り付けた光学ドライブを割り当てます。

4.7.5 ブート設定

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility		
Boot		
Boot Settings Configuration	Select Menu	
Case Open Warning	[Enabled]	Item Specific Help▶ Press [Enter] to enable or disable.
Quick Boot	[Enabled]	
Boot Up Floppy Seek	[Disabled]	
Bootup Num-Lock	[On]	
Typematic Rate Setting	[Disabled]	
x Typematic Rate (Chars/Sec)	6	
x Typematic Delay (Msec)	250	
OS Select For DRAM > 64MB	[Non-OS2]	
Full Screen LOGO	[Enabled]	
Halt On	[All Errors]	

F1: Help ↑↓: Select Item -/+ : Change Value F5: Setup Defaults
ESC: Exit →←: Select Menu Enter: Select SubMenu F10: Save and Exit

Case Open Warning [Enabled]

ケース開閉検出機能を設定します。詳細は 2.8.2「内部コネクタ」をご覧ください。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Quick Boot [Enabled]

起動中にいくつかの自己診断テスト(POST)をスキップして、システムの起動をスピードアップさせます。[Disabled] に設定しているときは、BIOS はすべての POST 項目を実行します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Boot Up Floppy Seek [Disabled]

立ち上げ時のフロッピーディスクシークを設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]

Bootup Num-Lock [On]

電源をオンにしたときの、NumLock の状態を選択します。
設定オプション:[Off] [On]

Typematic Rate Setting [Disabled]

キー入力レートを設定します。この項目を [Enabled] に設定すると Typematic Rate (Chars/Sec) と Typematic Delay (Msec) を設定することができます。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]



Typematic Rate (Chars/Sec) と Typematic Delay (Msec) は、Typematic Rate Setting を [Enabled] に設定した場合のみ ユーザー設定可能になります。

Typematic Rate (Chars/Sec) [6]

1 秒あたりの入力文字数を設定します。
設定オプション:[6] [8] [10] [12] [15] [20] [24] [30]

Typematic Delay (Msec) [250]

2回目の入力として認識するまでの遅延時間を設定します。
設定オプション:[250] [500] [750] [1000]

OS Select for DRAM > 64MB [Non-OS2]

64 KB より大きい RAM で OS/2 を起動する場合は、この項目を [OS2] に設定してください。
設定オプション:[Non-OS2] [OS2]

Full Screen LOGO [Enabled]

Full Screen LOGO を設定します。
設定オプション:[Disabled] [Enabled]



ASUS MyLogo3™機能をご利用になる場合は「Full Screen LOGO」の項目を [Enabled] に設定してください。

BIOS Wallpaper [00%]

BIOS ウォールペーパーの透明度を設定します。
設定オプション:[00%] [25%] [50%] [75%]

Halt On [All Errors]

エラーの報告タイプを設定します。
設定オプション:[All Errors] [No Errors] [All, But Keyboard] [All, But Diskette] [All, But Disk/Key]

4.7.6 セキュリティ

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility	
Boot	
Security	Select Menu
Supervisor Password Clear	Item Specific Help▶
User Password Clear	Supervisor password controls full access, <Enter> to change password.
Password Check [Setup]	

Supervisor Password User Password

パスワードを設定します。

手順

1. 項目を選択し<Enter>を押します。
2. 8文字以上の英数字からなるパスワードを入力し、<Enter>を押します。
3. パスワードの確認を要求されたら、もう一度パスワードを入力し <Enter>を押します。パスワードのフィールドが Set に変更されます。

パスワードをクリアする

1. パスワードフィールドを選択し<Enter>を2度押すと、下のメッセージが表示されます。



2. 任意のキーを押すと、パスワードフィールドの設定が Clear に変わります。

パスワードに関する注：

Supervisor Password は、認可のないアクセスを防ぐためにBIOS セットアッププログラムに入る際に要求するパスワードです。User Password は、認可のない使用を防ぐために、システムを起動する際に要求するパスワードです。

パスワードを忘れてしまった場合

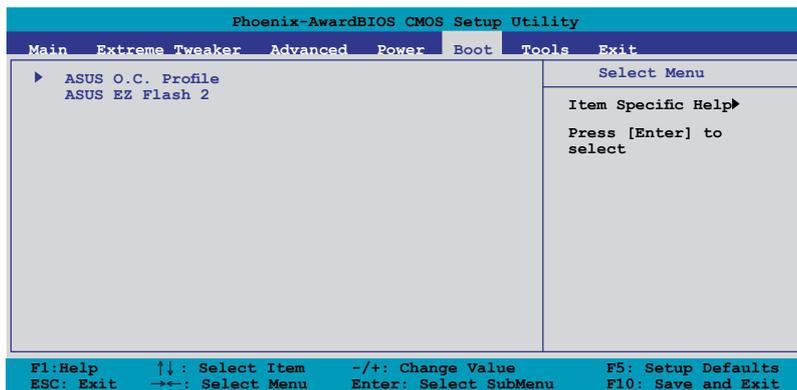
パスワードを忘れてしまった場合は、CMOS Real Time Clock (RTC) RAM を削除することで、パスワードをクリアすることができます。パスワード情報を含む RAM データはオンボードボタンセルバッテリーで動作しています。CMOS RAM を消去する場合はページ 2-21 の「2.6 ジャンプ」をご覧ください。

Password Check

この項目を[Setup] に設定すると、BIOS はBIOSメニューへのアクセス時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。[System] に設定すると、BIOS はBIOSメニューへのアクセス時と、システムの起動時に、ユーザーパスワードの入力を要求します。
設定オプション: [Setup] [System]

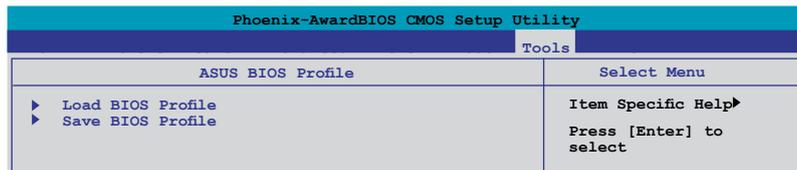
4.8 ツールメニュー

スペシャル機能のオプションを設定します。項目を選択し<Enter>を押してサブメニューを表示させます。

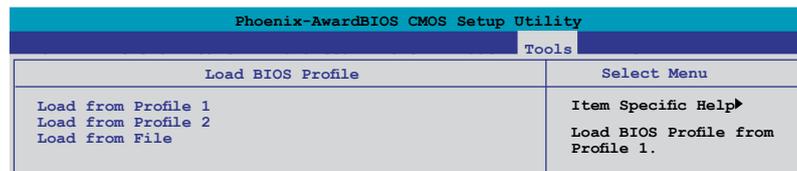


4.8.1 ASUS O.C. Profile

複数の BIOS 設定を保存/ロードすることができます。



Load BIOS Profile



Load from Profile 1/2

BIOS Flash に保存した BIOS 設定をロードすることができます。<Enter>を押してファイルをロードしてください。

Load from File

FAT32/16/12フォーマットのハードディスク/フロッピーディスク/USB フラッシュディスクに保存した BIOS ファイルをロードすることができます。手順は以下の通りです。

1. “xxx.CMO” ファイルの入った記憶装置をセットします。
2. システムをオンにします。
3. BIOS セットアップの Tools メニューで「**Load from File**」を選択します。
<Enter> を押すとセットアップ画面が表示されます。
4. <Tab> を使ってドライブを移動し “xxx.CMO” ファイルを選択します。
<Enter> を押してファイルをロードします。
5. ロードが完了するとポップアップメッセージが表示されます。



- 同じメモリ/CPU 設定/BIOS バージョンの BIOS ファイルのみへのアップデートを推奨します。
- 「xxx.CMO」ファイルのみロード可能です。

Save BIOS Profile

Phoenix-AwardBIOS CMOS Setup Utility	
Tools	
Save BIOS Profile	Select Menu
Save to Profile 1 Save to Profile 2 Save to File	Item Specific Help▶ Save current BIOS Profile to Profile 1.

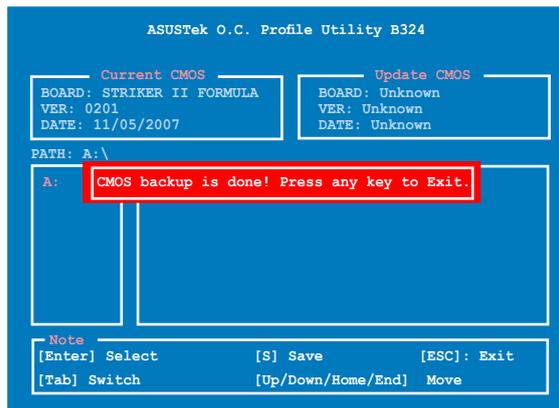
Save to Profile 1/2

BIOS ファイルを BIOS Flash に保存します。<Enter> を押すとファイルが保存されます。

Save to File

FAT32/16/12 フォーマットの ハードディスク/フロッピーディスク/USB フラッシュディスクに BIOS ファイルを保存します。手順は以下の通りです。

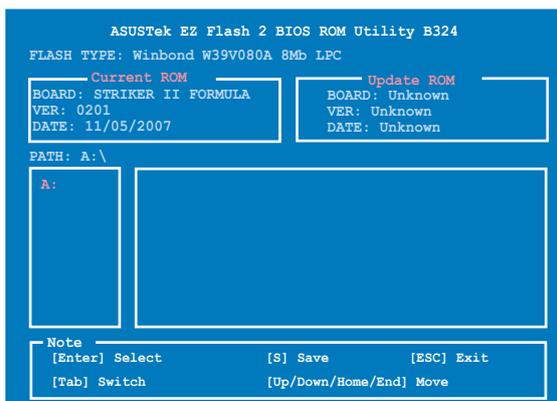
1. 十分な空き容量のある記憶装置をセットします。
2. システムをオンにします。
3. BIOS セットアップの Tool メニューで「Save to File」を選択し<Enter>を押すとセットアップ画面が表示されます。
4. <Tab> を使ってドライブを移動します。ホットキーの <S> を押してファイルを保存します。
5. ファイル名を入力し、<Enter>を押します。
6. 保存が終了するとポップアップメッセージが表示されます。



BIOS ファイルは “xxx.CMO” の形で保存されます。

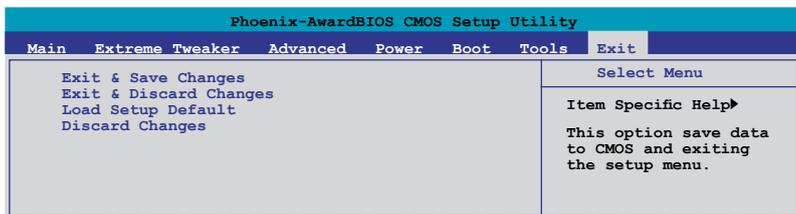
4.8.2 ASUS EZ Flash 2

ASUS EZ Flash 2 を起動します。<Enter>を押すと、確認メッセージが表示されます。左右矢印キーを使って [Yes] または [No] を選択し <Enter> を押して選択を決定します。



4.9 終了メニュー

BIOS 設定の保存や取り消しのほか、初期設定値の読み込みを行います。



<Esc> を押してもこのメニューは終了しません。このメニューから終了する項目を選択するか、<F10> を押して終了します。

Exit & Save Changes

BIOS の設定が終了したら、「Exit menu」からこのオプションを選択し、設定を CMOS RAM に保存して終了します。オンボード用のバックアップで搭載されているバッテリーは、コンピュータの電源がオフになっているときでも BIOS の設定内容を保持します。この項目を選択すると、確認ウィンドウが表示されます。「YES」を選択すると、変更を保存して終了します。



設定を保存せずに <ESC> で BIOS メニューを終了しようとする、終了する前に変更を保存しますかと尋ねるメッセージが表示されます。その場合は <Enter> 押して変更を保存します。

Exit & Discard Changes

BIOS メニューで行った設定を保存したくないときに、この項目を選択します。ただし、システムの日付、システム時間、パスワード以外の設定を変更した場合は、終了する前に確認のメッセージが表示されます。

Load Setup Default

セットアップメニューのそれぞれの値に、初期設定値をロードします。このオプションを選択するか、<F5> を押すと確認画面が表示されます。「YES」を選択して初期設定値をロードします。Exit & Save Changes を選択するか、他の変更を行ってから設定を保存します。

Discard Changes

BIOS メニューで設定した変更を破棄し、以前保存したときの値を復元します。このオプションを選択した後は、確認のメッセージが表示されます。確認のメッセージの表示で「YES」を選択すると変更を取り消し、以前保存したときの値がロードされます。

サポート DVD のコンテンツ

5 ソフトウェア

5.1	OSをインストールする.....	5-1
5.2	サポート DVD 情報.....	5-1
5.3	ソフトウェア情報.....	5-9
5.4	RAID	5-34
5.5	RAID ドライブディスクを作成する.....	5-52

5.1 OSをインストールする

このマザーボードは Windows® XP/64-bit XP/Vista/64-bit Vista OSをサポートしています。ハードウェアの機能を最大限に活用するために、OSを定期的にアップデートしてください。



- ここで説明するセットアップ手順は一例です。詳細については、OSのマニュアルをご参照ください。
- 互換性とシステムの安定性のために、ドライバをインストールする前に、Windows® 2000 Service Pack 4 または Windows® XP Service Pack 2 以降のサービスパック適用済みのOSであることをご確認ください。

5.2 サポート DVD 情報

マザーボードに付属のサポート DVD には、マザーボードを利用するために必要なドライバ、アプリケーション、ユーティリティが収録されています。



サポート DVD の内容は、予告なしに変更する場合があります。最新のものは、ASUS Webサイト (www.asus.co.jp) でご確認ください。

5.2.1 サポート DVD を実行する

サポート DVD を光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバメニューが自動的に表示されます。



サポート DVD とマザーボードの情報を表示できます。

インストールする項目を選択



Autorun が有効になっていない場合は、サポート DVD の BIN フォルダから ASSETUP.EXE を探してください。ASSETUP.EXE をダブルクリックすれば、ドライバメニューが表示されます。

5.2.2 ドライバメニュー

Drivers メニューには、インストールが可能なドライバが表示されます。必要なドライバを上から順番にインストールしてご利用ください。



ASUS InstAll - Installation Wizard for Drivers

ASUS InstAll でドライバをインストールします。

Nvidia Chipset Driver Program

NVIDIA® nForce® 780i SLI™ チップセット用の NVIDIA® チップセットドライバをインストールします。

ASUS EPU Driver + AI Gear 3 Utility

ASUS EPU ドライバ + AI Gear 3 ユーティリティをインストールします。



ASUS AI Suite ユーティリティの前にこのドライバをインストールします。

USB 2.0 Driver

Universal Serial Bus 2.0 (USB 2.0) ドライバをインストールします。

5.2.3 ユーティリティメニュー

マザーボードで使用できるアプリケーションやユーティリティをインストールします。



クリックすると次のページを表示します。



クリックすると前のページに戻ります。

ASUS InstAll - Installation Wizard for Utilities

ASUS InstAll でユーティリティをインストールします。

ASUS PC Probe II

ファンスピードとCPU 温度、システム電圧を監視し、問題がある場合に警告します。このユーティリティを使えばコンピュータを常に正常な状態に維持することができます。

ASUS Update

ASUS Web サイトから最新バージョンの BIOS をダウンロードするツールです。このユーティリティを使用するにはインターネット接続が必要です。

3DMark06 Software

3Dmark06 ソフトウェアをインストールします。

ASUS AI Suite

ASUS AI Suite をインストールします。

ADOBE Acrobat Reader V7.0

PDF (Portable Document Format) ファイルの閲覧、プリントができる Adobe® Acrobat® Reader V7.0 をインストールします。

Microsoft DirectX 9.0c

Microsoft® DirectX 9.0c ドライバをインストールします。Microsoft DirectX® 9.0c は、コンピュータのグラフィックスとサウンドを拡張するマルチメディアテクノロジーです。DirectX® はコンピュータのマルチメディア機能を向上させるので、TV や映画、ビデオキャプチャ、ゲームをよりお楽しみいただけます。アップデートは Microsoft Web サイト (www.microsoft.co.jp) で。

Anti-Virus Utility

コンピュータウイルスからパソコンを守ります。詳細はオンラインヘルプをご参照ください。

InterVideo MediaOne Gallery

InterVideo Media One Gallery ユーティリティをインストールします。

WinDVD Copy5 Trial

WinDVD Copy5 Trial ユーティリティをインストールします。

Ulead PhotoImpact 12 SE

Ulead PhotoImpact 12 SE ユーティリティをインストールします。

CyberLink PowerBackup

CyberLink Powerbackup ユーティリティをインストールします。

Corel Snapfire Plus SE

Corel Snapfire Plus SE ユーティリティをインストールします。

5.2.4 Make disk menu

NVIDIA® nForce® 570 SLI™ SATA RAIDドライバディスクを作成します。



NVIDIA 32/64 bit XP/Vista SATA RAID Driver

32/64bit システム用の NVIDIA®/Vista™ SATA RAID ドライバを作成します。

5.2.5 マニュアルメニュー

補足のユーザーマニュアルを見ることができます。



ほとんどのマニュアルファイルは PDF になっています。PDFファイルを見るには、Utilities タブの Adobe® Acrobat® Reader V7.0 をインストールしてください。



5.2.6 ビデオメニュー

Video タブをクリックして、ビデオクリップのリストを表示します。「Extreme OC Clip」をクリックすると、オーバークロックの達人が、ROG マザーボードを使用して 3DMark の世界記録を更新する様子を見ることができます。



5.2.7 コンタクトインフォメーション

ASUS コンタクトインフォメーションです。また、このマニュアルの表紙裏にも記載してあります。

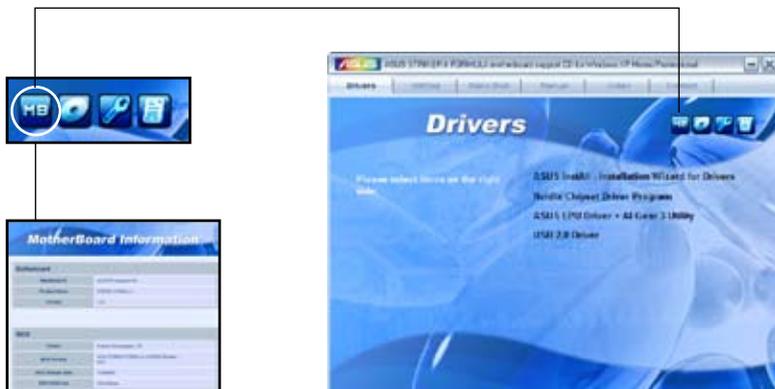


5.2.8 その他の情報

画面右上のアイコンです。マザーボード、サポート DVDの内容に関する追加情報です。

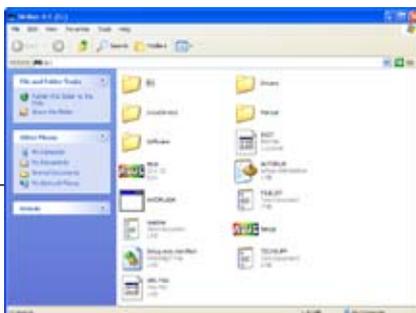
マザーボード情報

マザーボードの全般仕様を表示します。



DVDをブラウズする

サポート DVD のコンテンツを表示します。(グラフィカル形式)



テクニカルサポートフォーム

Technical Support Request Form を表示。テクニカルサポートをご依頼の際に記入してください。

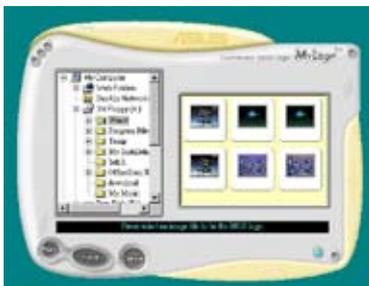


ファイルリスト

サポート DVD のコンテンツを表示します。(テキスト形式)



7. ログ画像が右ウィンドウ枠に表示されたら、画像を選択してクリックし、拡大します。



8. Ratio box の値を選択し、画像のサイズを調整します。



9. 面がASUS Update ユーティリティに戻ったら、オリジナルのBIOSをフラッシュして新しい起動ロゴをロードします。
10. BIOSを更新した後、コンピュータを再起動すると、POST中に新しい起動ロゴが表示されます。

5.3.2 AI NET2

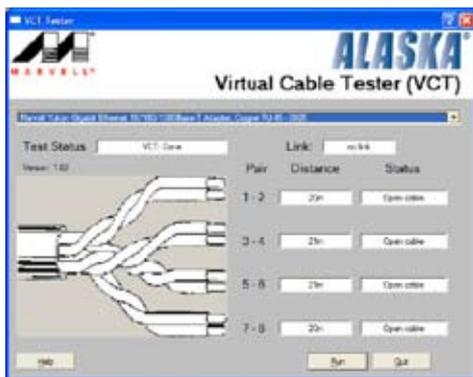
AI NET2 は Marvell® Virtual Cable Tester™ (VCT)を採用しており、VCT はケーブル診断ユーティリティで、TDRテクノロジーを使用して、LANケーブル障害とショートを報告します。VCTは、外れたケーブル、ショートしているケーブル、インピーダンス不一致、ペア交換、ペア極性問題、ペアスキュー問題を瞬時に1メートルの精度で検出し報告します。

VCT機能は、きわめて管理が簡単で制御されたネットワークシステムを通じて、ネットワークとサポートコストを抑えています。このユーティリティはネットワークシステムソフトウェアに組み込まれ、開発診断だけでなく理想的なフィールドサポートも実現しています。

Virtual Cable Tester™を使う

手順

1. Windows® デスクトップから、「スタート」→「すべてのプログラム」→「Marvell」→「Virtual Cable Tester」の順にクリックしてVCT を起動します。
2. メニューの「Virtual Cable Tester」をクリックして、下の画面を表示させます。



3. 「Run」ボタンをクリックして、ケーブルテストを実行します。



- VCT は、Windows® XP または Windows® Vista™ OS を使用したシステムでのみ実行可能です。
- VCT ユーティリティが利用できるのは、Gigabit LAN ポートに接続したイーサネットケーブルのみです。
- LAN ケーブルに問題が検出されない場合は、Virtual Cable Tester™メインウィンドウの「Run」ボタンは無効になります。
- OSに入る前に、システムでLANケーブルの状態をチェックしたい場合は、BIOSの「Post Check LAN Cable」の項目を[Enabled]にします。

5.3.3 AI Audio 2 (SoundMAX® High Definition Audio ユーティリティ)

ADI AD1988 High Definition Audio CODEC は、AudioESP™ ソフトウェア採用の SoundMAX® オーディオを通して 8 チャンネルオーディオを提供し、PCで最高のオーディオをお楽しみいただけます。このソフトウェアは、高品質なオーディオ合成/レンダリング、3D サウンドポジショニング、拡張音声入力技術を採用しています。

インストールウィザードに従って、サポートDVDから ADI AD1988A Audio Driver をインストールし、SoundMAX® をご利用ください。



セットアップには4チャンネル、または 6チャンネル、8チャンネルスピーカが必要です。

SoundMAX® をインストールするとタスクバーにSoundMAX® アイコンが表示されます。



A. SoundMAX BlackHawk (AI Audio 2)

Windows® Vista OS をご使用の場合は、タスクバーから SoundMAX® BlackHawk アイコンをダブルクリックします。ダブルクリックすると SoundMAX® コントロールパネルが表示されます。



Enabling AI Audio 2

電源ボタン  をクリックし、デジタル信号処理を有効にします。

AI Audio 2 は、Sonic Focus 社の新型 SoundMAX BlackHawk で、マルチメディアの幅がより広がります。

Fidelity Compensation

電源ボタンをクリックするとユーティリティが起動します。圧縮されたオーディオストリームを圧縮前のオリジナルに近い状態に再現する際、圧縮処理の過程で失われた本来のサウンドをオーディオ出力としてリアルに再現します。

Sound Field Expansion

AI Audio 2 はリアルなフロント/リアサウンド環境により、ステレオサウンドの領域をマルチメディアチャンネルの領域まで拡張します。

Surround Virtualization

ステレオスピーカーまたはヘッドフォンでの使用を想定しクリアなボーカル機能を追加しました。これによりサラウンドサウンドの仮想化を図ります。



SoundMAX BlackHawk (AI Audio 2) は Windows® Vista™ OS でのみ利用可能です。

Playback Settings

再生の際の各種設定を行うには、コントロールパネル上の **Playback** ボタンをクリックします。**Speakers** や **SPDIF Interface** の音量調節やオーディオのミュートが可能です。

Preset settings

ドロップダウンメニューを展開し、DSP (Digital Signal Processing) 設定を選択します。スライダーを移動すれば、**Voice Clarity**、**Dynamics**、**Brilliance**、**Deep Bass** の各値を変更することができます。設定を保存するには、**Save** をクリックします。設定を保存しない場合は **Reset** をクリックします。



Surround settings

ステレオスピーカーの設定を変更することができます。スライダーを移動して、視聴位置や、センターチャンネルボリュームを変更することができます。**Test Speakers** ボタンを押すと、スピーカーテストを実行することができます。



Port settings

このタブをクリックすると、スピーカー用にはリアパネルポート構成が、SPDIF インターフェース用にはリアパネルデジタルポート構成が表示されます。



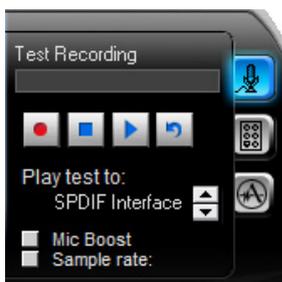
Recording Settings

録音設定を変更するには、コントロールパネル上の **Recording** ボタンをクリックします。スライダーを左右に移動させることで、**Microphone** や **Line In** のスピーカーの遅延を調節することができます。

Record testing



このタブをクリックすると、テスト録音が実行され、サンプルをスピーカーまたは SPDIF インターフェースで再生することができます。



Port settings



このタブをクリックすると、マイクまたはライン入力用のリアパネルポートが表示されます。



ANDREA settings



No Filtering, Speakerphone, Voice Recording, Directional Beam 等のエンハンスドマイク入力機能を選択することができます。



More Settings

詳細設定をするには、 をクリックします。

Equalizer

DSP プリセット周波数を全てカスタマイズ設定することができます。



Speakers

Speaker Trim と Speaker Delay を調節します。



Bass

Bass management を調節します。



Preferences

ユーティリティのオプション、バージョン情報、AudioESP 等を表示します。



B. SoundMAX

Windows® XP OS をご利用の場合は、タスクバーから SoundMAX® アイコンをダブルクリックします。ダブルクリックすると SoundMAX® コントロールパネルが表示されます。



Audio Setup Wizard

SoundMAX® コントロールパネルの  アイコンをクリックすると、簡単にオーディオ設定が行えます。画面の指示に従ってHDオーディオをお楽しみください。



Jack configuration

コンピュータのオーディオポートを設定します。画面は設定したオーディオデバイスによって異なります。



Adjust speaker volume

スピーカの音量調整をします。Test ボタンをクリックし、実際に音を聞いて確認します。



Adjust microphone volume

マイクのボリュームを調節します。文を読むように指示が出ます。声に合わせて AudioWizard がボリュームを調節します。



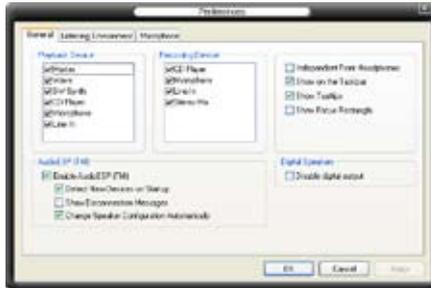
Audio preferences



アイコンをクリックすると Preferences 画面へ移動します。この画面では様々なオーディオ設定の変更が可能です。

General options

General タブをクリックして、プレイバック/レコーディングデバイスを選択し、AudioESP™ 機能、デジタル出力の設定を切り替えます。



Listening Environment options

Listening Environment タブをクリックし、スピーカーや音響の設定、Virtual Theater Surround 機能の切り替えが可能です。



Microphone options

Microphone タブをクリックし、マイク入力設定を最適化します。



5.3.4 ASUS PC Probe II

PC Probe II は、重要なコンピュータのコンポーネントを監視し、問題が検出されると警告するユーティリティです。ファン回転数、CPU温度、システム電圧を中心に監視します。PC Probe II はソフトウェアベースなので、コンピュータに電源を入れた時から監視を開始します。このユーティリティで、コンピュータをいつでも正常に動作させることができます。

PC Probe II をインストールする

手順

1. サポート DVD を光学ドライブに入れます。OSの Autorun 機能が有効になっていれば、ドライバインストールタブが自動的に表示されます。



Autorun が有効になっていない場合は、サポート DVD ASUS PC Probe IIフォルダから **setup.exe** を探してください。**setup.exe** をダブルクリックすれば、インストールが開始されます。

2. 「Utilities」タブ→「ASUS PC Probe II」の順にクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを終了させます。

PC Probe II を起動する

インストール終了後、または Windows® デスクトップからいつでもPC Probe II を起動することができます。

PC Probe II を Windows® デスクトップから起動させる:「スタート」→「すべてのプログラム」→「ASUS」→「PC Probe II」→「PC Probe II v1.xx.xx」の順にクリックすると、PC Probe II のメイン画面が表示されます。

アプリケーションを起動すると、PC Probe II アイコンが Windows® タスクバーに表示されます。アイコンをクリックすることで、アプリケーションを起動・終了できます。

PC Probe II を使う

メインウィンドウ
PC Probe II メインウィンドウでは、システムの現状を確認し、設定を変更することができます。初期設定値では Preference が表示されます。ウィンドウ右の三角をクリックすることで、Preference を閉じることができます。

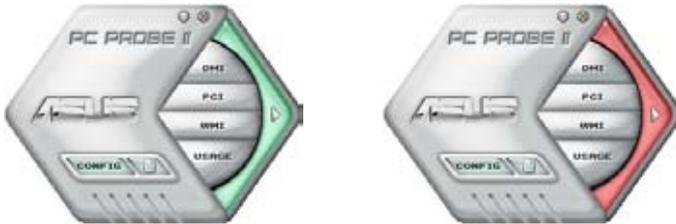


三角をクリックして
Preference を閉じる

	設定画面を開く
	レポート画面を開く
	Desktop Management Interface 画面を開く
	Peripheral Component Interconnect 画面を開く
	Windows Management Instrumentation 画面を開く
	HDD、メモリ、CPU 使用率画面を開く
	Preference 画面を表示/非表示
	アプリケーションを最小化
	アプリケーションを閉じる

警告センサ

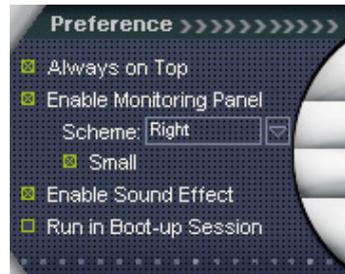
システムセンサーが問題を検出すると、下の絵のようにメイン画面の右側が赤色になります。



センサー用のモニターパネルも赤色になります。「ハードウェアモニターパネル」参照。

Preferences

メイン画面のPreferenceで使用中のアプリケーションをカスタマイズすることができます。ボックスをクリックして設定を切り替えます。



ハードウェアモニターパネル

ファン回転数、CPU 温度、電圧などのシステムセンサーの現在値を表示します。

ハードウェアモニターパネルには2種類ディスプレイモードがあります：6角形(大)と長方形(小)です。Preference で「Enable Monitoring Panel」の項目にチェックした場合は、モニターパネルがデスクトップに表示されます。



6角形(大)



長方形(小)

モニターパネルの位置を変える

モニターパネルのデスクトップ上の位置を変更する場合は、Scheme のボタンをクリックして、リストボックスからポジションを選択します。選択したら「OK」をクリックします。



モニターパネルを分解する

モニターパネルは、磁気効果のため全て一緒に動きます。分解する場合は、U字型のマグネットアイコンをクリックします。



センサーの基準値を調節する

ボタンをクリックしてセンサーの基準値を調節します。また、Config画面でも設定可能です。

長方形(小)のモニターパネルでは基準値を調節することはできません。

値を増やす

値を減らす



警告センサーモニター
コンポーネントの値が基準値以外になると赤色になります。



六角形(大)



長方形(小)

WMI ブラウザ

WMI をクリックして、WMI (Windows Management Instrumentation) ブラウザを表示します。様々な Windows® 管理情報を表示します。左側のパネルの項目をクリックし、右側のパネルに表示させます。WMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



右下の角をドラッグして画面の大きさを調節することができます。

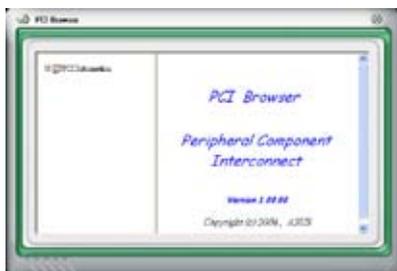
DMI ブラウザ

DMI をクリックして、DMI (Desktop Management Interface) ブラウザを表示します。様々なデスクトップ/システム情報を表示します。DMI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。



PCI ブラウザ

PCI をクリックして、PCI (Peripheral Component Interconnect) ブラウザを表示します。システム上のPCI デバイス情報を表示します。PCI Information の (+) をクリックして情報を表示させます。

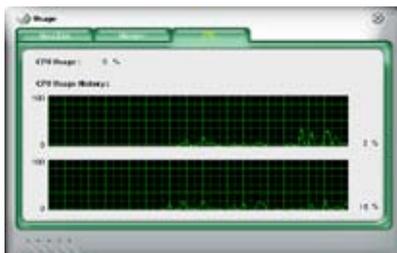


Usage

CPU、HDD空き容量、メモリ使用率をリアルタイムで表示します。**USAGE** をクリックしてUsageを開きます。

CPU

リアルタイムのCPU使用率が線グラフで表示されます。CPUのHyper-Threading機能が有効に設定されている場合は、2つの論理プロセッサ用に2つの線グラフが表示されます。



Hard Disk

HDDの使用率を表示します。パネルの左側には論理ドライブが表示されます。クリックすると右側に情報が表示されます。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。



Memory

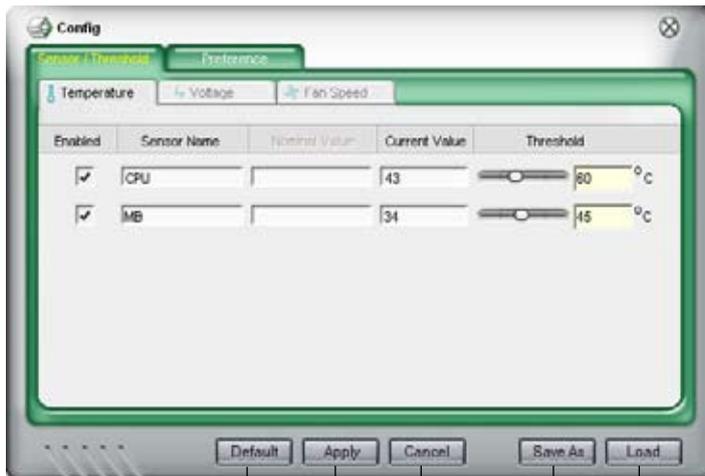
物理メモリの使用率を表示します。円グラフのブルーの部分は使用領域、ピンクの部分は空き領域です。



PC Probe II 設定

CONFIG をクリックしてセンサーの基準値を確認・調節します。

Config には2つのタブがあります: Sensor/Threshold と Preference です。Sensor/Threshold タブでは、センサーを有効にし、基準値を調節します。Preference タブでは警告センサーをカスタマイズし温度を変更します。



初期設定値をロード

変更を適用

変更をキャンセル

保存した設定をロード

設定を保存

5.3.5 ASUS AI Suite

ASUS AI Suite では、AI Gear 3、AI Booster、AI Nap、Q-Fan 2、CPU Level Up の各ユーティリティを簡単に起動することができます。



ASUS AI Suite ユーティリティをインストールする前に、**ASUS EPU + AI Gear 3 Driver** をインストールしてください。ASUS AI Suite が正しく機能しません。

AI Suite をインストールする

手順

1. Autorun 機能が有効に設定されている場合は、サポート DVD を光学ドライブにセットすると Drivers インストールタブが表示されます。
2. **Utilities** タブ → **AI Suite** の順にクリックします。
3. 画面の指示に従ってインストールを完了させます。

AI Suite を起動する

AI Suite をインストールしたらいつでも起動可能です。

Windows® デスクトップから AI Suite を起動する方法。

「スタート」→「すべてのプログラム」→「ASUS」→「AI Suite」→「AI Suite v1.xx.xx」の順にクリックすると AI Suite のメインウィンドウが表示されます。

アプリケーションを起動したら、AI Suite アイコンが Windows® タスクバーに表示されます。このアイコンをクリックしてアプリケーションの終了やリストアを行います。

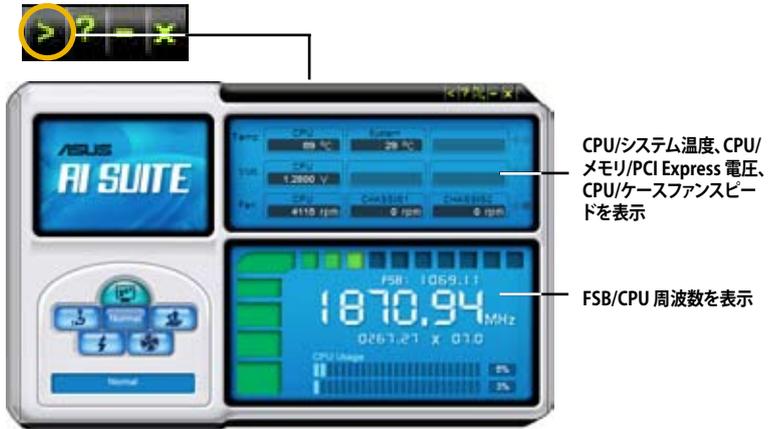
AI Suite を使う

AI N.O.S、AI Gear 3、AI Nap、AI Booster、Q-Fan 2 アイコンをクリック、ユーティリティを起動します。ノーマルアイコンをクリックするとシステムがノーマル状態にリストアされます。



その他のボタン

メインウィンドウの右端にある  をクリックしてモニターウィンドウを開きます。



右上の  をクリックして摂氏と華氏を切り換えます。



5.3.6 ASUS EPU ユーティリティ—AI Gear 3

ASUS AI Gear 3 は ASUS EPU (Energy Processing Unit) 機能を活用するためのユーティリティです。操作は簡単で、4 種類のパフォーマンスモードからモードを選択するだけで、負荷に応じてプロセッサの周波数と vCore 電圧を調節します。

ASUS AI Suite を付属のサポート DVD からインストール後、ユーティリティを起動するには、Windows OS のタスクバーにある AI Suite アイコンをダブルクリックし、AI Suite メイン画面で AI Gear 3 ボタンをクリックします。

AI Gear 3 の使用方法

- 各モード(ターボ、ハイパフォーマンス、節電、最大節電)のボタンをクリックし、モードを選択します。ギアを移動してパフォーマンス設定を設定することもできます。
- 「キャリブレーション」をクリックし「オート」モードに切り替えると、AI Gear 3 は CPU の負荷に応じてシステムパフォーマンスを自動的に調節します。
- 「オート」モードで「設定」ボタンをクリックすると、AI Napモードに入るまでの時間設定ができます。



5.3.7 ASUS AI Nap

コンピュータを使用していない時の電源消費を最小限に抑えます。

付属のサポート DVD からAI Suite をインストール後、Windows OS のタスクバーのAI Suite アイコンをダブルクリックし、メイン画面で AI Nap ボタンをクリックして起動します。

確認画面で「Yes」をクリックしてください。



システム電源またはマウスボタンを押し、確認画面で「Yes」をクリックして AI Nap モードから退出します。



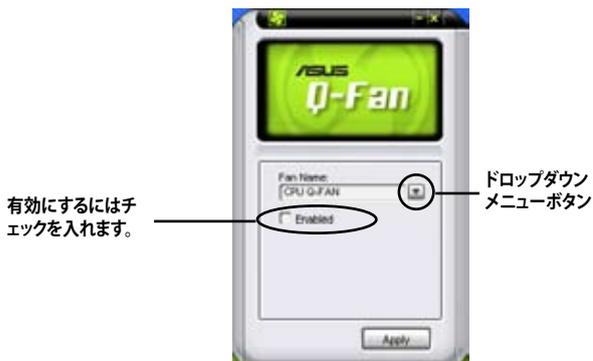
電源ボタンの機能を「AI Nap」からシャットダウンに切り替えるには、タスクバー上の「AI Suite」アイコンを右クリックし、「AI Nap」を選択した後「Use power button」をクリックしてください。

5.3.8 ASUS Q-Fan 2

ASUS Q-Fan 2 機能では、CPU ファンとケースファンのパフォーマンスを適切なレベルに設定することができます。この機能を有効にすると各ファンは温度に応じて自動的に減速・加速します。

付属のサポートDVDから AI Suite をインストールした後、Windows® OS のタスクバーにある AI Suite のアイコンをダブルクリックしてこのユーティリティを起動します。次にメイン画面にある Q-Fan 2 ボタンを押してください。

ドロップダウンメニューボタンをクリックし、CPU Q-Fan 2 または CHASSIS Q-Fan 2 を選択してください。Enabled にチェックを入れるとこの機能が有効になります。



Profile リストが表示されますので、ドロップダウンメニューボタンをクリックし、選択肢からモードを1つ選択します。

「Optimal」モードは温度に応じてファンスピードを調節します。

「Silent」モードはファンスピードを下げ動作音を抑えます。

「Performance」モードではファンスピードは最速になります。

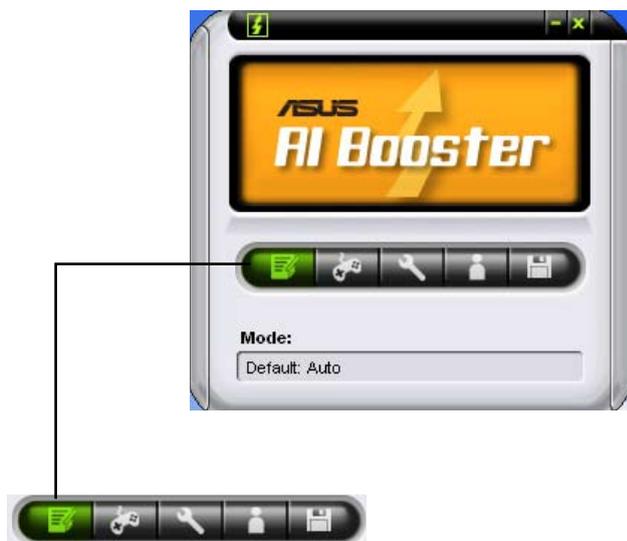


「Apply」ボタンをクリックし設定を保存します。

5.3.9 ASUS AI Booster

ASUS AI Booster は CPU 速度を Windows® 環境でオーバークロックします。

付属のサポートDVD から AI Suite をインストールしたら、Windows OS タスクバーの AI Suite アイコンをダブルクリックし、メイン画面で AI Booster ボタンをクリックし起動します。

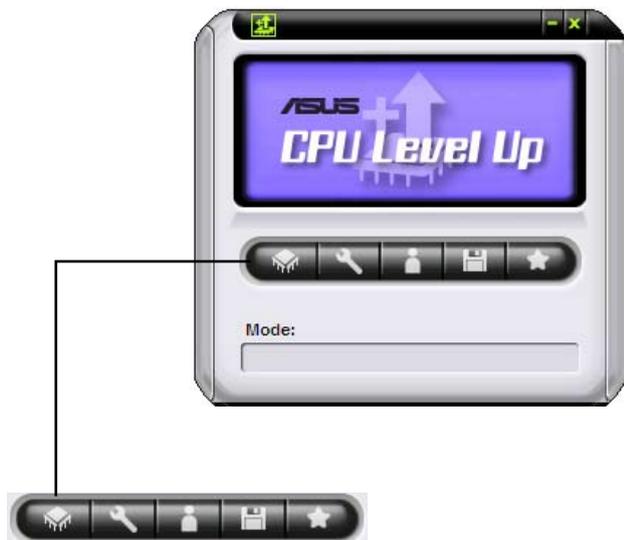


タスクバーのオプションで初期設定値の適用や、CPU/メモリ/PCI-E 周波数の手動調節、またオーバークロック設定の作成と適用が可能です。

5.3.10 CPU Level Up

CPU Level Up アプリケーションにより、OC プロファイルプリセットを使用して、BIOSを起動せずに、Windows® 環境ですぐにオーバークロックすることができます。このアプリケーションは、周波数、電圧、タイミングの広範囲かつ詳細な調節が可能で、プロフェッショナルなレベルのオーバークロック設定を実現します。

ASUS AI Suite を付属のサポート DVD からインストール後、ユーティリティを起動するには、Windows OSのタスクバーにある AI Suite アイコンをダブルクリックし、AI Suite メイン画面で CPU Level Up ボタンをクリックします。



タスクバーのオプションにより、CPUレベルの選択、詳細な CPU/メモリ/PCI-E 周波数の調節、個人のオーバークロック設定の作成・適用が可能です。

5.4 RAID

本マザーボードには NVIDIA® nForce® 570 SLI™ Southbridge RAID コントローラが搭載されており、IDE / Serial ATA ハードディスクドライブで RAID の構築が可能です。

5.4.1 RAID の定義

RAID 0 (データストライピング):

HDD に対しパラレル方式でデータを読み/書きします。それぞれのハードディスクの役割はシングルドライブと同じですが、転送率はアレイに参加している台数倍に上り、データへのアクセス速度を向上させます。セットアップには、最低 2 台の HDD (同じモデル、同容量) が必要です。

RAID 1 (データミラーリング):

1 台目のドライブから、2 台目のドライブに、同じデータイメージをコピーし保存します。ドライブが 1 台破損しても、ディスクアレイ管理ソフトウェアが、アプリケーションを正常なドライブに移動することによって、完全なコピーとして残ります。システム全体のデータプロテクションとフォールト・トレランスを向上させます。セットアップには、最低 2 台の新しい HDD、または、既存のドライブと新しいドライブが必要です。既存のドライブを使う場合、新しいドライブは既存のものと同じサイズかそれ以上である必要があります。

RAID 0+1:

データストライピングとデータミラーリングをパリティ (冗長データ) なしで結合したものの RAID 0 と RAID 1 構成のすべての利点が得られます。セットアップには、最低 4 台の HDD が必要です。

RAID 5:

3 台以上の HDD 間のデータとパリティ情報をストライピングします。利点は、HDD のパフォーマンスの向上、フォールト・トレランス、記憶容量の増加です。データのやり取り、相関的なデータベースのアプリケーション、企業内のリソース作成など、ビジネスにおけるシステムの構築に最適です。セットアップには最低 3 台の同じ HDD が必要です。

JBOD (スパニング):

Just a Bunch of Disks の略で、RAID として設定されていない HDD を使います。複数台の HDD を、仮想的に 1 台の HDD のように使用します。複数台の HDD をワンパーティションで使用することが可能になります。スパニングは複数の HDD を使用することで得られる、フォールトトレランスや他の RAID 機能の利点はありません。



RAID 構成がされている HDD からシステムをブートする場合は、OS をインストール時にドライバを組み込む必要があります。サポート DVD からフロッピーディスクに、RAID ドライバをコピーしてご利用ください。(詳細 5.5 「RAID ドライブディスクの作成」参照)

5.4.2 NVIDIA® RAID

本製品の、NVIDIA® nForce® 570 SLI™ チップセットの高性能SATA RAID コントローラは、6つのSerial ATA チャンネルで、RAID 0、RAID 1、RAID 0+1、RAID 5、JBODをサポートします。

Serial ATA ハードディスクを取り付ける

本製品は、Ultra DMA 133/100/66 と Serial ATA HDD をサポートします。最適なパフォーマンスのため、ディスクアレイを作成する場合は、モデル、容量が同じHDDをご使用ください。

RAID用にSATA ハードディスクを取り付ける

1. SATA ハードディスクをドライブベイに取り付けます。
2. SATA データケーブルを接続します。
3. SATA 電源ケーブルを各ドライブの電源コネクタに接続します。



RAID についての詳細は、サポートDVD の「RAID controllers user manual」をご参照ください。(詳細 5.2.5 「マニュアルメニュー」)

BIOSでRAIDを設定する

ハードディスクドライブを取り付けた後、RAIDを作成する前に、BIOSのセットアップでRAIDを設定してください。

手順

1. システムを起動し、POST中に を押して BIOS に入ります。
2. BIOSの「RAID Enabled」の項目を有効にしてください。(詳細: 4.5.3 オンボードデバイス設定構成)の「Serial-ATA Configuration」参照)
3. RAIDとして設定するSATAドライブを[Enabled]にしてください。(詳細: 4.5.3「オンボードデバイス設定構成」の「Serial-ATA Configuration」参照)
4. 変更を保存し退出してください。



CMOSをクリアしたら、システムに RAID 設定を認識させるために NVRAID 設定をもう一度確認してください。



NVIDIA® RAID 設定についての詳細は、サポート DVD の「NVIDIA® RAID User's Manual」をご覧ください。

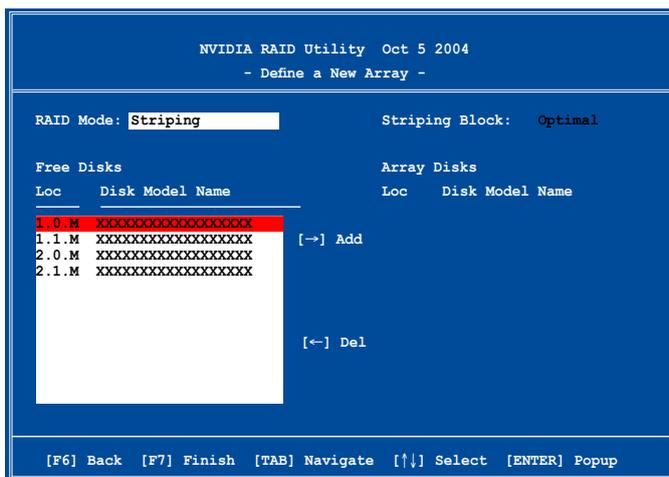
NVIDIA® RAID ユーティリティを使う

手順

1. コンピュータを起動します。
2. POST中に、<F10>を押してユーティリティのメインメニューを表示させます。



このセクションのRAID BIOS セットアップ画面は一例です。実際の画面とは異なる場合があります。



画面下の項目はナビゲーションキーです。ナビゲーションキーを使用してメニューのアイテムを選択し、設定を変更します。

RAID ボリュームを作成する

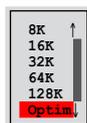
手順

1. NVIDIA® RAID ユーティリティの Define a New Array メニューで、RAID モードを選択して<Enter>を押すと、下のサブメニューが表示されます。

上下矢印キーを使って RAID モードを選択し、<Enter>を押してください。



2. <TAB>を押して「Striping Block」を選択し<Enter>を押すと、右のサブメニューが表示されます。



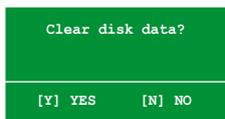
「Striping」か「Stripe Mirroring」を選択した場合は、RAID 0用に上下キーを使ってストライプサイズを設定して<Enter>を押してください。設定可能な値は、8 KB から 128 KB です。初期設定値は 128 KB です。値はご使用になるドライブに合わせて設定してください。

- 8 / 16 KB : ローディスク
- 64 KB : 標準的なディスク
- 128 KB : パフォーマンスディスク



ヒント: サーバーには低めの値、オーディオ、ビデオなどの編集用のマルチメディアコンピュータシステムには高めの値を推奨します。

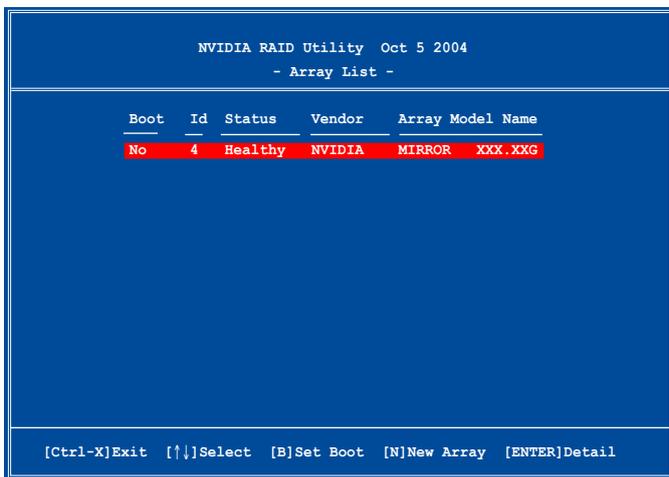
3. <TAB>で、空きディスク領域を選択してください。左右矢印キーを使ってアレイディスクを割り当ててください。
4. <F7> で、RAID を作成すると、次のメッセージボックスが表示されます。



5. 選択したディスクをクリアする場合は<Y>、ディスクをクリアせずに続行する場合は<N>を押してください。次の画面が表示されます。



RAIDドライブの全てのデータが削除されます。ご注意ください。



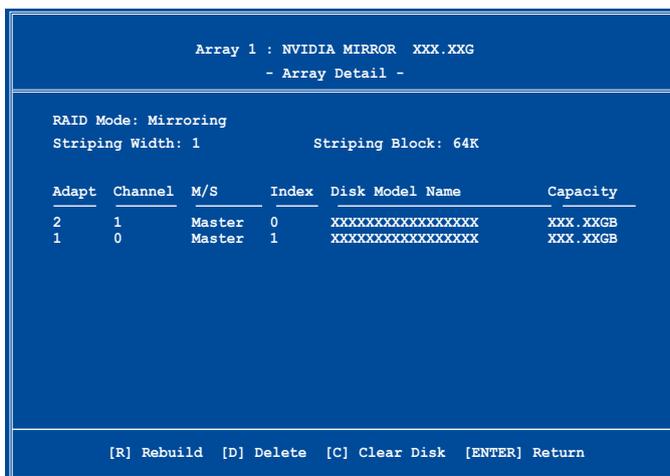
画面の下にナビゲーションキーが表示されます。

6. <Ctrl+X>で設定を保存し退出します。

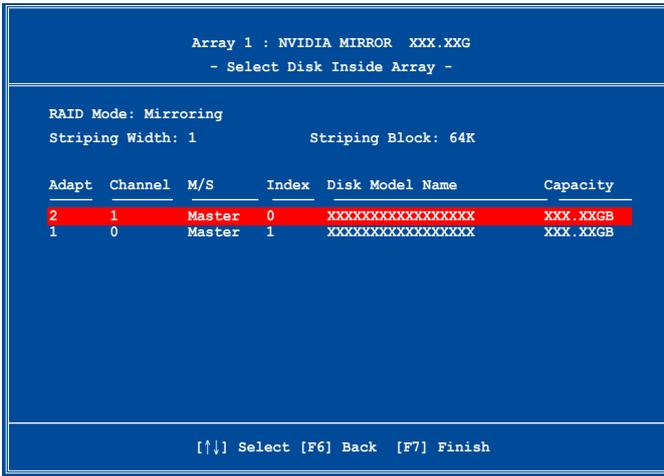
RAID アレイの再構築

手順

1. 上下矢印キーを使って、Array List の「RAID array」を選択し、<Enter>を押します。RAID アレイの詳細が表示されます。



- 画面の下にナビゲーションキーが表示されます
2. <R>を押して RAID アレイを再構築します。



3. 上下矢印キーを使って RAID アレイを選択し、<F7>を押すと、次の確認メッセージが表示されます。



4. 再構築を始める場合は<Enter>、キャンセルする場合は<Esc>を押してください。
5. 再構築が完了すると、アレイリストメニューが表示されます。

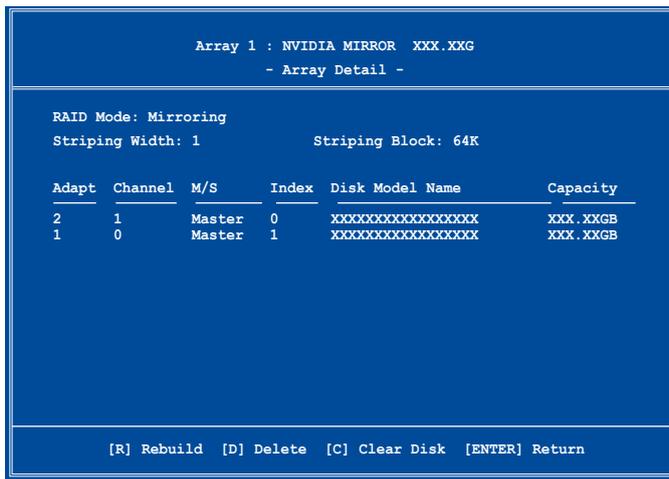


再構築を完了するには、Window® XP を起動し NVIDIA ユーティリティを起動する必要があります。

RAID アレイを削除する

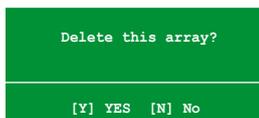
手順

1. アレイリストメニューから上下矢印キーを使って RAID アレイを選択し、<Enter>を押すと、RAID アレイの詳細が表示されます。



画面の下にナビゲーションキーが表示されます。

2. RAID アレイを削除するために <D> を押すと、次の確認メッセージが表示されます。



3. 削除する場合は<Y>、キャンセルする場合は<N>を押してください。



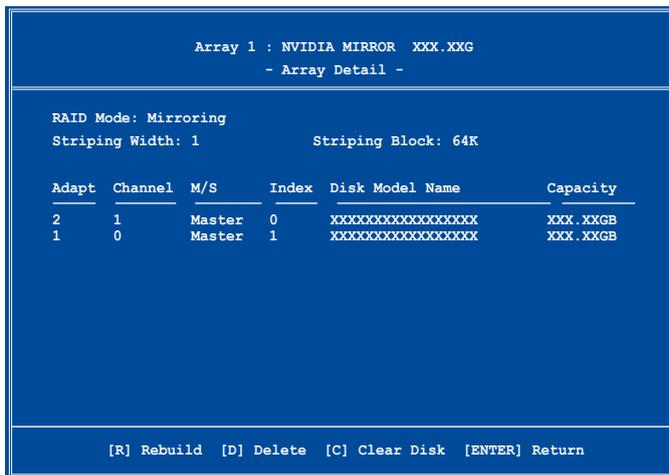
RAIDドライブの全てのデータが削除されます。ご注意ください。

4. <Y>を押すと、新しくRAIDを作成するための画面が表示されます。

データをクリアする

手順

1. アレイリストメニューで、上下矢印キーを使って RAID アレイを選択し、<Enter>を押すと、RAID アレイの詳細が表示されます。



画面の下にナビゲーションキーが表示されます。

2. <C>を押すと、次の確認メッセージが表示されます。



3. クリアする場合は<Y>、キャンセルする場合は<N>を押してください。



RAIDドライブの全てのデータが削除されます。ご注意ください。

5.5 RAIDドライバディスクを作成する

Windows® XP 以降のOS をRAID に組み込まれた HDD にインストールするとき、RAID ドライバが入ったフロッピーディスクが必要です。Windows® Vista™ をお使いの場合は、RAID ドライバが入ったフロッピーディスクまたはUSBフラッシュディスクが必要です。

5.5.1 OS に入らずに RAID ドライバディスクを作成する

手順

1. コンピュータを起動します。
2. POST中に を押し、BIOS に入ります。
3. 光学ドライブをプライマリブートデバイスに設定します。
4. サポート DVD を光学ドライブにセットします。
5. 設定を保存し BIOS を退出します。
6. 「Press any key to boot from the optical drive」が表示されたら、任意のキーを押します。
7. メニューが表示されたら <1> を押して RAID ドライバディスクを作成します。
8. フォーマット済みのフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし <Enter> を押します。
9. 画面の指示に従ってプロセスを完了させます。

5.5.2 RAID ドライバディスクを Windows®環境で作成する

手順

1. Windows®を起動します。
2. サポート DVD を光学ドライブにセットします。
3. 「Make Disk menu」に入り「**NVIDIA 32/64 bit XP/Vista SATA RAID Driver**」をクリックしてNVIDIA® 32/64 bit XP/Vista™ SATA RAID ドライバディスクを作成します。
4. フロッピーディスク/USB デバイスをフロッピーディスクドライブ/USB ポートに挿入します。
5. 画面の指示に従ってプロセスを完了させます。



フロッピーディスクはライトプロテクトしてウイルスの攻撃からシステムを保護してください。

Windows XPにRAID ドライバをインストールする

1. OS のインストール中に、「Press the F6 key to install third-party SCSI or RAID driver」という指示が表示されます。
2. <F6>を押し、RAID ドライバ ディスクをフロッピーディスクドライブに入れます。
3. 画面の指示に従い、インストールを完了させます。

Windows® Vista: にRAID ドライバをインストールする

1. RAID ドライバを保存したフロッピーディスクを挿入する、あるいは RAID ドライバを保存した USB デバイスをシステムに接続します。
2. 画面の指示に従い、インストールを完了させます。



チップセットの制限により、NVIDIA チップセットがサポートする Serial ATA ポートは、DOSモードでは Serial 光学ディスクドライブをサポートしません。

NVIDIA®SLI 対応 PCI Express ビデオカード
の取り付け方法

NVIDIA® SLI™
テクノロジーサポート

6.1	概要	6-1
6.2	デュアルビデオカード設定	6-2

6.1 概要

本製品は、PCI Express™ x16 ビデオカードの2枚挿しが可能な、NVIDIA® SLI™ (Scalable Link Interface) - Intel® Edition 技術をサポートしています。

必要条件

- デュアル SLI モードでは、全く同一の NVIDIA® 公認 SLI-Ready のビデオカードが 2 枚必要です。
- 3 ウェイ SLI モードでは、全く同一の NVIDIA® 公認 SLI-Ready のビデオカードが 3 枚必要です。
- ビデオドライバが NVIDIA SLI 技術対応であること。または、NVIDIA Web サイト (www.nvidia.com) から、最新のドライバをダウンロードしてください。
- 電源装置 (PSU) が最低電源条件を満たしていること。(詳細: 2-38 参照)



-
- NVIDIA 3 ウェイ SLI 技術は、Windows® Vista OS のみのサポートです。
 - NVIDIA zone Web サイト (<http://www.nzone.com>) で最新の公認ビデオカードと3D アプリケーションリストを確認してください。
-

6.2 デュアルビデオカード設定

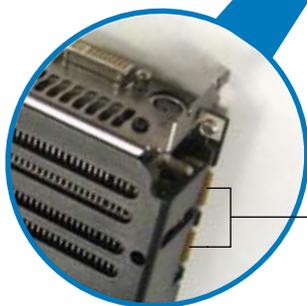
6.2.1 SLI 対応ビデオカードを取り付ける



取り付けるNVIDIA®公認 SLI 対応ビデオカードは、同一のものが2枚必要です。異なる種類のビデオカードでは、正確に機能しません。

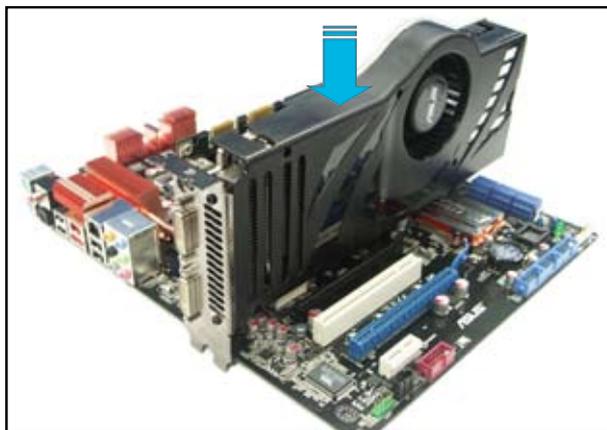
手順

1. ビデオカードを3枚用意します。各ビデオカードには3ウェイSLIブリッジコネクタ用のゴールドフィンガーが付いています。

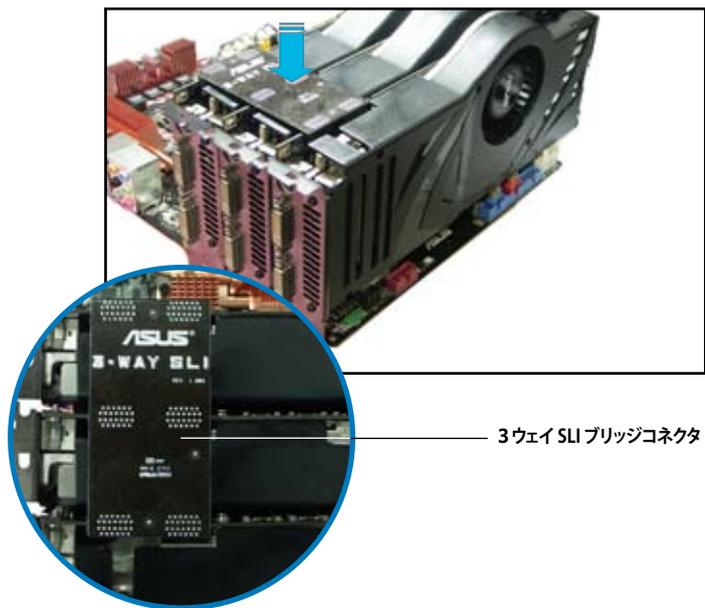


ゴールドフィンガー

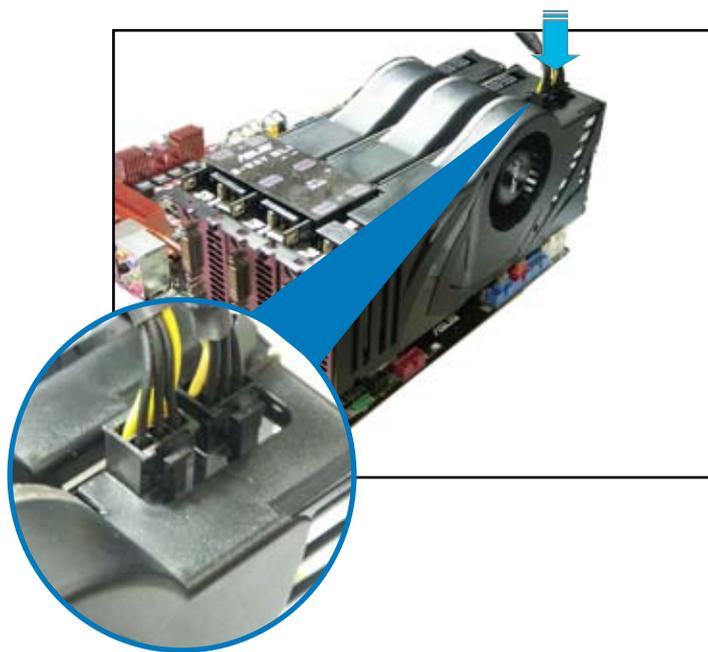
2. 1枚目をPCIEX16_1スロット(ブルー)に、2枚目をPCIEX16_3スロット(白)に、3枚目をPCIEX16_2スロット(ブルー)に取り付けます。カードは各スロットに正しく挿入してください。



3. 3ウェイSLIブリッジコネクタを各カードのゴールドフィンガーに挿入します。コネクタはしっかり挿入してください。



4. 電源から予備電源を3枚のビデオカードに個々に接続します。



5. VGA ケーブルまたは DVI-I ケーブルをビデオカードに接続します。



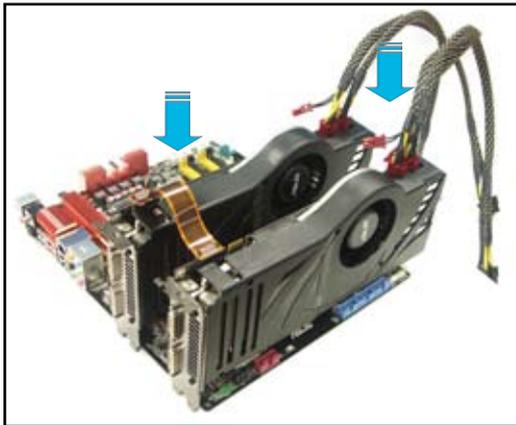
ケースファンの追加など、放熱効果のある環境の構築をお勧めします。

6.2.2 SLI-Ready ビデオカード 2 枚を取り付ける

1. ビデオカード 1 枚を PCIEX16_1 スロット (ブルー) に取り付け、もう 1 枚を PCIEX16_3 スロット (ブルー) に取り付けます。カードはしっかりスロットに固定します。
2. SLI コネクタを各ビデオカードのゴールドフィンガーに挿入します。コネクタはしっかり取り付けてください。
3. 電源から予備電源を 2 枚のビデオカードに個々に接続します。
4. VGA ケーブルまたは DVI-I ケーブルをビデオカードに接続します。



ケースファンの追加など、放熱効果のある環境の構築をお勧めします。



6.2.2 デバイスドライバをインストールする

ビデオカードに付属のマニュアルを参考にして、デバイスドライバをインストールしてください。



- PCI Express ビデオドライバが NVIDIA SLI 技術対応であることを確認してください。最新のドライバは NVIDIA Web サイト (www.nvidia.com) からダウンロードすることができます。
- システムを 3 ウェイ SLI モードにする場合は、3 ウェイ SLI ドライバを Windows® Vista OS 環境でインストールする必要があります。なお、NVIDIA 3 ウェイ SLI テクノロジーがサポートする OS は Windows® Vista のみです。

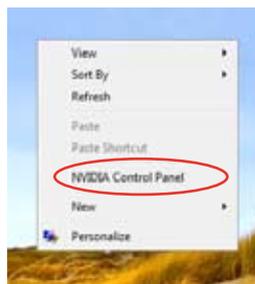
6.2.4 Windows® 環境で NVIDIA® SLI™ テクノロジーを有効にする

ビデオカードとデバイスドライバをインストールしたら、Windows® Vista 環境で NVIDIA® Control Panel を起動し、SLI 機能を有効する必要があります。

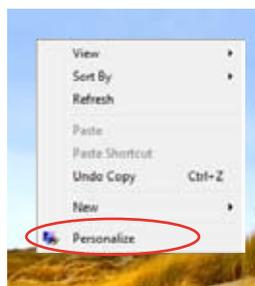
NVIDIA Control Panel を起動する

起動方法は 2 つあります。

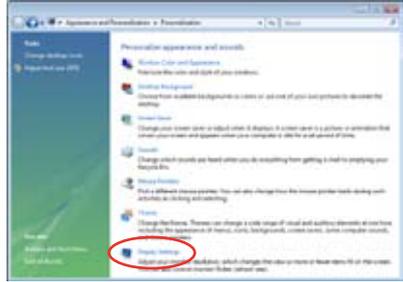
- (a) Windows® デスクトップ上を右クリックし、「**NVIDIA Control Panel**」を選択します。



- (b) (a) で NVIDIA Control Panel が表示されない場合は、「**Personalize**」を選択します。



Personalization ウィンドウから「Display Settings」を選択します。



ダイアログボックスから「Advanced Settings」を選択します。



NVIDIA GeForce タブから「Start the NVIDIA Control Panel」を選択します。



5. NVIDIA Control Panel ウィンドウが表示されます。



SLI 設定を有効にする

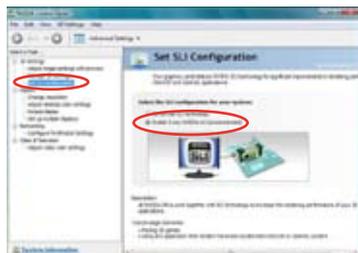
ビデオカードを 2 枚取り付ける場合:

NVIDIA Control Panel ウィンドウから「**Set SLI Configuration**」を選択します。続いて「**Enable SLI**」をクリックしたら、SLI レンダーコンテンツを見るためのディスプレイ設定を行います。続いて「**Apply**」をクリックします。



ビデオカードを 3 枚取り付ける場合:

1. NVIDIA Control Panel ウィンドウから「**Set SLI Configuration**」を選択し、「**Enable 3-way NVIDIA SLI**」を選択します。選択したら「**Apply**」をクリックします。



2. 「**3D Settings**」タブを選択し「**Show SLI Visual Indicators**」の項目を有効にします。

この項目を有効にすると、3D デモ画面がレンダーされ、画面の左側に 3ウェイ SLI の状態を示す緑色のバーが表示されます。



本製品がサポートするCPUとLCD Poster
のデバッグコード表について

CPU の機能





A.1	Intel® EM64T.....	A-1
A.2	EIST (拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー).....	A-1
A.3	Intel® Hyper-Threading Technology	A-3
A.4	デバッグコード表	A-4

A.1 Intel® EM64T



- 本製品は 32bit OS で動作する Intel® LGA775 プロセッサをフルサポートしています。
- 本製品には EM64T 対応の BIOS ファイルを内蔵しています。最新の BIOS ファイルは ASUS の Web サイト (www.asus.co.jp/) からダウンロードすることができます。BIOS ファイルのアップデートについては、Chapter 4 をご参照ください。
- EM64T の機能の詳細は、www.intel.co.jp をご参照ください。
- Windows® 64bit OS の詳細は、www.microsoft.com/japan/ をご参照ください

Intel® EM64T 機能を使う

手順

1. Intel® EM64T に対応の Intel® CPU を取り付けます。
2. 64bit OS をインストールします。(Windows® Vista 64-bit Edition、Windows® XP Professional x64 Edition)
3. マザーボードコンポーネントとデバイス用にサポート DVD から 64bit ドライバをインストールします。
4. 拡張カード、追加デバイス用に、64bit ドライバをインストールします。



拡張カードや追加デバイスの、64bit OS への対応については、各デバイスメーカーの Web サイトで確認してください。

A.2 EIST (拡張版 Intel SpeedStep® テクノロジー)



- 本製品には EIST 対応の BIOS ファイルが付属しています。最新の BIOS ファイルは ASUS の Web サイト (www.asus.co.jp) からダウンロードすることができます。詳細は、Chapter 4 をご参照ください。
- EIST 機能の詳細は www.intel.com をご参照ください。

A.2.1 システム条件

EIST の利用には以下のシステム条件を充たしている必要があります。

- EIST をサポートする Intel® プロセッサ
- EIST をサポートする BIOS ファイル
- Operating system with EIST support (Windows® Vista, Windows® XP SP2/Linux 2.6 カーネルまたはそれ以降のバージョン)

A.2.2 EISTを使う

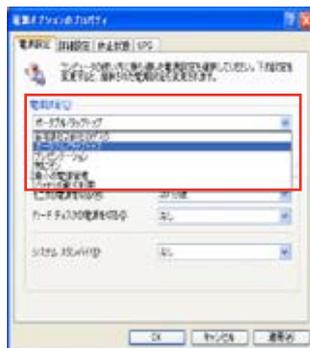
使用手順

1. コンピュータの電源を入れ、BIOSメニューに入ります。
2. Advanced Menu に進み、CPU Configuration をハイライト表示させ、<Enter>を押します。
3. Intel(R) SpeedStep Technology を [Automatic] に設定し、<Enter>を押します。
4. <F10> を押し、設定の変更を保存して BIOS セットアップから退出します。
5. 再起動したら、デスクトップ上で右クリックし、プロパティを選択します。
6. 画面のプロパティ画面が表示されたら、スクリーンセーバーのタブをクリック。
7. モニター電源の項目の「電源」ボタンをクリックし、電源オプションのプロパティを表示させます。



8. 電源設定の項目で、▼ をクリックし、「自宅または会社のデスク」と「常にオン」以外を選択します。
9. 適用をクリックし LOK をクリックします。
10. 画面プロパティを閉じます。

電源設定を調整すると、CPUのロードが低いとき CPU 内部周波数は僅かに低くなります。



表示される画面や手順はOSのバージョンにより異なります。

A.3 Intel® Hyper-Threading テクノロジ



- 本製品は Hyper-Threading Technology に対応した Intel® Pentium® 4 LGA775 プロセッサをサポートしています。
- Hyper-Threading Technology は Windows® Vista/XP/Linux 2.4.x カーネル以降のバージョンにのみ対応しています。Linux 環境では、Hyper-Threading compiler を使用してコードを対応させます。対応していない OS をお使いの場合は、BIOS メニューの「Hyper-Threading Technology」の設定を [Disabled] にしてください。
- Windows® XP (Service Pack 1適用済みのもの)以降のOSのご使用を推奨します。
- OS をインストールする前に、BIOS メニューで「**Hyper-Threading Technology**」の設定を [Enabled] にしてください。
- Hyper-Threading Technology の詳細は www.intel.com/info/hyperthreading をご参照ください。

Hyper-Threading テクノロジを使う

手順

1. Hyper-Threading Technology に対応した Intel® Pentium® 4 CPU を使用してください。
2. システムを立ち上げ、BIOS メニューに進みます。Advanced Menu で Hyper-Threading Technology を [Enabled] に設定してください。
Hyper-Threading Technology の設定項目は、Hyper-Threading Technology に対応した CPU が使われている場合のみ表示されます。
3. システムを再起動します。

A.4 デバッグコード表

コード	説明
CPU INIT	CPU のイニシエーション
DET CPU	CMOS R/W 機能のテスト
CHIPINIT	早期チップセット初期化： -シャドウRAMを無効化 -L2 キャッシュを無効化 -基本チップセットレジスタをプログラム
DET DRAM	メモリを検出 -DRAMのサイズ、種類、ECCの自動検出 -L2 キャッシュの自動検出
DC FCODE	圧縮された BIOS コードをDRAMに拡張
EFShadow	チップセットフックを呼び出してBIOS を E000 及び F000 シャドウ RAMにコピー
INIT IO	IOデバイスを初期化
INIT HWM	ハードウェアモニターを初期化
CLR SCRN	1. スクリーンブランカアウト 2. CMOS エラーフラグをクリア
INIT8042	1. 8042 インターフェースをクリア 2. 8042 セルフテストを初期化
ENABLEKB	1. Super I/O チップ用特殊キーボードコントローラのテスト 2. キーボードインターフェースを有効化
DIS MS	1. PS/2 マウスインターフェース(オプション)を無効化 2. キーボード 及びマウス用ポートの自動検出、続いてポート及びインターフェーススワップ (オプション) 3. Super I/O チップのキーボード機能をチェック
R/W FSEG	F000h セグメントのシャドウをテストし、読み書き可能か調べる。テストに不合格の場合、スピーカでビープ音を鳴らす
DET FLASH	フラッシュタイプを自動検出し、ESCD 及び DMI サポートのために適切なフラッシュ Read/Write コードをF000 のランタイム領域にロードする
TESTCMOS	Walking 1 のアルゴリズムを使用して、CMOS 回路のインターフェースをチェックする。また、リアルタイムクロックの電力状態を設定し、オーバーライドをチェックする
PRG CHIP	チップセット初期設定値をチップセットにプログラム
INIT CLK	クロックジェネレータを初期化
CHECKCPU	ブランド名、タイプ、CPU レベル (586 または 686)を含むCPU 情報を検出
INTRINIT	初期割り込みベクトルテーブル
INITINT9	INT 09 バッファの初期化
CPUSPEED	1. CPU 内部 MTRR (Pentium クラスCPU)を 0~640K メモリアドレス用にプログラム 2. Pentium クラスCPUの APIC を初期化 3. CMOS 設定に従い、初期チップセットをプログラム。 例:オンボードIDE コントローラ 4. CPU 速度を測定 5. ビデオBIOSを起動
VGA BIOS	VGA BIOSを初期化
TESTVRAM	1. 複数言語を初期化 2. BIOSロゴ、CPUの種類、CPU速度を含む情報を画面に表示
RESET KB	キーボード機能をチェック

8254TEST	8254のテスト
8259MSK1	チャンネル1の8259割り込みマスクビットのテスト
8259MSK2	チャンネル2の8259割り込みマスクビットのテスト
8259TEST	8259機能のテスト
COUNTMEM	各64Kページの最後のダブルワードをテストし、合計メモリを計算
MP INIT	1. M1 CPUのMTRRをプログラム 2. P6クラスCPUのL2キャッシュを初期化し、正しいキャッシュ可能範囲でCPUをプログラム 3. P6クラスCPUのAPICを初期化 4. MPプラットフォームで、各CPU間のキャッシュ可能範囲が同一でない場合、キャッシュ可能範囲を小さい方に調節
USB INIT	USBを初期化
TEST MEM	全てのメモリをテスト(全ての拡張メモリを0にクリア)
SHOW MP	プロセッサ数を表示(マルチプロセッサプラットフォーム)
PNP LOGO	PnPロゴを表示
ONBD IO	オンボードIOデバイスを初期化
EN SETUP	Setupユーティリティに入ることを許可
MSINSTAL	PS/2マウスを初期化
CHK ACPI	機能コール：INT 15h ax=E820hに対するメモリサイズ情報を作成
EN CACHE	L2キャッシュをオンにする
SET CHIP	Setup及びAuto-configurationテーブルに記載されている項目に従ってチップセットレジスタをプログラム
AUTO CFG	デバイスにリソースを割り当てる
INIT FDC	1.フロッピーコントローラを初期化 2. 40:hardwareのフロッピー関連フィールドをセットアップ
DET IDE	HDD、LS120、ZIP、CDROMなど全てのIDEデバイスを検出し、インストールする
COM/LPT	シリアルポート及びパラレルポートを検出
DET FPU	コプロセッサを検出し、インストール
CPU CHG	CPUの変更があった場合に、メッセージを表示
EZ FLASH	EZ Flashの実行
CPR FAIL	CPRのエラー
FAN FAIL	ファンエラー
UCODEERR	UCODEのエラー
FLOPYERR	フロッピーのエラー
KB ERROR	キーボードのエラー
HD ERR	HDDのエラー
CMOS ERR	CMOSのエラー
MS ERROR	マウスエラー
SMARTERR	HDDスマート機能のエラー
HM ERROR	ハードモニターのエラー
AINETERR	AI NETのエラー
CASEOPEN	シャーシオープンセンサーがシャーシの開閉を検出
PASSWORD	EPAまたはカスタマイズロゴをクリア 1. チップセット電力管理フックを呼び出す 2. EPAロゴ(フルスクリーンロゴでない)に使用されたテキストを回復 3. パスワードが設定されている場合、パスワードを要求

USB FINAL	PnP ブートデバイスを初期化 1. USB 最終初期化 2. NET PC:SYSID 構造を構築 3. 画面をテキストモードに戻す 4. ACPI テーブルをメモリの先頭にセットアップする 5. ISA アダプタ ROMを呼び出す 6. IRQをPCI デバイスに割り当てる 7. APMを初期化する 8. IRQのノイズをクリアする
INIT ROM	デバイスオプションROMの初期化
NUM LOCK	1. 夏時間をプログラムする 2. キーボード LED 及びキーリピート速度を更新する
UPDT DMI	1. MP テーブルを構築する 2. ESCDを構築し、更新する 3. CMOS Century を20h または19h に設定する 4. CMOS 時間をDOS タイムチェックにロードする 5. MSIRQ ルーチンテーブルを構築する
INT 19H	ブート試行 (INT 19h)